

ステータスマニターセンターソフト

品番 STC-9503 Ver.1.4

取扱説明書

**DXアンテナ株式会社**

このたびはDXアンテナ製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。  
DXアンテナの製品を正しく理解し、ご使用いただくために、必ずこの取扱説明書をよく  
お読みください。  
お読みになった後は、いつでも見られるところに必ず保管してください。

### 安全上のご注意

- 本製品のCD-ROMはパソコン用です。AV機器では絶対に使用しないでください。大音量により難聴になったりスピーカを破損したりするおそれがあります。
- 本製品のCD-ROMを衝撃、振動の加わる場所で使用、保存することは避けてください。
- 本製品のCD-ROMをほこり、湿気の多い場所で使用、保存することは避けてください。
- 本製品のCD-ROMを高温や低温の場所、また温度変化の激しい場所で保存することは避けてください。
- 本製品のソフトを改変して使用した場合に発生した事故や損害に対しては、当社は一切の責任を負いません。
- お客様の誤った操作に起因する事故発生や損害に対しては、当社は一切の責任を負いません。

### [ ご注意 ]

本書の内容の全部、または一部を無断で転載することは禁止されています。  
本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。  
本書中に記載されている会社名、製品名等は一般に各社の商標または登録商標です。

## 目次

—	<a href="#">はじめにお読みください</a> .....	7
(1)	<a href="#">概要</a> .....	7
(2)	<a href="#">特長</a> .....	7
(3)	<a href="#">システム構成</a> .....	8
(4)	<a href="#">規格</a> .....	9
(5)	<a href="#">データベースのバックアップについて</a> .....	10
—	<a href="#">セットアップ</a> .....	11
I.	<a href="#">セットアップ</a> .....	11
(1)	<a href="#">セットアップの概要</a> .....	11
(2)	<a href="#">ソフトウェア構成</a> .....	11
(3)	<a href="#">その他セットアップに必要なファイル</a> .....	12
(4)	<a href="#">運用形態によるセットアップの違い</a> .....	12
(5)	<a href="#">ご注意</a> .....	13
(6)	<a href="#">サブセンターPCのセットアップ手順</a> .....	14
(7)	<a href="#">センターPCのセットアップ手順</a> .....	14
II.	<a href="#">セットアップする</a> .....	15
(1)	<a href="#">ドライブをNTFSに変換する</a> .....	15
(2)	<a href="#">Internet Information Service 5のセットアップ</a> .....	15
(3)	<a href="#">Windows2000 ServicePack 4のインストール</a> .....	16
(4)	<a href="#">MSDEをインストールする</a> .....	16
(5)	<a href="#">SQL Server 7.0 Service Pack 4のインストール</a> .....	16
(6)	<a href="#">ステータスマニタセンターソフトのセットアップ(サブセンター)</a> .....	18
(7)	<a href="#">ステータスマニタセンターソフトのセットアップ(センター)</a> .....	22
(8)	<a href="#">IPアドレスの設定</a> .....	23
(9)	<a href="#">共有フォルダを作成する</a> .....	24
(10)	<a href="#">共有フォルダに接続する</a> .....	25
III.	<a href="#">セットアップが完了したら</a> .....	26
(1)	<a href="#">セットアップが完了したら</a> .....	26
IV.	<a href="#">バージョンアップ</a> .....	27
(1)	<a href="#">概要</a> .....	27
(2)	<a href="#">ご注意</a> .....	27
(3)	<a href="#">バージョンアップする</a> .....	27
—	<a href="#">サブセンターの登録</a> .....	30
I.	<a href="#">概要</a> .....	30
(1)	<a href="#">概要</a> .....	30
II.	<a href="#">起動と終了</a> .....	30
(1)	<a href="#">起動する</a> .....	30
(2)	<a href="#">終了する</a> .....	30
III.	<a href="#">サーバーに接続する</a> .....	31
(1)	<a href="#">サーバーに接続する</a> .....	31
IV.	<a href="#">サブセンターを追加する、名称を変更する、削除する、または保存する</a> .....	32
(1)	<a href="#">サブセンターを追加する</a> .....	32
(2)	<a href="#">サブセンターの名称を変更する</a> .....	33
(3)	<a href="#">サブセンターを削除する</a> .....	33

(4)	登録内容を保存する	34
—	系統図作成	35
I.	概要	35
(1)	概要	35
(2)	操作概要	36
(3)	系統図の作成手順	37
II.	ご注意	38
(1)	系統図を作成する前に	38
III.	起動と終了	38
(1)	起動する	38
(2)	終了する	39
IV.	系統図を開く、作成する、または保存する	40
(1)	ファイル操作について	40
(2)	系統図を新しく作成する	40
(3)	既存の系統図を編集する・系統図を開く	40
(4)	系統図を削除する	42
(5)	系統図を保存する	42
(6)	系統図を上書き保存する	43
(7)	系統図に新しいノード名称を付けて保存する	44
(8)	系統図のノード名称を変更する	45
(9)	既存の系統図を削除する	46
(10)	閉じる	48
(11)	これ以上ウィンドウを作成できません	49
(12)	すでに開いているノード名称は開けません	49
(13)	指定されたノード名称は存在しません	50
(14)	読み出したデータには、アドレスが重複している機器が存在しています	50
(15)	ノード名称が入力されていません	50
(16)	すでにノード名称が存在しています	51
(17)	開いているノードは削除できません	51
(18)	指定したノード名称は既に使われています	51
(19)	登録してあるアドレスが他のノードにも存在しています	52
V.	系統図を描画する	53
(1)	系統図を入力する位置について	53
(2)	機器を選択して入力する	53
(3)	線分を描画する	56
(4)	直角に曲がった線分を描画する	56
(5)	端点を検出して線分を描画する	58
VI.	系統図を編集する	59
(1)	機器を選択する	59
(2)	線分を選択する	60
(3)	範囲を指定して機器・線分を選択する	61
(4)	系統図の選択を解除する	62
(5)	系統図を切り取る	62
(6)	系統図をコピーする	63
(7)	系統図を貼り付ける	64
(8)	系統図を削除する	65
(9)	系統図を移動する	65
(10)	線分の長さを変更する	67

(1 1)	系統図を再描画する	67
(1 2)	系統図を拡大する	67
(1 3)	系統図を縮小する	68
(1 4)	系統図ウィンドウの領域を変更する	68
<b>VII.</b>	<b>グループを設定する</b>	69
(1)	グループを設定する	69
(2)	グループ名を新しく追加する	69
(3)	グループ名を削除する	70
(4)	グループ名を変更する	72
<b>VIII.</b>	<b>機器構成を設定する</b>	73
(1)	機器構成を設定する	73
(2)	機器情報を設定する(ステータスマニタユニット付き)	74
(3)	機器情報を設定する(ステータスマニタユニット無し)	76
(4)	補正值を設定する	78
(5)	基準値を設定する	79
(6)	正常範囲を設定する	80
(7)	ポーリング情報を設定する	81
(8)	その他の情報を設定する	82
<b>IX.</b>	<b>系統図をバックアップする</b>	83
(1)	系統図をバックアップする	83
<b>X.</b>	<b>系統図を復旧する</b>	84
(1)	系統図を復旧する	84
<b>XI.</b>	<b>系統図をインポートする</b>	86
(1)	系統図をインポートする	86
<b>XII.</b>	<b>ポーリングデータを作成する</b>	88
(1)	ポーリングデータを作成する	88
(2)	レポートをチェックする	89
<b>XIII.</b>	<b>系統図を印刷する</b>	90
(1)	プリンタを設定する	90
(2)	印刷する	91
(3)	印刷例	93
<b>XIV.</b>	<b>ウィンドウを操作する</b>	94
(1)	上下に並べて表示	94
(2)	左右に並べて表示	94
(3)	重ねて表示	94
(4)	アイコンの整列	95
(5)	開いている系統図ウィンドウを選択する	95
<b>XV.</b>	<b>ヘルプ</b>	96
(1)	ヘルプを表示する	96
(2)	バージョン情報を表示する	96
—	通信サーバー	97
<b>I.</b>	<b>通信サーバーについて</b>	97
(1)	概要	97
<b>II.</b>	<b>ご注意</b>	97
(1)	通信サーバーを起動する前に	97
<b>III.</b>	<b>起動と終了</b>	98
(1)	起動する	98
(2)	終了する	99

IV.	<a href="#">通信回線の設定をする</a>	101
(1)	<a href="#">回線の設定をする</a>	101
(2)	<a href="#">通信ポートの設定をする</a>	101
(3)	<a href="#">エラー検出の設定をする</a>	102
(4)	<a href="#">送信件数の設定をする</a>	102
(5)	<a href="#">エラー発生時ビープ音を出力する</a>	103
(6)	<a href="#">経歴の保存日数を設定する</a>	103
(7)	<a href="#">エラー発生時の送信先、送信内容を設定する</a>	104
(8)	<a href="#">メール送信時の情報を設定する</a>	106
(9)	<a href="#">ポケベル(クイックキャスト)送信方法を設定する</a>	107
(10)	<a href="#">ショートメール送信方法を設定する</a>	108
(11)	<a href="#">モデムを設定する</a>	108
(12)	<a href="#">電源監視を設定する</a>	109
V.	<a href="#">通信状況</a>	110
(1)	<a href="#">通信状況ウィンドウを表示する</a>	110
VI.	<a href="#">データベースのバックアップ</a>	111
(1)	<a href="#">データベースのバックアップについて</a>	111
VII.	<a href="#">通信サーバーの異常終了時について</a>	112
(1)	<a href="#">通信サーバーの異常終了時について</a>	112
VIII.	<a href="#">ヘルプ</a>	114
(1)	<a href="#">バージョン情報を表示する</a>	114
(2)	<a href="#">ヘルプを表示する</a>	114
—	<a href="#">ステータスマニタ</a>	115
I.	<a href="#">ステータスマニタについて</a>	115
(1)	<a href="#">概要</a>	115
II.	<a href="#">ご注意</a>	115
(1)	<a href="#">ステータスマニタを起動する前に</a>	115
III.	<a href="#">起動と終了</a>	116
(1)	<a href="#">起動する</a>	116
(2)	<a href="#">終了する</a>	116
IV.	<a href="#">サーバーの接続と切断</a>	117
(1)	<a href="#">接続する</a>	117
(2)	<a href="#">切断する</a>	118
V.	<a href="#">系統図</a>	119
(1)	<a href="#">系統図を表示する</a>	119
(2)	<a href="#">系統図の表示内容について</a>	120
(3)	<a href="#">系統図を拡大・縮小する</a>	121
(4)	<a href="#">系統図内の機器 とアドレス の表示を切り替える</a>	121
(5)	<a href="#">系統図を再描画する</a>	122
(6)	<a href="#">系統図を印刷する</a>	122
VI.	<a href="#">機器個別情報</a>	123
(1)	<a href="#">機器個別情報を表示する</a>	123
(2)	<a href="#">機器情報を表示する</a>	124
(3)	<a href="#">制御情報を表示する</a>	125
(4)	<a href="#">制御を実行する</a>	127
(5)	<a href="#">監視 [ 2 値 ] を表示する</a>	128
(6)	<a href="#">監視 [ 数値 ] を表示する</a>	131
(7)	<a href="#">機器経歴を表示する</a>	133

(8)	<a href="#">ステータス経歴を表示する</a>	135
(9)	<a href="#">メモ、設置場所を入力する</a>	136
(10)	<a href="#">通信関係の設定を行う</a>	137
(11)	<a href="#">監視[数値]項目の内容を設定する</a>	139
<b>VII.</b>	<b><a href="#">伝送確認</a></b>	<b>140</b>
(1)	<a href="#">伝送確認を表示する</a>	140
(2)	<a href="#">伝送を確認する</a>	141
(3)	<a href="#">伝送確認・[情報]タブについて</a>	143
(4)	<a href="#">伝送確認・[制御]タブについて</a>	143
(5)	<a href="#">伝送確認・[監視[2値]]タブについて</a>	144
(6)	<a href="#">伝送確認・[監視[数値]]タブについて</a>	145
<b>VIII.</b>	<b><a href="#">機器一覧</a></b>	<b>147</b>
(1)	<a href="#">機器一覧を表示する</a>	147
(2)	<a href="#">機器一覧・[情報]タブについて</a>	148
(3)	<a href="#">機器一覧・[制御]タブについて</a>	150
(4)	<a href="#">機器一覧・[監視[2値]]タブについて</a>	152
(5)	<a href="#">機器一覧・[監視[数値]]タブについて</a>	153
(6)	<a href="#">機器一覧・[監視[数値]]グラフタブについて</a>	155
<b>IX.</b>	<b><a href="#">エラー一覧</a></b>	<b>156</b>
(1)	<a href="#">エラー一覧を表示する</a>	156
(2)	<a href="#">エラー一覧について</a>	157
<b>X.</b>	<b><a href="#">ノード一覧</a></b>	<b>159</b>
(1)	<a href="#">ノード一覧を表示する</a>	159
(2)	<a href="#">ノード一覧・[情報1]タブについて</a>	160
(3)	<a href="#">ノード一覧・[情報2]タブについて</a>	161
(4)	<a href="#">ノード一覧・[制御]タブについて</a>	163
(5)	<a href="#">ノード一覧・[監視[2値]]タブについて</a>	164
(6)	<a href="#">ノード一覧・[監視[数値]]タブについて</a>	166
<b>XI.</b>	<b><a href="#">経歴</a></b>	<b>168</b>
(1)	<a href="#">経歴を表示する</a>	168
(2)	<a href="#">経歴について</a>	168
(3)	<a href="#">経歴を検索する</a>	170
<b>XII.</b>	<b><a href="#">オプション</a></b>	<b>171</b>
(1)	<a href="#">オプション設定を表示する</a>	171
(2)	<a href="#">系統図内の機器とアドレスの表示を切り換える</a>	172
(3)	<a href="#">機器のプロパティで表示される経歴件数を設定する</a>	173
(4)	<a href="#">制御で制御ボタンを有効にする</a>	173
(5)	<a href="#">経歴ウィンドウでの検索件数を設定する</a>	173
<b>XIII.</b>	<b><a href="#">ヘルプ</a></b>	<b>174</b>
(1)	<a href="#">ヘルプを表示する</a>	174
(2)	<a href="#">バージョン情報を表示する</a>	174
<b>XIV.</b>	<b><a href="#">ステータスマニタ・エラーメッセージ</a></b>	<b>174</b>
(1)	<a href="#">これ以上ウィンドウを開くことができません</a>	174
(2)	<a href="#">指定したノード名称は存在しません</a>	174
—	<a href="#">経歴検索</a>	175
<b>I.</b>	<b>概要</b>	<b>175</b>
(1)	<a href="#">経歴検索について</a>	175
(2)	<a href="#">検索の基本操作</a>	175

II.	<a href="#">操作の詳細</a>	176
(1)	<a href="#">サーバー接続</a>	176
(2)	<a href="#">検索の条件</a>	177
(3)	<a href="#">検索の開始</a>	178
(4)	<a href="#">データの並べ替え</a>	178
(5)	<a href="#">ファイル操作</a>	178
(6)	<a href="#">印刷</a>	180
(7)	<a href="#">オプション</a>	183
(8)	<a href="#">表示</a>	184
(9)	<a href="#">検索条件の設定例</a>	184
	<a href="#">データ伝送確認</a>	185
I.	<a href="#">概要</a>	185
(1)	<a href="#">注意</a>	185
II.	<a href="#">使用方法</a>	186
(1)	<a href="#">起動する</a>	186
(2)	<a href="#">終了する</a>	186
(3)	<a href="#">回線の設定</a>	186
(4)	<a href="#">アドレスを設定する</a>	187
(5)	<a href="#">データフォーマットを選択する</a>	188
(6)	<a href="#">リトライ回数を設定する</a>	188
(7)	<a href="#">通信エラー発生でブザーを鳴らす</a>	189
(8)	<a href="#">上り分岐増幅部制御を設定する</a>	189
(9)	<a href="#">上り幹線増幅部制御を設定する</a>	190
(10)	<a href="#">通信を開始する</a>	190
(11)	<a href="#">通信を停止する</a>	191
(12)	<a href="#">通信状況ウィンドウを表示する</a>	191
(13)	<a href="#">通信の状況を確認する</a>	192



## はじめにお読みください

### (1)概要

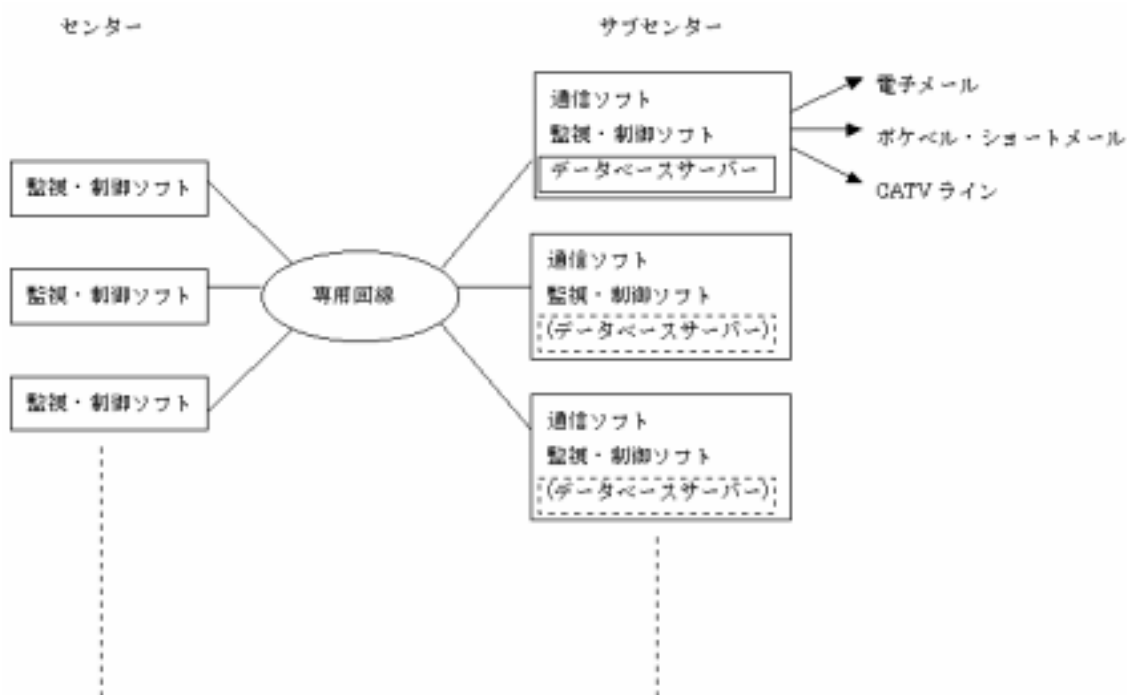
ステータスマニタセンターソフトは、双方向CATV施設での増幅器などの運用状態を常時監視・制御・データ蓄積するソフトウェアです。

### (2)特長

1. 770MHzおよび450MHzの双方向CATVシステムに対応しています。  
双方向光送受信機・双方向幹線増幅器・双方向幹線分岐増幅器・双方向延長増幅器、それぞれの監視・制御・データ蓄積が可能です。
2. C-COR社FlexNetノードアンプに対応しています。  
ノードアンプの監視・制御・データ蓄積が可能です。
3. 日本CATV技術協会規格の標準仕様にも対応しています。  
独自のコマンドに加え、標準仕様に採用されているコマンドもサポートしていますので、標準仕様に準拠したCATV機器の監視・制御・データ蓄積も可能です。
4. アンプの異常発生、復旧の情報をポケベル<sup>1</sup>、携帯電話(ショートメール<sup>2</sup>)、電子メールに通報が可能です。
5. サーバー&クライアント方式で複数(推奨5台以内)のクライアントを接続して、監視制御情報を共有することが可能です。
6. グラフィック・ユーザ・インタフェースの採用で見やすく操作性に優れたソフトウェアを実現しています。また、複数のウィンドウを開いて操作することができます。  
  
1・・・NTTドコモのネクストサービスにのみ対応しています。  
2・・・NTTドコモのショートメールサービスにのみ対応しています。

### (3)システム構成

#### [ 概観図 ]



本ソフトのシステム構成は[センター]、[サブセンター]、および[データベースサーバー]で構成されています。  
それぞれ、次のような運用形態をあらわします。

#### [ センター ]

サブセンターと専用回線を通じてデータ通信を行い、CATV 施設の機器を遠隔で監視、制御することができます。  
複数の場所に設置することができます。

#### [ サブセンター ]

R F モデムを通じて CATV 施設と接続されており、機器の監視や、制御、各種設定などを管理します。  
施設ごとに複数設置することができます。  
それぞれのサブセンターの名称をデータベースサーバーに登録して運用されます。

#### [ データベースサーバー ]

CATV 施設での運用状態の監視/制御データや、各種設定状態を蓄積、管理します。  
サブセンターのパソコン内に設置します。  
最低 1 箇所のサブセンターに設置する必要がありますが、CATV 施設の規模に応じて複数設置することができます。  
1 箇所のデータベースサーバーには 5 箇所程度のサブセンターを登録することができますが、それ以上登録すると処理能力が低下します。

#### 注意

1 つの監視・制御ソフトで監視・制御できるサブセンターは 1 つです。同時に複数のサブセンターとは通信できません。

## (4)規格

項目	規格
最大管理ユニット数	9999
制御・監視項目 管理項目	機器品番、STM品番、通信形式、施設電源 STMアドレス、機器、シリアル、PS 電柱、グループ名、EQ、BON、ATT
最大制御項目数	2値情報：8
最大監視項目数	2値情報：16、数値情報：8
機能	系統図表示、機器個別監視・制御、遠隔監視・制御、ポケベルへの発信、携帯電話への発信、エラー・監視・制御・経歴一覧表 450/770MHzシステム対応
対応ユニット	STK-101～STK-112
対応モデム	DRM-9002、DRM-103
動作環境（推奨）	<p>コンピュータ本体 Pentium / 500MHz以上を 搭載するパーソナルコンピュータ (PC/AT互換機)</p> <p>基本ソフト(OS) Windows 2000 Pro (SP2) 日本語版 (IE5.00SP2)以降</p> <p>メモリ 128MB以上</p> <p>ハードディスク インストールには500MB以上の空き 容量が必要</p> <p>ディスク装置 フロッピーディスクドライブ1基 CD-ROMドライブ1基</p> <p>シリアルポート 2ポート 1</p> <p>電話モデム 1ポート(内蔵タイプ) 1</p> <p>ネットワークポート 100BASE-TX 1ポート</p> <p>ディスプレイ 本体に接続可能で解像度が 800×600以上のもの</p> <p>その他 本体に接続可能なキーボード、マウス およびプリンタ OSに準じた日本語入力システム</p>
パッケージ内容	ディスク1枚(CDのみ) 取扱説明書1部

1 遠隔監視・制御側 PCには必要なし

#### (5)データベースのバックアップについて

- データベースのバックアップは通信サーバーが自動的に行います。
- バックアップするタイミングは、コンピュータの日付変更時です。
- 日付の変更時にバックアップファイルを上書きするので、前日データのみ保存されます。
- 以前の状態に戻すためには普段からユーザーが手動でバックアップを行い、バックアップファイルのコピーを別の場所に保存しておく必要があります。

#### [手動でバックアップを行うには]

1. [スタートボタン]をクリックし、[プログラム][ステータスマニタセンターソフト]をポイントして、[データベースのバックアップ]をクリックします。
2. バッチファイルが起動し、バックアップファイルがCドライブのルート（C:¥）に保存されます。
3. 次の3つのファイルのコピーをとり、別の場所に保存します。
  - stc95sq1.bak
  - stc95sq2.bak
  - stc95sq3.bak

#### [リストアを行うには]

1. ステータスマニタセンターソフトのすべてのプログラムを終了します。
2. バックアップ作業で保存した3つのファイルをCドライブのルート（C:¥）に上書きコピーします。
3. ステータスマニタセンターソフトがあるフォルダ（デフォルトの設定でインストールした場合はC:¥Program Files¥STC9506）内にある[stc95res.bat]を実行します。

注意 リストア作業を行うと、それまでに記録されたデータベースの内容がすべて上書きされます。緊急時以外はこの操作を絶対行わないでください。

# セットアップ

## 1. セットアップ

### (1) セットアップの概要

セットアップでは次のソフトウェアをインストールします。

- ステータスマニタ
- 通信サーバー
- サブセンターの登録
- 系統図作成
- 経歴検索
- データ伝送確認
- データベースサーバーの設定など

#### [ データベースサーバーについて ]

- データベースサーバーは、運用状態の監視/制御データや、各種設定状態を蓄積、管理するソフトウェアです。
- データベースサーバーに、セットアップしたコンピュータの施設名（サブセンター名）を登録して運用します。

### (2) ソフトウェア構成

#### [ ステータスマニタセンターソフト ]

ステータスマニタセンターソフトは、次の6種類のソフトウェアから構成されています。

##### ステータスマニタ

ステータスマニタソフトは、機器に内蔵されたステータスマニタユニットと通信することで、双方向CATV施設での機器の運用状態を監視・制御します。

##### 通信サーバー

通信サーバーは、RFモデムを通じて実際の機器とデータの通信を行うソフトで、ポケベルの送信やステータスマニタソフトとの通信などを行います。

##### サブセンターの登録

サブセンターの登録ソフトは、施設の名称を登録するソフトです。データベースに系統図や機器のデータを登録できるようにします。

##### 系統図作成

系統図作成ソフトは、系統図の登録や機器の個別設定をするソフトです。

##### 経歴検索

経歴検索ソフトは、ステータスマニタセンターソフトの経歴情報を記録したデータベースから任意の条件でデータを検索し、表示および印刷するソフトです。

#### データ伝送確認

データ伝送確認ソフトは、ステータスマニタユニットとデータ伝送が正常に動作しているかを確認するソフトです。

#### (3) その他セットアップに必要なファイル

ステータスマニタセンターソフトをセットアップする前に、以下のファイルをセットアップしておく必要があります。あらかじめ用意しておいてください。

- Internet Information Service 5 ... Windows2000 の CD に添付
- Windows2000 Service Pack 4 ... ダウンロードまたは雑誌付録等の CD
- ドライブの NTFS 化 ... Windows2000 本体に付属
- MSDE ... 本製品の CD 内に添付
- SQL Server 7.0 Service Pack 4 ... ダウンロードまたは雑誌付録等の CD

#### (4) 運用形態によるセットアップの違い

運用形態によってセットアップするソフトウェアが以下のように異なります。それぞれのセットアップ手順にしたがって、ソフトウェアをインストールしてください。

監視 / 制御、および各設定を行うコンピュータ (サブセンターまたはサブセーターが無い施設)

R F モデムに直接接続しており、各設定などを行うコンピュータには、次のソフトウェアをインストールします。  
データベースサーバーを設置する場合は、さらにデータベースサーバーの設定を行います。

- ステータスマニタ
- 通信サーバー
- サブセンターの登録
- 系統図作成
- 経歴検索
- データ伝送確認
- データベースサーバーの設定など (データベースサーバーを設置する場合)

監視 / 制御のみ行うコンピュータ (遠隔 PC)

R F モデムには接続されておらず、遠隔監視と制御のみを行うコンピュータには、次のソフトウェアをインストールします。

- ステータスマニタ
- 経歴検索

#### [ データベースサーバーについて ]

- データベースサーバーは、運用状態の監視 / 制御データや、各種設定状態を蓄積、管理するソフトウェアです。
- データベースサーバーはサブセンター用の PC にインストールします。
- サブセンターのうち最低 1 箇所には設置する必要があります。また、複数のサブセンターに設置することも可能です。

- データベースサーバーに、それぞれのサブセンターの名称をサブセンターの登録ソフトで登録して運用します。
- 1箇所のデータベースサーバーには5箇所程度のサブセンターを登録することができますが、それ以上登録すると処理能力が低下します。

#### (5)ご注意

次の項目に注意してセットアップを開始してください。

1. ステータスマニタセンターソフトは、Windows2000 専用です。他のOSにセットアップしないでください。
2. ステータスマニタセンターソフトのセットアップおよび動作時は Administrator でログインしてください。
3. ステータスマニタセンターソフトをセットアップするときは、コンピュータに他のアプリケーションがセットアップされていないことを確認してから開始してください。
4. ステータスマニタセンターソフトをセットアップしたコンピュータに他のアプリケーションをセットアップしないでください。
5. それぞれのソフトのセットアッププログラムが開始されたら、途中で中止せずに最後までセットアップしてください。

(途中でセットアップを中止することはできますが、ステータスマニタセンターソフトを安全に動作させるため、セットアップを完了してから削除するようにしてください。)

6. それぞれのソフトはすべてデフォルトフォルダ(ディレクトリ)にセットアップしてください。
7. ステータスマニタセンターソフトをセットアップするディレクトリの空き容量は500MB以上必要です。空き容量を確保してからセットアップを開始してください。
8. 本システムのネットワーク環境は、それぞれのコンピュータのIPアドレスを固定のプライベートアドレスで管理する必要があります。
9. インターネットへの接続は絶対に行わないでください。
10. セットアップを完了したサブセンターPCのコンピュータ名は絶対に変更しないでください。

#### (6)サブセンターPCのセットアップ手順

次の手順でセットアップを行ってください。

詳細は、[セットアップする]の項のそれぞれのセットアップ手順にしたがってください。

##### [手順]

- データベースサーバーを設置する場合
  1. ドライブのファイルシステムが NTFS でない場合 (FAT32 など) は、NTFS に変換する。
  2. Internet Information Service 5 をインストールする。
  3. Windows2000 Service Pack 4 をインストールする。
  4. MSDE をインストールする。
  5. SQL Server 7.0 Service Pack 4 をインストールする。
  6. サブセンターPC用のステータスマニタセンターソフトをセットアップする。
  7. IPアドレスを固定のプライベートアドレスに設定する。
  8. 共有フォルダを作成する。
  
- データベースサーバーを設置しない場合
  1. ドライブのファイルシステムが NTFS でない場合 (FAT32 など) は、NTFS に変換する。
  2. Windows2000 Service Pack 4 をインストールする。
  3. サブセンターPC用のステータスマニタセンターソフトをセットアップする。
  4. IPアドレスを固定のプライベートアドレスに設定する。
  5. データベースサーバーを設置したサブセンターPCの共有フォルダに接続する。

#### (7)センターPCのセットアップ手順

次の手順でセットアップを行ってください。

詳細は、[セットアップする]の項のそれぞれのセットアップ手順にしたがってください。

##### [手順]

1. ドライブのファイルシステムが NTFS でない場合 (FAT32 など) は、NTFS に変換する。
2. Windows2000 Service Pack 4 をインストールする。
3. センターPC用のステータスマニタセンターソフトをセットアップする。
4. IPアドレスを固定のプライベートアドレスに設定する。
5. データベースサーバーを設置したサブセンターPCの共有フォルダに接続する。



## 11. セットアップする

### (1) ドライブを NTFS に変換する

#### [操作方法]

1. [スタート]ボタンをクリックし[プログラム][アクセサリ]をポイントして[コマンドプロンプト]をクリックします。
2. 下記のとおり入力し、[Enter]キーを押します。(全て半角)

```
C:¥>convert c:/fs:ntfs
```

3. 次のように表示されるので[Y]を入力し、[Enter]キーを押します。

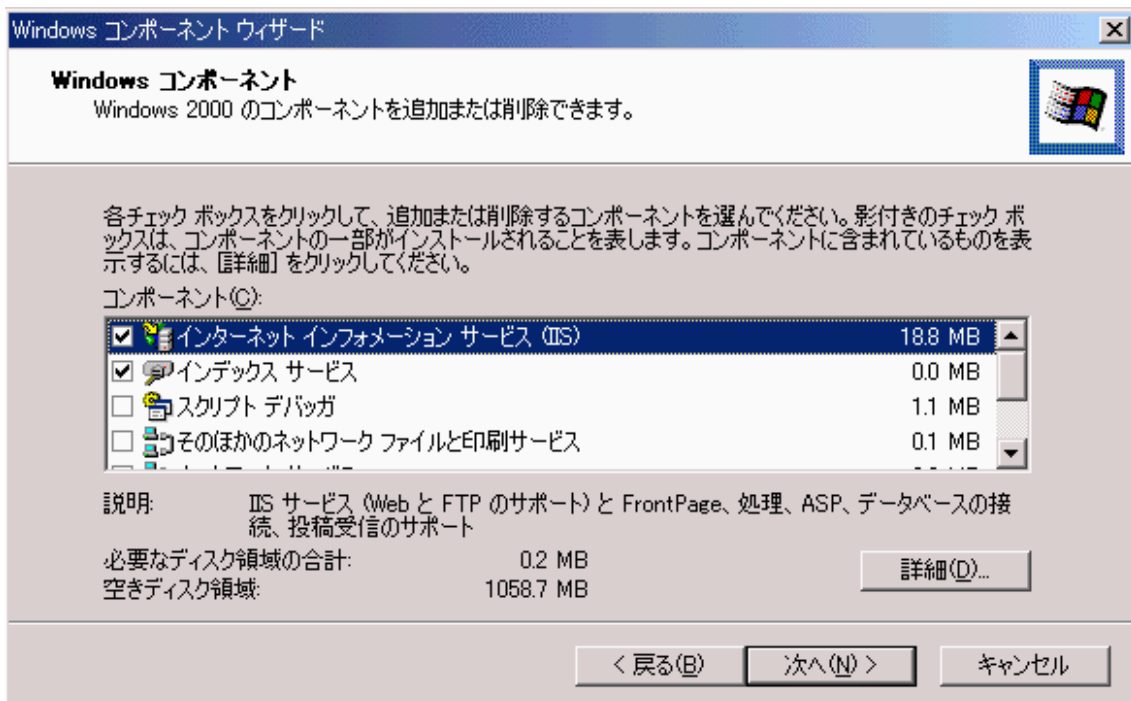
ファイルシステムの種類はFATです。

CONVERT で C : ドライブへの排他的アクセスを実行できないため、現時点では変換できません。次のシステム再起動時にドライブの変換をスケジュールしますか (Y/N)

### (2) Internet Information Service 5 のセットアップ

#### [操作方法]

1. [スタート]ボタンをクリックし[設定]をポイントして[コントロールパネル]をクリックしてください。
2. [アプリケーションの追加と削除]をクリックしてください。
3. [Windows コンポーネントの追加と削除]をクリックし、[インターネットインフォメーションサービス(IIS)]のチェックボックスを[ON]にして次へボタンをクリックしてください。
4. 引き続き画面の指示に従って操作してください。



### (3) Windows2000 ServicePack 4 のインストール

#### [ 操作方法 ]

1. Windows2000 Service Pack 4 のセットアッププログラムを実行してください。
2. メニューにしたがってクリックしていくとセットアップは完了します。
3. 完了後、パソコンを再起動してください。

### (4) MSDE をインストールする

#### [ 操作方法 ]

1. 本製品の CD 内の「MSDE」フォルダにある Setup.bat を実行してください。
2. コマンドプロンプト画面が次のように表示されます。  
セットアップ完了まで数分かかります。しばらくお待ちください。

A screenshot of a Windows command prompt window. The title bar shows the path C:\WINNT\System32\cmd.exe. The command prompt shows the command: Q:¥MSDE>start /wait msdex86.exe -s -a -f1 "sql70ins.iss".

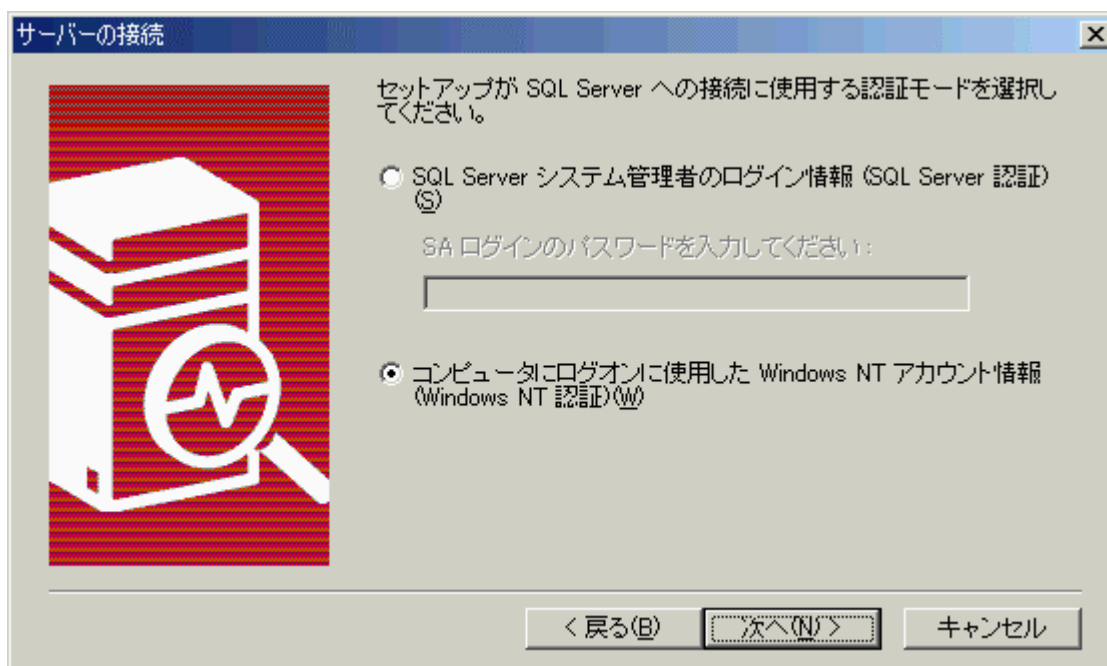
3. セットアップが完了すると、コマンドプロンプト画面が自動的に閉じるので、完了後パソコンを再起動してください。

MSDE のセットアップ以降はコンピュータ名の変更は絶対に行わないでください。

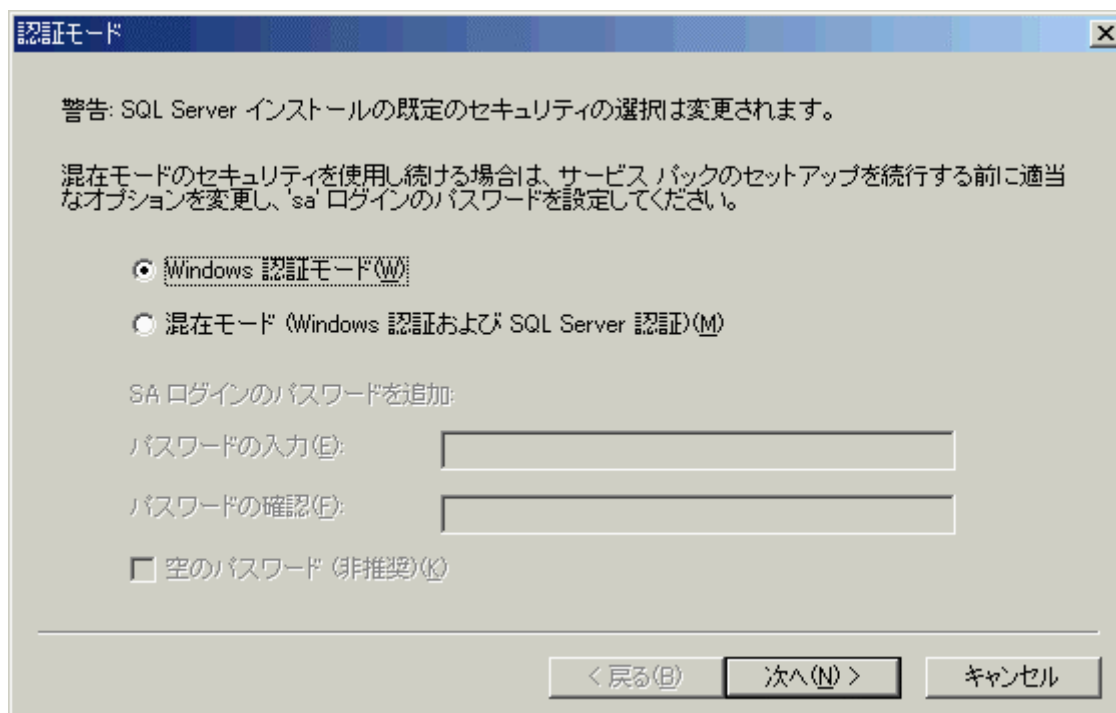
### (5) SQL Server 7.0 Service Pack 4 のインストール

#### [ 操作方法 ]

1. あらかじめ準備しておいた SQL Server 7.0 Service Pack 4 を実行してください。  
(ファイル名 : Jp\_sql70sp4.exe)
2. インストールフォルダを指定する画面が表示されたら、[完了]ボタンをクリックしてください。
3. インストール(解凍先)フォルダにある setup.bat を実行してください
4. SQL サーバーへ接続する認証モードを選択する画面が表示されたら、「コンピュータにログオンに使用した WindowsNT アカウント情報」を選択し、[次へ]ボタンをクリックしてください。



5. 認証モードの設定を選択する画面が表示されたら「Windows 認証モード」を選択し、[次へ]ボタンをクリックしてください。



6. セットアップ完了まで10分以上かかります。しばらくお待ちください。  
完了後、パソコンを再起動してください。

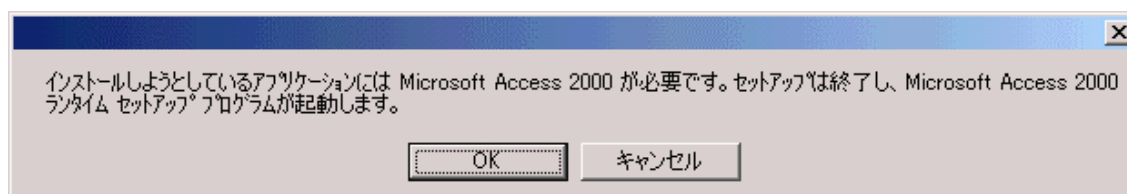
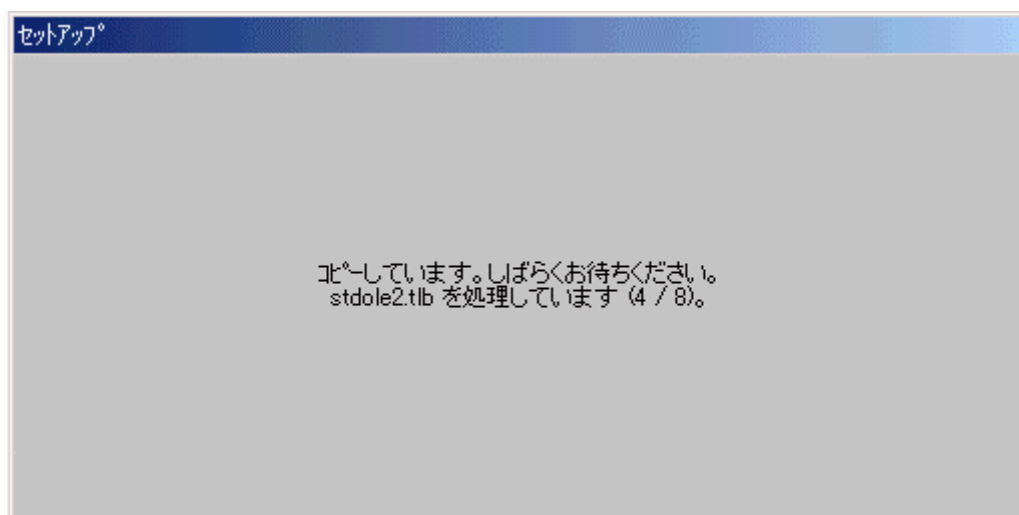
## (6)ステータスマニタセンターソフトのセットアップ(サブセンター)

### [注意]

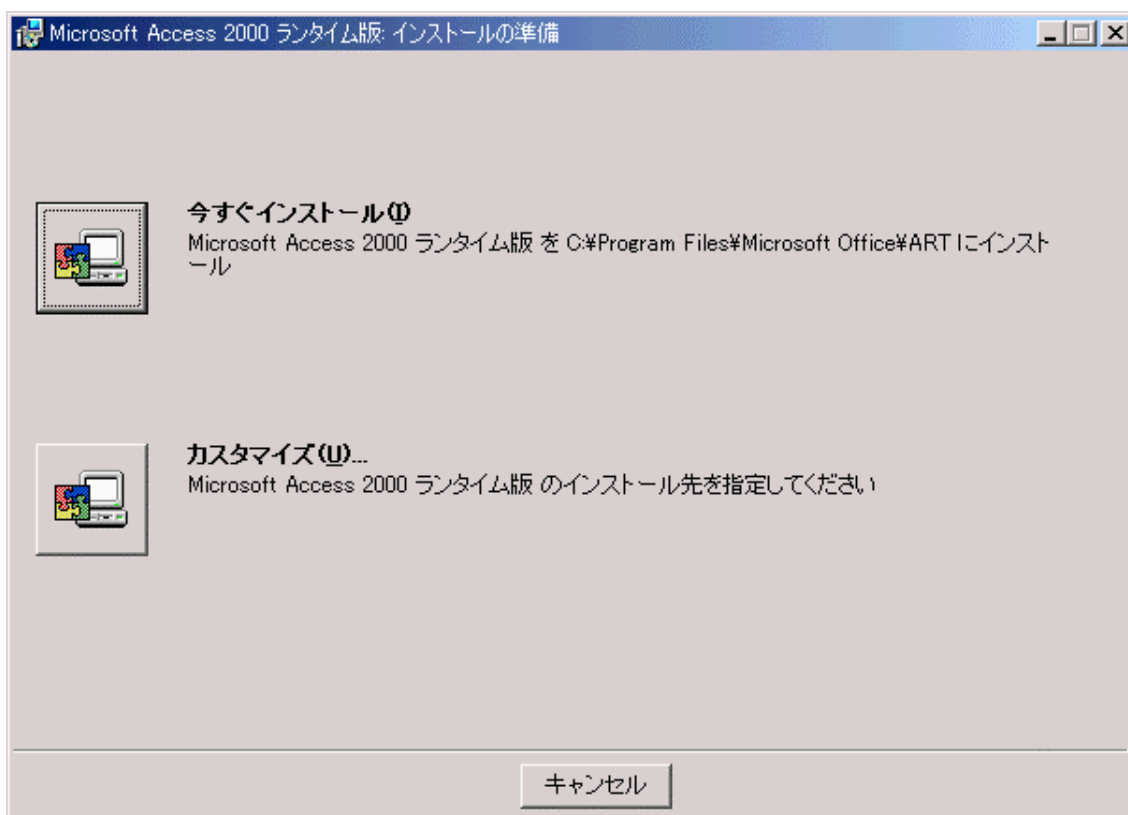
- サブセンターまたはサブセンターの無い施設のコンピュータにセットアップする場合の操作方法です。

### [操作方法]

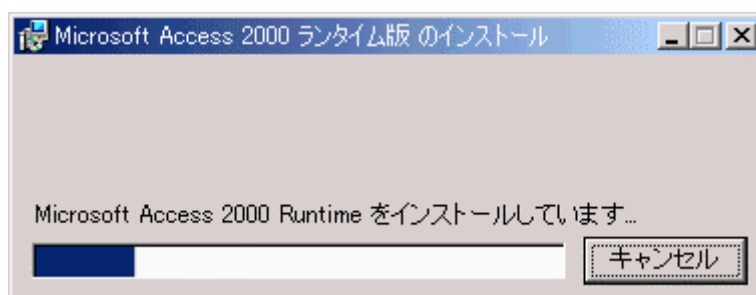
1. ステータスマニタセンターソフトのインストール CD を CD - ROM ドライブにセットすると WEB ブラウザが自動的に起動し、セットアップの説明画面が表示されません。  
起動しないときは、インストール CD 内の [ setup.bat ] をダブルクリックしてください。
2. 表示されている説明をよくお読みになり、サブセンター用の [ セットアップを開始する ] ボタンをクリックします。
3. 次のような画面が表示され、しばらく後に、[Microsoft Access 2000 ランタイム版] をインストールするよう促す画面が表示されます。[OK]をクリックします。



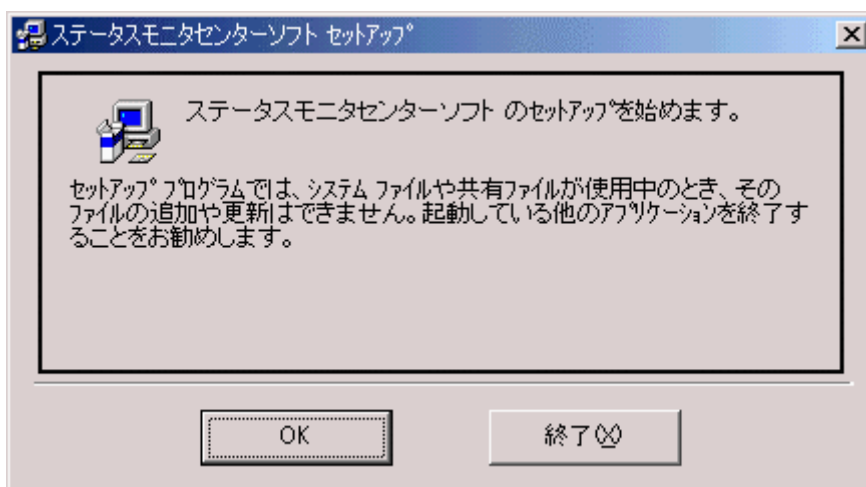
4. [インストールの準備] ダイアログボックスでは [今すぐインストール] ボタンをクリックします。



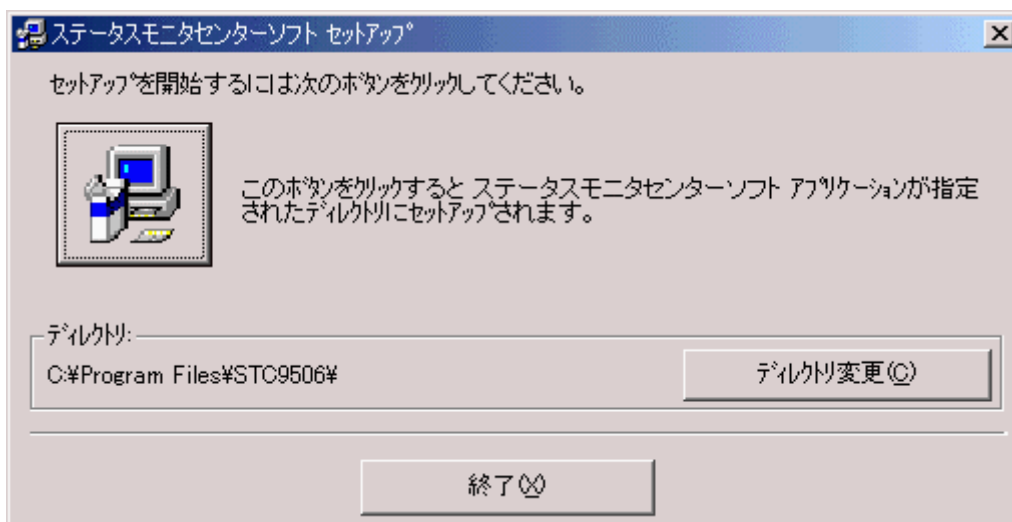
5. メニューの指示通り進んでいくと、[Microsoft Access 2000 ランタイム版]がコンピュータにインストールされ、終了画面が表示されるので[OK]をクリックします。



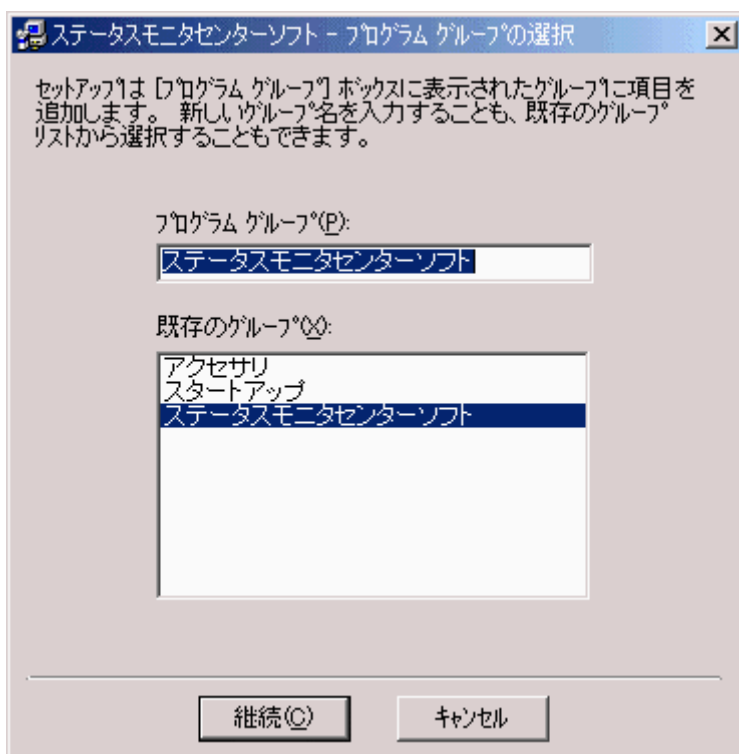
6. コンピュータが自動的に再起動され、起動が終わるとステータスマニタセンターソフトのインストール画面が表示されます。[OK]をクリックします。



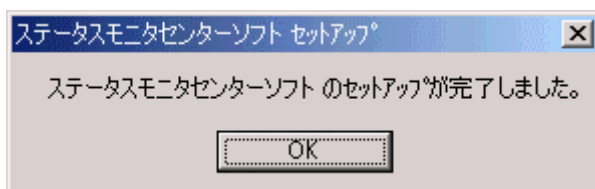
7. セットアップ開始画面が表示され、[開始]ボタンをクリックすると、ステータスマニタセンターソフトのインストールが開始されます。



8. 次にプログラムグループを選択する画面が表示されます。[継続]をクリックします。



9. インストールが完了すると、セットアップの完了画面が表示されるので、[OK]をクリックします。



10. 次にデータベースのコピーが行われます。コピーが終了すると、ステータスマニタセンタースoftwareのセットアップは完了です。

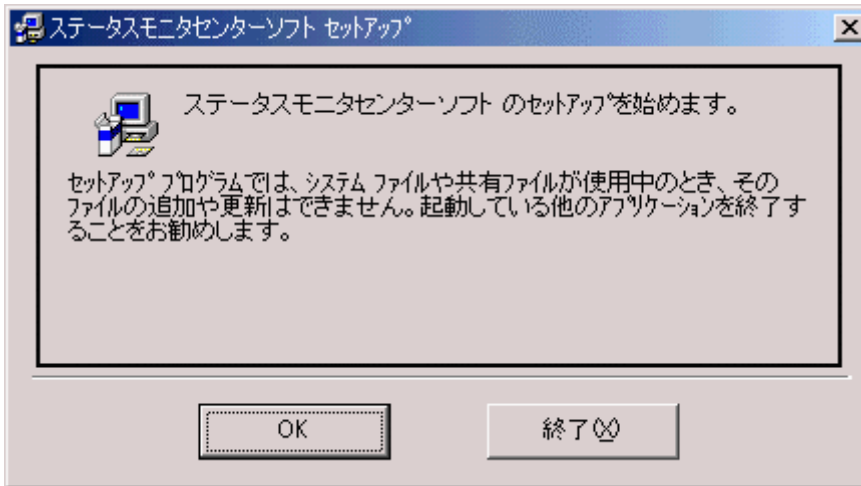
(7) ステータスマニタセンターソフトのセットアップ(センター)

[ 注意 ]

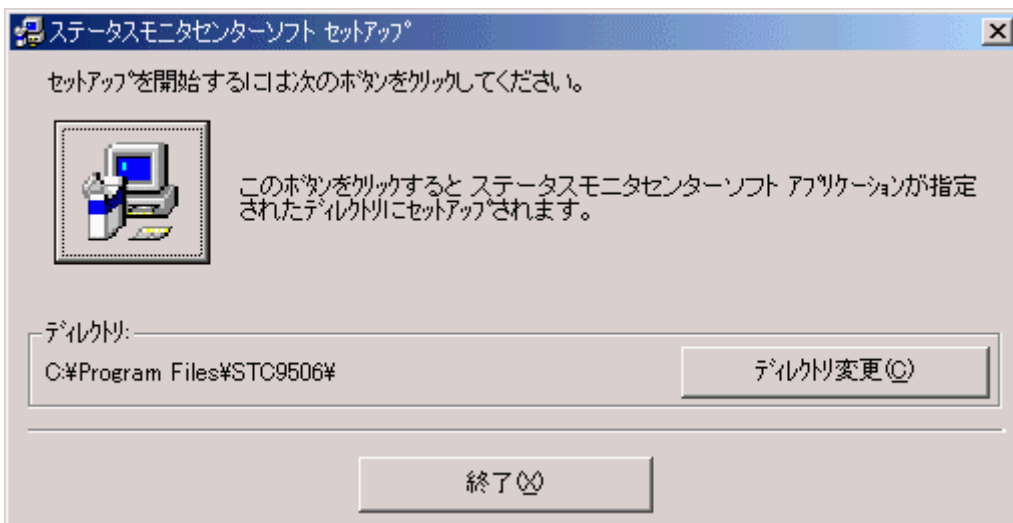
センター(遠隔監視)のコンピュータにセットアップする場合の操作方法です。

[ 操作方法 ]

1. ステータスマニタセンターソフトのインストール CD を CD-ROM ドライブにセットすると WEB ブラウザが自動的に起動し、セットアップの説明画面が表示されます。  
起動しないときは、インストール CD 内の [ setup.bat ] をダブルクリックしてください。
2. 表示されている説明をよくお読みになり、センター用の [ セットアップを開始する ] ボタンをクリックします。
3. ステータスマニタセンターソフトのインストール画面が表示されます。[OK]をクリックします。

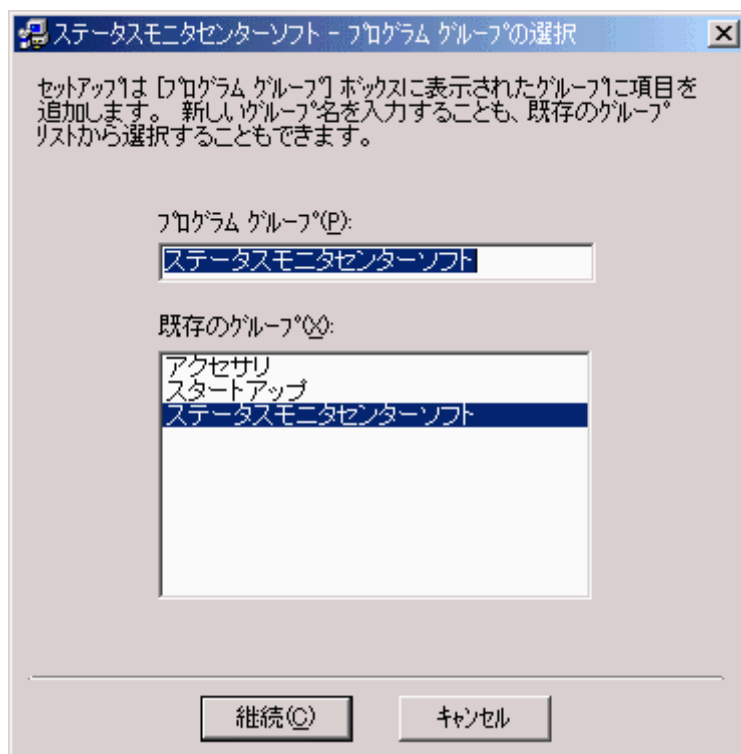


4. セットアップ開始画面が表示され、開始ボタンをクリックすると、ステータスマニタセンターソフトのインストールが開始されます。

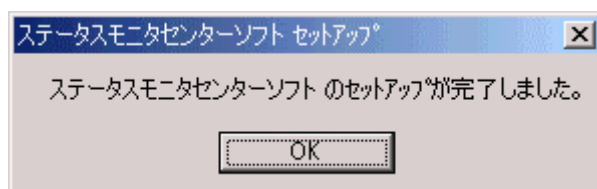




5. 次にプログラムグループを選択する画面が表示されます。[継続]をクリックします。



6. インストールが完了すると、セットアップの完了画面が表示されるので、[OK]をクリックします。



7. 次にデータベースのコピーが行われます。コピーが終了すると、ステータスマニタセンターソフトのセットアップは完了です。

## (8) IP アドレスの設定

### [ 操作方法 ]

1. Windows の[ネットワークとダイヤルアップ接続]の[ローカルエリア接続]をダブルクリックすると[ローカル エリア接続 状態]ウィンドウが表示されるので、[プロパティ]ボタンをクリックします。
2. [ローカル エリア接続のプロパティ]ウィンドウが表示されるので、[インターネット プロトコル (TCP/IP)]を選択し、[プロパティ]ボタンをクリックします。
3. [インターネット プロトコル (TCP/IP) のプロパティ]ウィンドウが表示されるので、IP アドレスを自動的に取得する設定になっている場合は、固定のプライベートアドレスに設定してください。

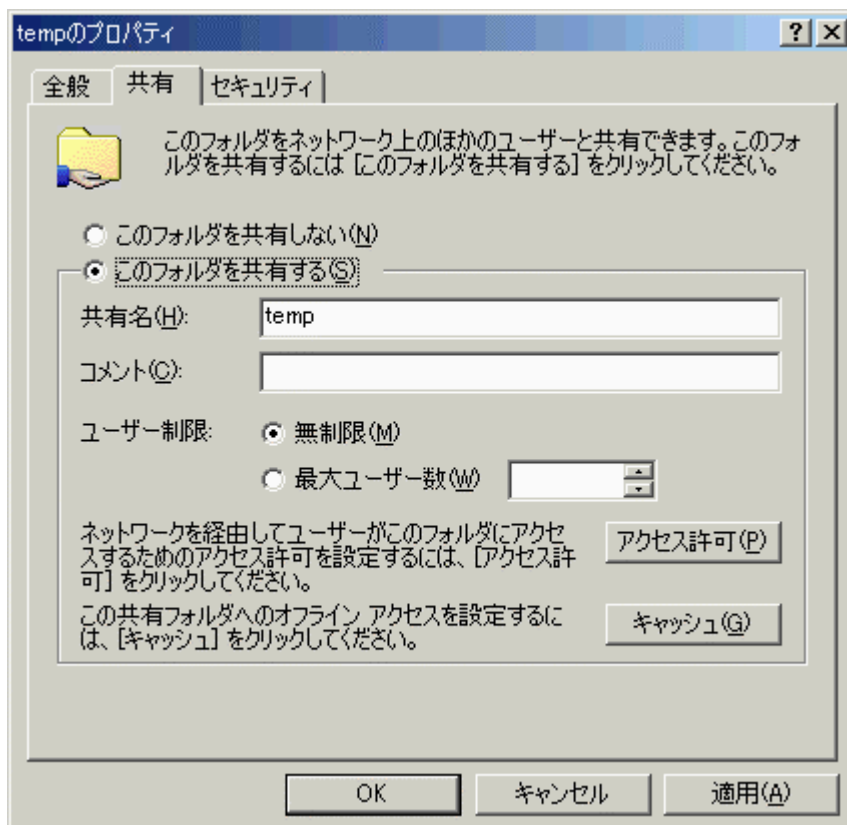
## (9)共有フォルダを作成する

### [操作方法]

1. データベースサーバーを設置したサブセンターPC には共有フォルダを作成する必要があります。次のように設定してください。

マイ コンピュータの適当なところに空のフォルダを作成します。(例 .C:¥temp)

作成したフォルダのプロパティの共有タブで、[このフォルダを共有する]を選択し、[OK]をクリックします。



## (10) 共有フォルダに接続する

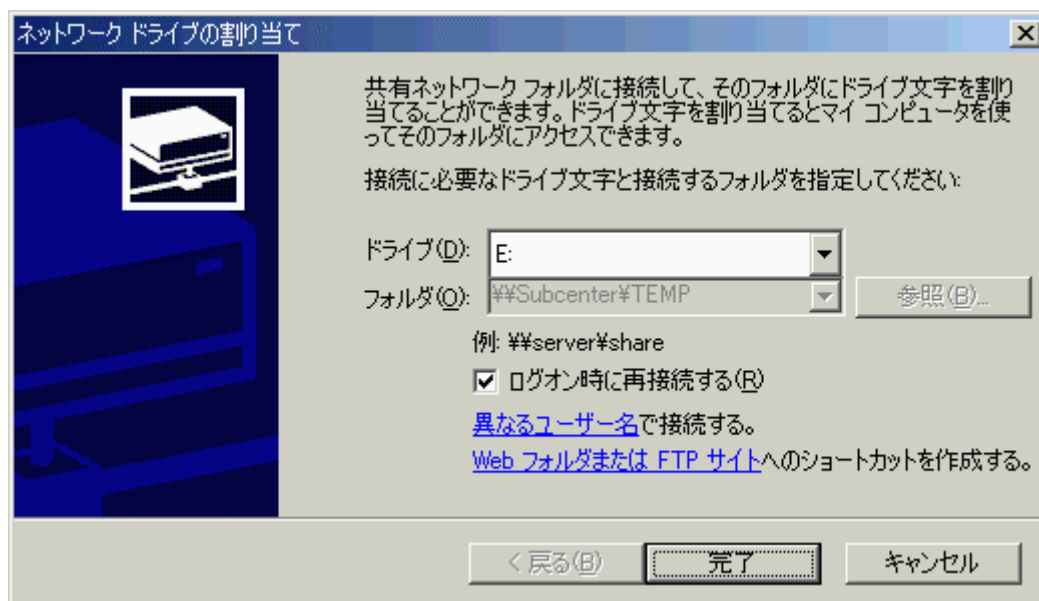
### [操作方法]

1. データベースサーバーを設置したサブセンターPC の共有フォルダと接続可能な状態にします。次のように設定してください。

エクスプローラの[マイ ネットワーク]-[ネットワーク全体]-[Microsoft Windows Network]の中にある[サブセンターPC が属するワークグループ]-[サブセンターのPC名]をたどり、サブセンターPC で作成した共有フォルダを右クリックします。

メニューの中の[ネットワーク ドライブの割り当て]をクリックします。

[ログオン時に再接続する]にチェックを入れ、[完了]をクリックします。



### III. セットアップが完了したら

#### (1) セットアップが完了したら

セットアップが完了したら、次の手順を行ってください。  
操作の詳細は、取扱説明書か、各ソフトのヘルプをご覧ください。

サブセンターの場合

#### [ 操作方法 ]

##### 1. サブセンターを登録する

サブセンターの登録ソフトでサブセンターの名称をデータベースに登録してください。

##### 2. 系統図を作成する

運用されている各施設の系統図に合わせて、系統図作成ソフトで系統図を作成してください。

##### 3. 通信サーバーを起動する

通信サーバーを起動し、正常に通信が行われていることを確認してください。

##### 4. ステータスマニタを起動する

ステータスマニタを起動し、正常に監視、制御が行えることを確認してください。

##### 5. あとは必要に応じて、経歴検索ソフトや、データ伝送確認ソフトで、運用状態を確認します。

センターの場合

#### [ 操作方法 ]

##### 1. すでにサブセンターのセットアップが完了し、正常に運用されていることを確認します。

##### 2. ステータスマニタを起動する

ステータスマニタを起動し、正常に監視、制御が行えることを確認してください。

##### 3. あとは必要に応じて、経歴検索ソフトで、運用状態を確認します。

## IV. バージョンアップ

### (1) 概要

ステータスマニタセンターソフトのバージョンアップを行います。  
対応機種は次のとおりです。

- STC - 9503 Ver1.0
- STC - 9503 Ver1.1
- STC - 9503 Ver1.2

### (2) ご注意

ステータスマニタ関連ソフトウェアをすべて終了してからバージョンアップを実施してください。ソフトウェアが動作中だと正しくバージョンアップできません。

### (3) バージョンアップする

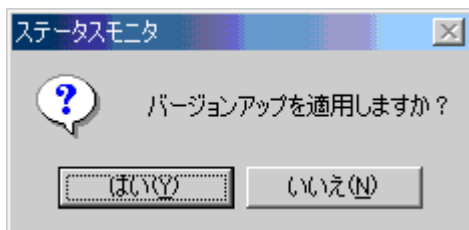
#### [操作方法]

1. ステータスマニタセンターソフトのインストール CD を CD-ROM ドライブにセットすると WEB ブラウザが自動的に起動し、セットアップの説明画面が表示されます。  
起動しないときは、インストール CD 内の [ setup.bat ] をダブルクリックしてください。
2. 表示されている説明をよくお読みになり、センター用の [ バージョンアップを開始する ] ボタンをクリックします。
3. [ステータスマニタセンターソフト・バージョンアップ]を表示しますので、[次へ] ボタンをクリックします。



4. バージョンアップを適用するフォルダを確認して [次へ] ボタンをクリックします。適用フォルダが空白の場合は、[参照] ボタンで [フォルダの選択] ダイアログボックスを表示しフォルダを選択します。(標準では C:\¥Program Files¥stc9506 にセットアップされています。)

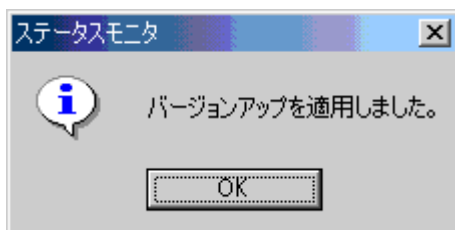
5. バージョンアップを適用する場合は、[ はい ] ボタンをクリックします。



6. バージョンアップの進捗を表示します。



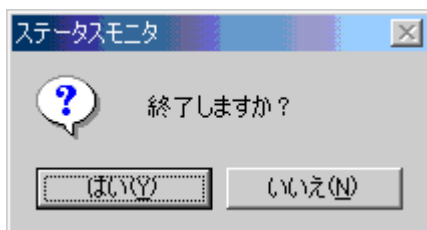
7. 次の表示では [ OK ] ボタンをクリックします。



8. バージョンアップが適用されたので [完了] ボタンをクリックします。



9. [はい] ボタンをクリックします。



以上でバージョンアップの適用が完了しました。PCを再起動してください。

# サブセンターの登録

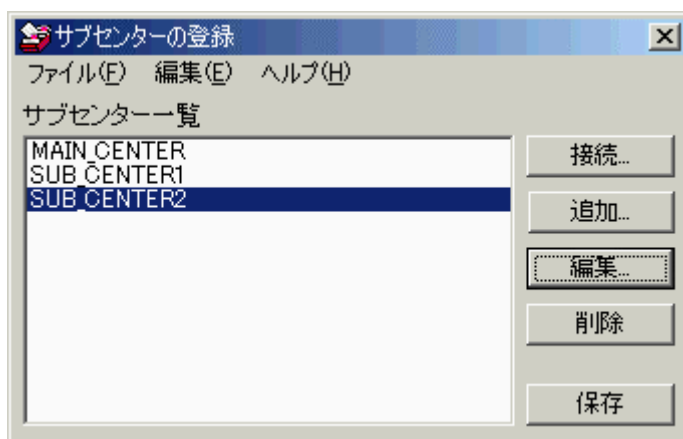
## I. 概要

### (1)概要

サブセンターの登録は、施設の名称を登録するソフトです。

- 施設名をデータベースに登録し、系統図や機器の情報をデータベースに保持できるようにします。
- 施設内にサブセンターが複数ある場合、施設内にサブセンターがない場合にかかわらず施設名を最低1つは登録する必要があります。

[ 概観図 ]



## II. 起動と終了

### (1)起動する

[ 操作方法 ]

1. [スタート]ボタンをクリックし[プログラム][ステータスマニタセンターソフト]をポイントして[サブセンターの登録]をクリックします。

[ 注意 ]

サブセンターの登録ソフトを重複して起動することはできません。

### (2)終了する

[ 操作方法 ]

1. [閉じる]ボタンをクリックして終了します。

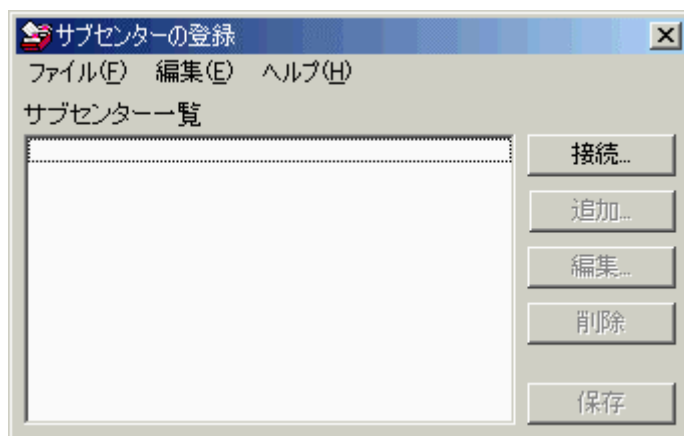


### III. サーバーに接続する

#### (1)サーバーに接続する

[操作方法]

1. [接続]ボタンをクリックします。



2. 接続するデータベースサーバーのコンピュータ名を入力し、 [接続]ボタンをクリックします。



## [ ヒント ]

サーバーの接続でコンピュータ名がわからない場合は次のようにして確認することができます。

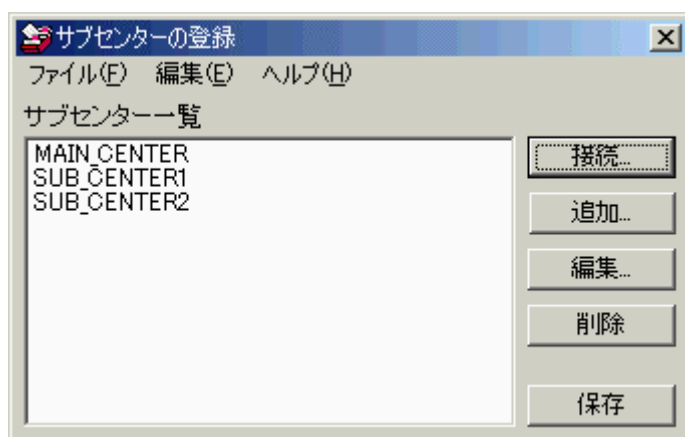
1. データベースサーバーが設置されているコンピュータのデスクトップ、またはエクスプローラ上にある[マイ コンピュータ]アイコンを右クリックして、ポップアップメニュー内の[プロパティ]を選択します。
  2. [システムのプロパティ]画面が表示されるので[ネットワーク ID]タブを選択すると、[フル コンピュータ名]のところに表示されている名称がコンピュータ名になります。
- 一度入力したコンピュータ名はドロップダウンリストに登録されるので、次回からは入力しなくてもリストから選択できるようになります。

## IV. サブセンターを追加する、名称を変更する、削除する、または保存する

### (1) サブセンターを追加する

#### [ 操作方法 ]

1. [追加]ボタンをクリックします。



2. 追加するサブセンター名を入力し[OK]ボタンをクリックします。入力できる文字数は半角で64文字です。

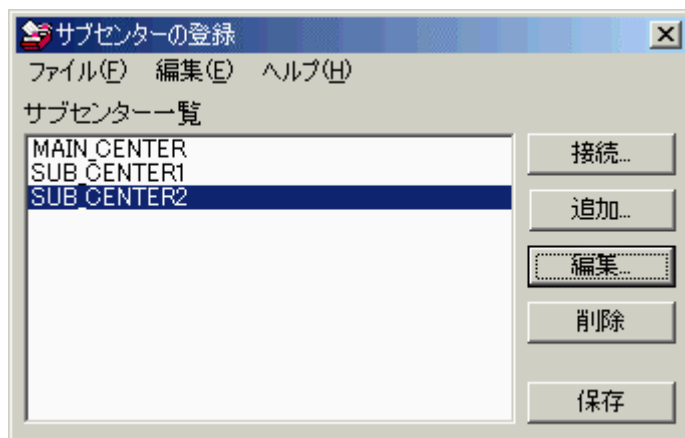


3. 最後に[保存]ボタンをクリックすると確認のダイアログボックスが表示されますので、[はい]をクリックすると入力した名称がデータベースに保存されます。

## (2)サブセンターの名称を変更する

### [操作方法]

1. 変更したいサブセンター名をサブセンター一覧でクリックし、[編集]ボタンをクリックします。



2. 変更するサブセンター名を入力し[OK]ボタンをクリックします。

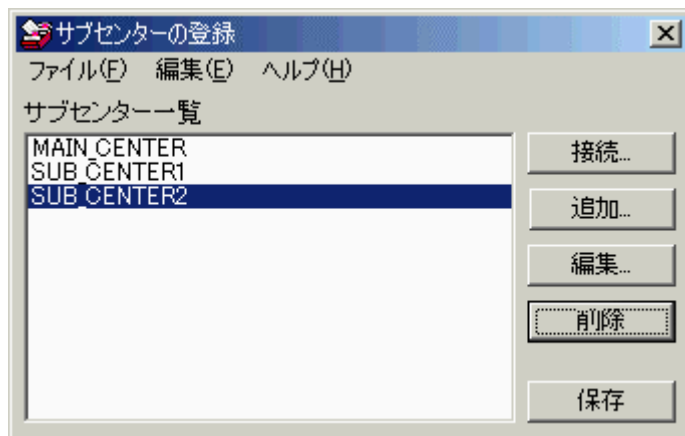


3. 最後に[保存]ボタンをクリックすると確認のダイアログボックスが表示されますので、[はい]をクリックすると変更した名称がデータベースに保存されます。

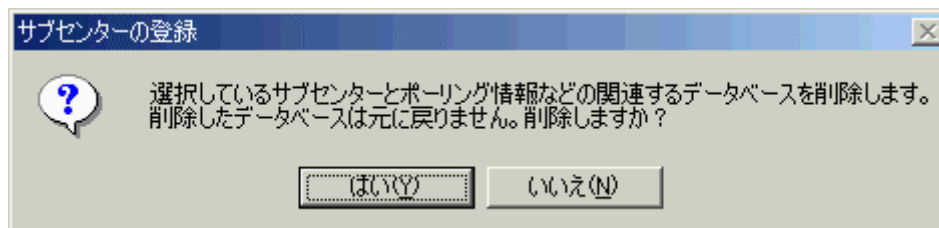
## (3)サブセンターを削除する

### [操作方法]

1. 削除したいサブセンター名をサブセンター一覧でクリックし、[削除]ボタンをクリックします。



2. 削除を行う場合は[はい]を、中止する場合は[いいえ]ボタンをクリックします。

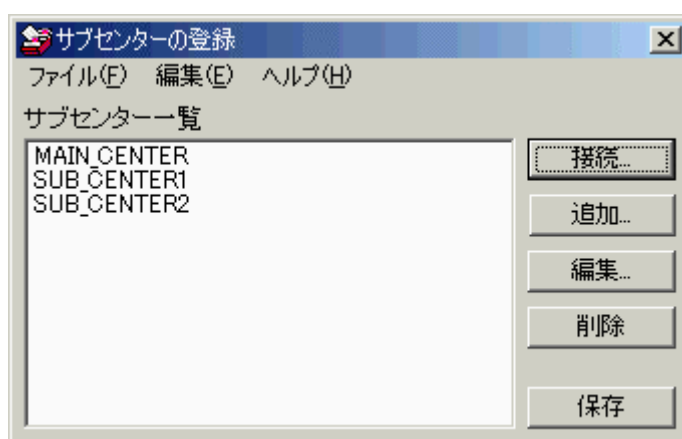


#### (4) 登録内容を保存する

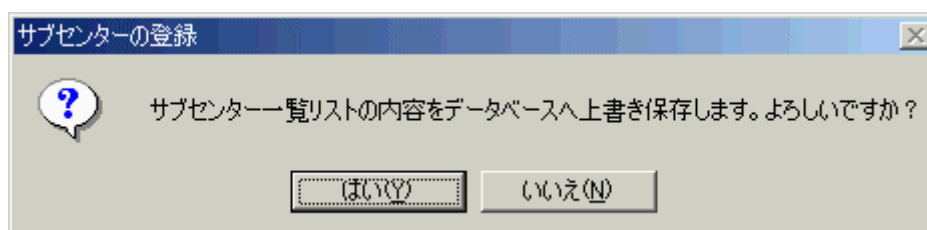
保存を行うと、[追加]または[編集]で設定した内容がデータベースに保存されます。設定内容を変更した場合は必ず保存操作を行ってください。

#### [操作方法]

1. [保存]ボタンをクリックします。



2. 保存する場合は[はい]を保存しない場合は[いいえ]をクリックします。



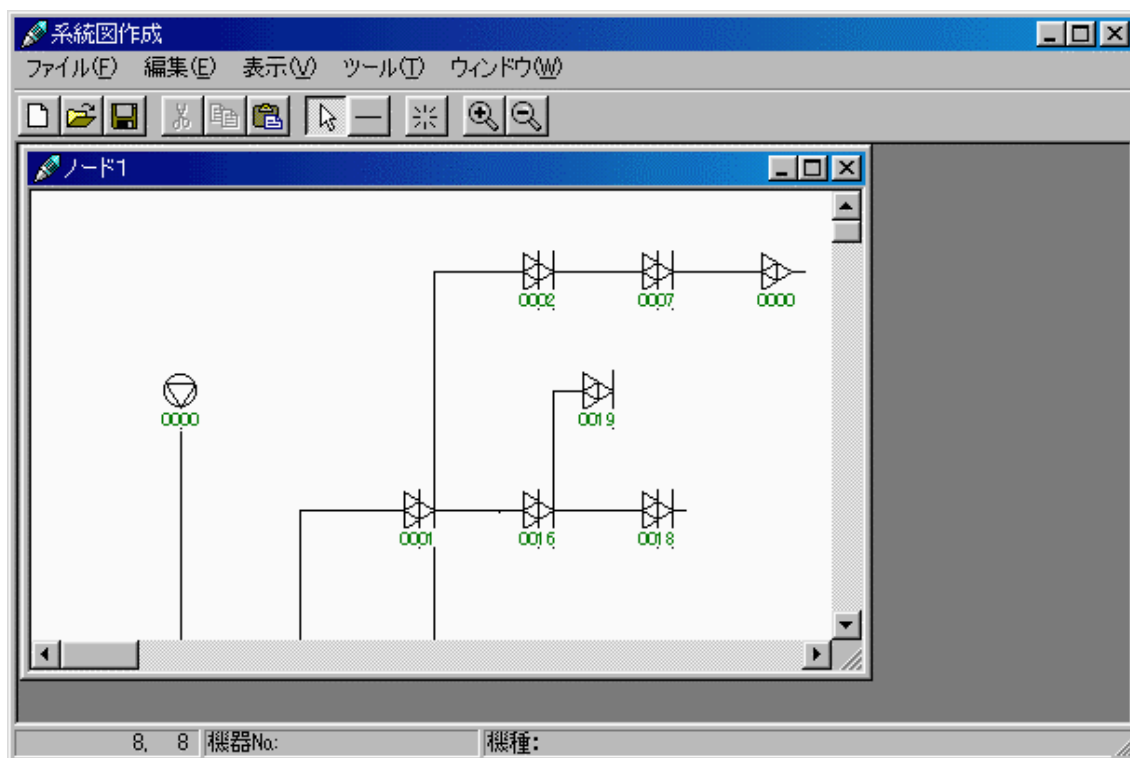
# 系統図作成

## 1. 概要

### (1) 概要

ステータスマニタ・系統図作成ソフトは、ステータスマニタセンターソフトで使用する系統図の作成、および機器の登録をするソフトです。

[ 概観図 ]














## (2) 操作概要

ステータスマニタ・系統図作成ソフトの作業領域には、スクリーンの上部にあるメニュー、ツールバーを使用して、系統図ウィンドウに機器の描画と設定を行います。

### 1. メニューバーの説明

メニュー	内容
ファイル	系統図の新規作成・保存などのデータベースに対する操作、ポーリングデータの作成、印刷などの操作をするメニューです。
編集	系統図ウィンドウで、系統図を切り取り・コピー・貼り付けなどの操作をするメニューです。
表示	作業している系統図ウィンドウでの表示に関する操作のメニューです。
ツール	系統図セルの大きさと、グループの設定をするメニューです。
ウィンドウ	系統図ウィンドウの表示方法を選択するメニューです。
ヘルプ	ヘルプとバージョン情報を表示するメニューです。

### 2. ツールバーの説明

ツール	内容
	新しく系統図ウィンドウを作成します。
	既存の系統図をデータベースから読み出して、系統図ウィンドウに表示します。
	作業している系統図ウィンドウの内容をデータベースに保存します。
	作業している系統図ウィンドウで、選択中の機器・線分を切り取ります。
	作業している系統図ウィンドウで、選択中の機器・線分をコピーします。
	作業している系統図ウィンドウで、切り取り、またはコピーした機器・線分を貼り付けます。
	作業している系統図ウィンドウで、機器・線分を選択します。
	作業している系統図ウィンドウに線分を描画します。
	作業している系統図ウィンドウを再描画します。
	作業している系統図ウィンドウの表示を拡大します。
	作業している系統図ウィンドウの表示を縮小します。

### 3. ステータスバーの説明



a) 項目	b)	c) 内容
a)		系統図ウィンドウ上のマウス位置を表示します。
b)		マウス位置にある機器Noを表示します。
c)		マウス位置にある機種を表示します。
		• ステータスマニタ・系統図作成ソフトでは、ボタンやテキスト入力領域にマウスを移動させることで、簡単なヘルプを表示します。
		• 系統図ウィンドウを表示しているときと、していないときで、表示するメニューが異なります。

#### (3) 系統図の作成手順

1. [系統図作成]ソフトを起動します
2. [ファイル][サーバー接続]メニューで接続するデータベースサーバーのコンピュータ名を入力するか、ドロップダウンリストから選択後、[接続]ボタンをクリックします。
3. サブセンターの選択画面になるので、一覧よりサブセンターを選択し、[選択]ボタンをクリックします。
4. [ファイル][新規作成]メニュー、またはツールバーの[新規作成]で、新しい系統図ウィンドウを開きます。
5. 実際の系統図を見ながら機器を配置します。
6. 機器の位置を修正します。
7. 機器をツールバーの[線分]を使用して接続します。
8. 機器構成を[機器のプロパティ]ダイアログボックスで設定します。
9. 保存します。
10. ポーリングデータを作成します。

ポーリングデータが正しく作成されるまで、[8][10]の作業を繰り返します。

#### [ヒント]

サーバーの接続でコンピュータ名がわからない場合は次のようにして確認することができます。

1. データベースサーバーが設置されているコンピュータのデスクトップ、またはエクスプローラ上にある[マイ コンピュータ]アイコンを右クリックして、ポップアップメニュー内の[プロパティ]を選択します。
  2. [システムのプロパティ]画面が表示されるので[ネットワーク ID]タブを選択すると、[フル コンピュータ名]のところに表示されている名称がコンピュータ名になります。
- 一度入力したコンピュータ名はドロップダウンリストに登録されるので、次回からは入力しなくてもリストから選択できるようになります。

## II. ご注意

### (1) 系統図を作成する前に

系統図を作成するときは、次の項目に注意して作成を開始してください。

1. 系統図を作成・編集する前後に、バックアップを取ることをおすすめします。
2. 系統図を作成する前にサブセンターの登録ソフトで施設の名称を登録してください。
3. 系統図を作成・編集したときは必ずポーリング作成を行ってください。
4. 系統図を作成してから通信サーバー、ステータスマニタを起動してください。
5. 通信サーバー、ステータスマニタを起動中に系統図作成を起動しないでください。
6. マウスで[クリック][ダウン][アップ]の操作をするときは左ボタンを使います。特に[右クリック]と表現しているときは右ボタンを使用します。
7. [コントロールパネル][画面][ディスプレイの詳細]タブの[フォントサイズ]で、[小さいフォント]を選択してください。
8. [コントロールパネル][画面][ディスプレイの詳細]タブのカラーパレットで[256色]を選択したときと、[High Color][True Color]を選択したときでは、系統図ウィンドウに表示する色が異なる場合があります。(このヘルプでは、[High Color]以上に設定したときの色で説明しています。)

## III. 起動と終了

### (1) 起動する

#### [操作方法]

1. [スタート]ボタンをクリックし、[プログラム][ステータスマニタセンターソフト]をポイントして、[系統図の作成]をクリックします。

#### [注意]

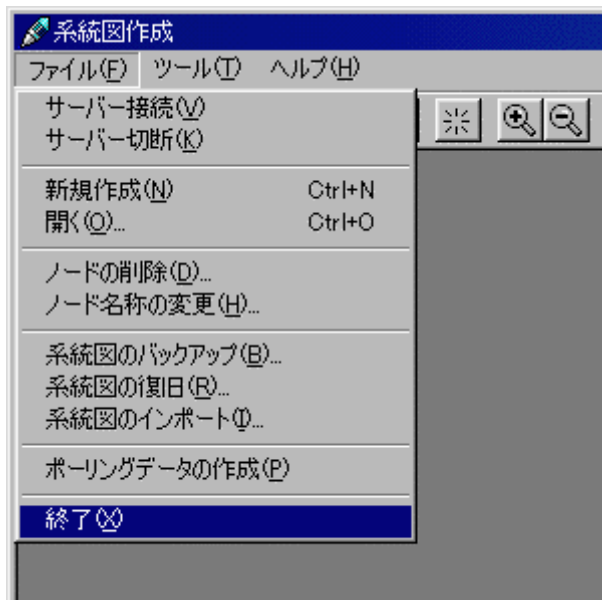
- 系統図作成ソフトを重複して起動することはできません。
- 通信サーバー起動中は系統図作成ソフトを起動しないでください。



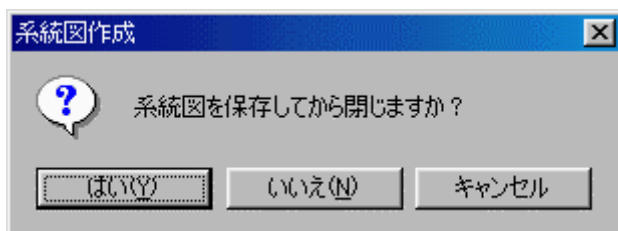
(2) 終了する

[操作方法]

1. [ファイル]メニューをクリックし、[終了]をクリックします。

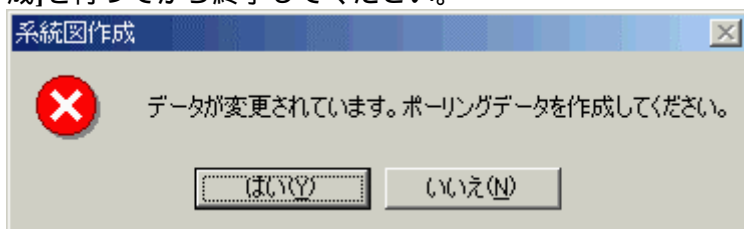


2. 系統図に変更がある場合、[系統図を保存してから閉じますか?]ダイアログボックスを表示しますので、保存してから終了するときは[はい]をクリックします。保存しないで終了するときは[いいえ]をクリックします。保存しないで作業を続けるときは[キャンセル]をクリックします。



[注意]

- 次のメッセージが表示されたときは[はい]をクリックして、[ポーリングデータの作成]を行ってから終了してください。



## IV. 系統図を開く、作成する、または保存する

### (1) ファイル操作について

ステータスマニタセンターソフトでは、CATV施設のノードを単位として系統図を管理します。

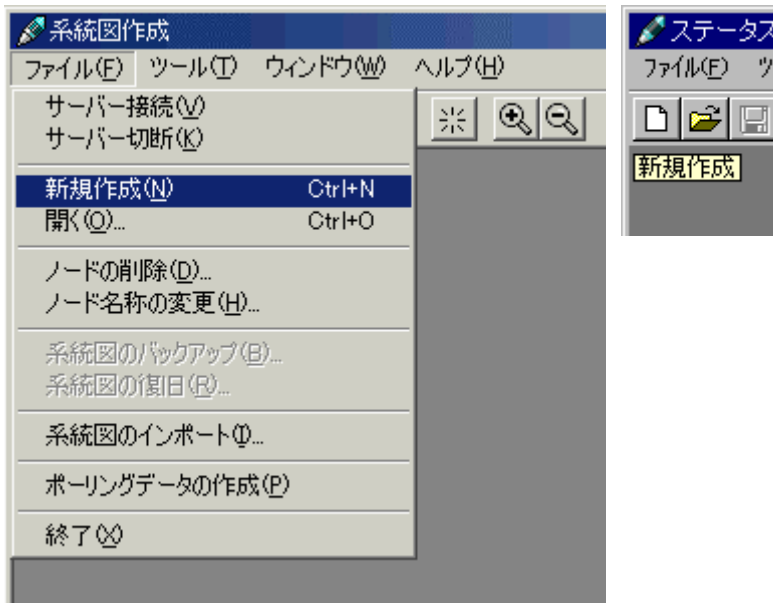
系統図を新しく作成してデータベースに保存するときは、作成した系統図に対してノード名称を付けて保存するファイル操作が必要となります。また、作成済みの系統図を編集するときもノード名称を指定して系統図を開くファイル操作をします。

### (2) 系統図を新しく作成する

系統図をはじめから新しく作成します。

#### [操作方法]

1. [ファイル]メニューをクリックし[新規作成]をクリックします。または、ツールバーの[新規作成]をクリックします。



何も入力されていない新しい系統図ウィンドウを表示します。

[新規作成]操作をしたとき、次のようなダイアログボックスが表示されることがあります。必要な項目を参照してください。

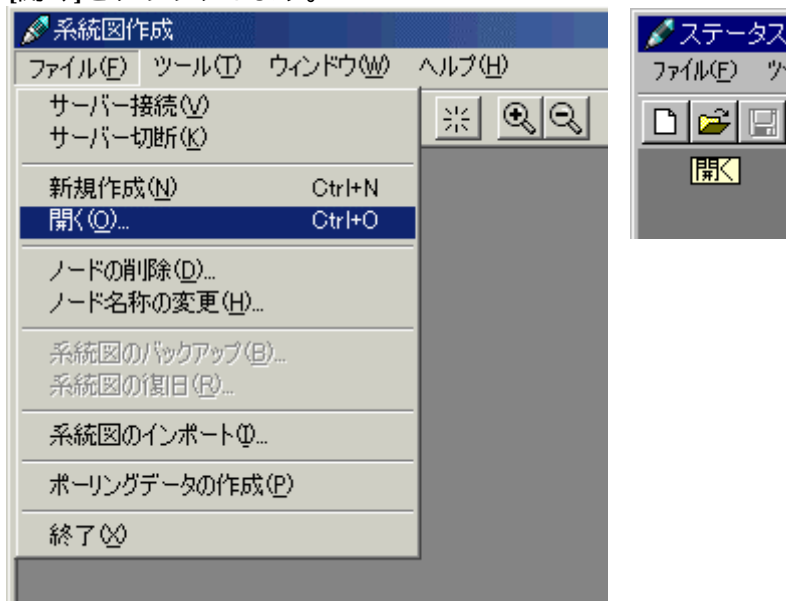
これ以上ウィンドウを作成できません …… (11)

### (3) 既存の系統図を編集する・系統図を開く

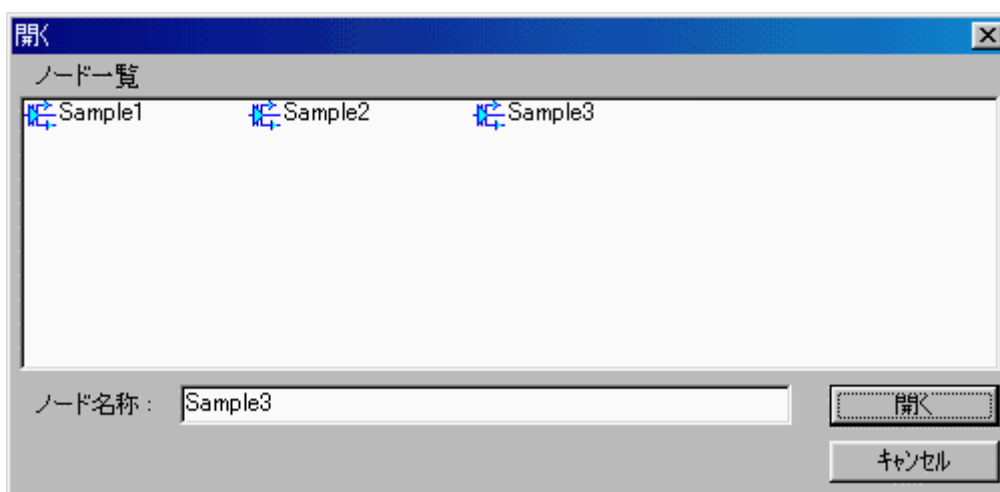
保存済みの系統図を開いて、系統図ウィンドウに表示し、作業できる状態にします。

[操作方法]

1. [ファイル]メニューをクリックし、[開く]をクリックします。または、ツールバーの[開く]をクリックします。



2. [開く]ダイアログボックスで、作業したいノード名称 (の系統図) を選択して、[開く]ボタンをクリックします。中止するときは[キャンセル]ボタンをクリックします。



選択したノード名称 (の系統図) を系統図ウィンドウに表示します。

[開く]ダイアログボックスで[OK]ボタンをクリックしたとき、次のようなダイアログボックスが表示されることがあります。必要な項目を参照してください。

これ以上ウィンドウを作成できません …… (11)

すでに開いているノード名称は開けません …… (12)

指定されたノード名称は存在しません …… (13)

読み出したデータには、アドレスが重複している機器が存在しています …… (14)

#### (4) 系統図を削除する

選択している機器・線分の情報を削除します。

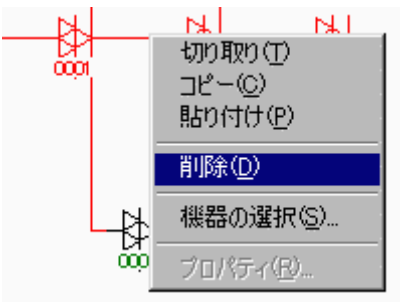
##### [ 操作方法 1 ]

1. 機器・線分を選択している状態にします。
2. [編集]メニューをクリックし[削除]をクリックします。



##### [ 操作方法 2 ]

1. 機器・線分を選択している状態にします。
2. マウスを右クリックしポップアップメニューで[削除]をクリックします。



- 機器・線分を選択していない状態ではこの操作はできません。
- 削除した系統図はクリップボードへはコピーされません。
- 削除した機器・線分を元に戻すことはできません。

#### (5) 系統図を保存する

作業中の(選択されている)系統図ウィンドウの内容をデータベースに保存します。複数の系統図ウィンドウで作業している場合は保存したいウィンドウを選択してから保存を行ってください。

一度にすべての系統図ウィンドウを保存することはできません。

保存操作をせずに系統図ウィンドウを閉じたときは、作業内容はデータベースへ保存されません。

必要な項目を参照してください。

系統図を上書き保存する …… (6)

系統図に新しいノード名称を付けて保存する …… (7)

## (6) 系統図を上書き保存する

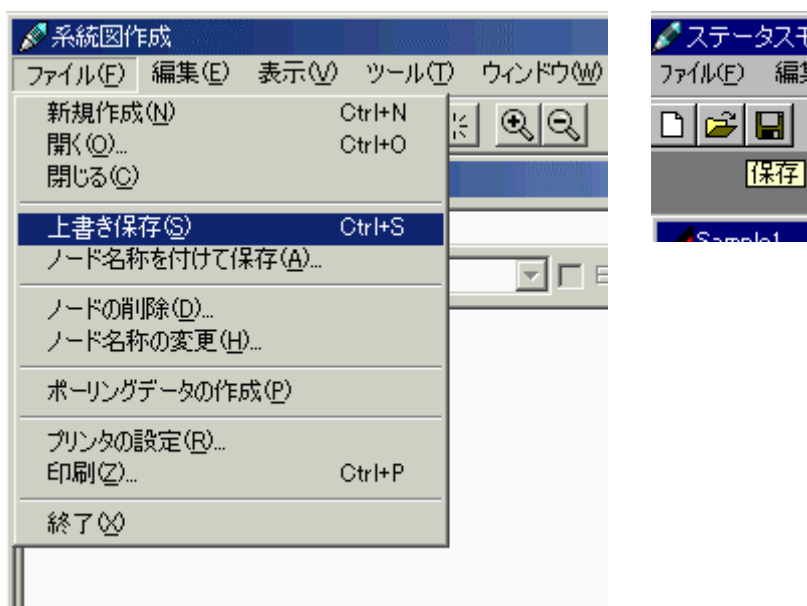
作業中の系統図ウィンドウの内容を、現在のノード名称でデータベースへ保存します。

### [重要]

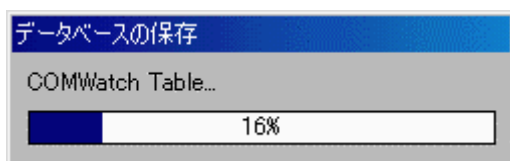
保存操作を行った場合は、プログラムを終了する前に必ずポーリングデータの作成を行ってから終了してください。ポーリングデータの作成を行わないまま終了すると、データに不整合が生じる可能性があります。

### [操作方法]

1. [ファイル]メニューをクリックし、[上書き保存]をクリックします。または、ツールバーの[保存]をクリックします。



2. [データベースの保存]ダイアログボックスのバーがいっぱいになるまで、しばらくお待ちください。



作業中の系統図ウィンドウを初めて保存するときは、次の操作をします。

系統図に新しいノード名称を付けて保存する …… (7)

## (7) 系統図に新しいノード名称を付けて保存する

作業中の系統図ウィンドウの内容に新しいノード名称を付けて、データベースへ保存します。作業中の系統図ウィンドウを初めて保存するときや、異なった名称で保存するときに、この操作をします。

### [重要]

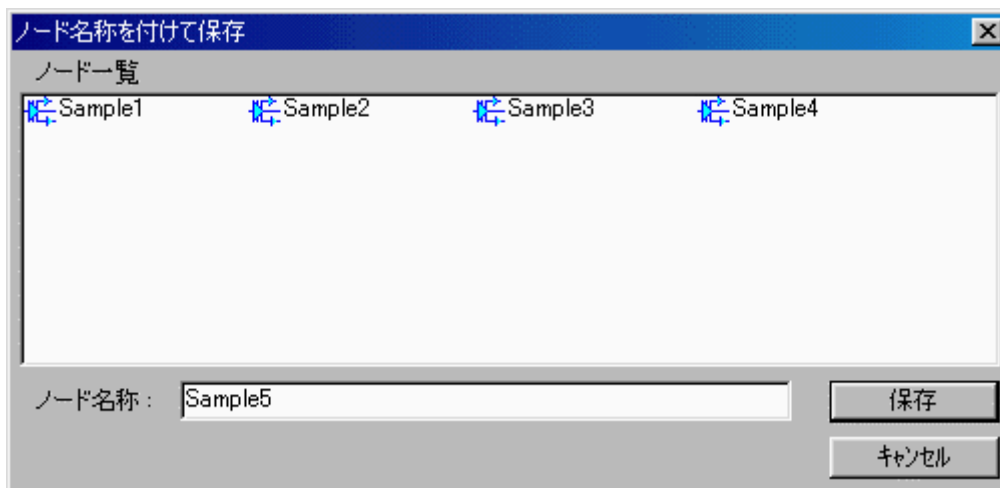
保存操作を行った場合は、プログラムを終了する前に必ずポーリングデータの作成を行ってから終了してください。ポーリングデータの作成を行わないまま終了すると、データに不整合が生じる可能性があります。

### [操作方法]

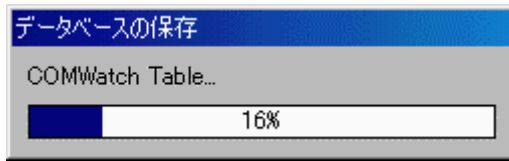
1. [ファイル]メニューをクリックし、[ノード名称を付けて保存]をクリックします。



2. [ノード名称を付けて保存]ダイアログボックスで、ノード名称テキストボックスに保存する名称を入力して、(例では Sample5) [OK]ボタンをクリックします。保存しないときは[キャンセル]ボタンをクリックします。ノード名称は半角 128 文字まで入力できます。



3. [データベースの保存]ダイアログボックスのバーがいっぱいになるまで、しばらくお待ちください。



[ノード名称を付けて保存]ダイアログボックスで[OK]ボタンをクリックしたとき、次のようなダイアログボックスが表示されることがあります。必要な項目を参照してください。

ノード名称が入力されていません …… (15)

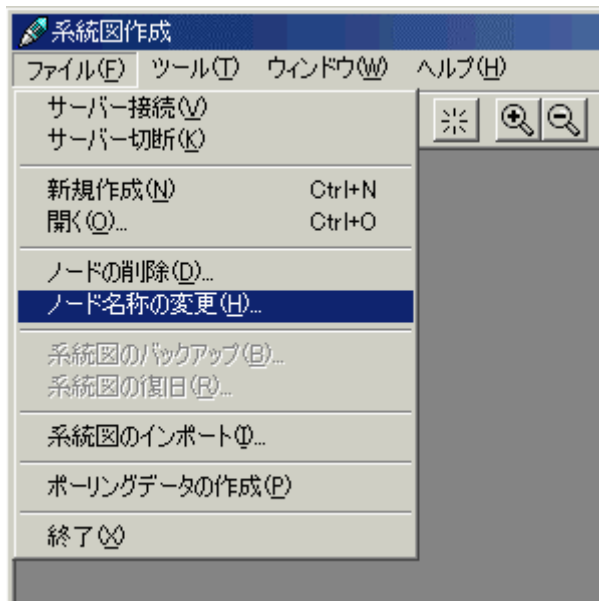
すでにノード名称が存在しています …… (16)

#### (8) 系統図のノード名称を変更する

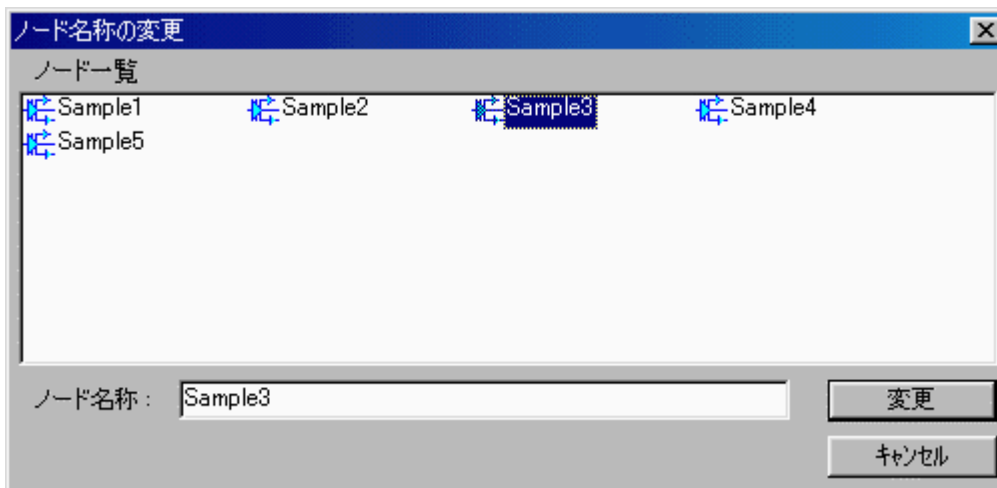
保存済みの系統図のノード名称を変更します。

#### [操作方法]

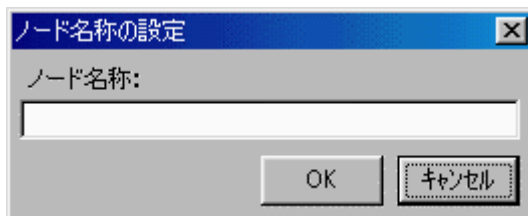
1. [ファイル]メニューをクリックし、[ノード名称の変更]をクリックします。



2. [ノード名称の変更]ダイアログボックスで、変更したいノード名称を選択して、[変更]ボタンをクリックします。中止するときは、[キャンセル]ボタンをクリックします。



3. [ノード名称の設定]ダイアログボックスで、新しいノード名称を入力して、[OK]ボタンをクリックします。中止するときは、[キャンセル]ボタンをクリックします。



[ノード名称の変更][ノード名称の設定]ダイアログボックスで[OK]ボタンをクリックしたとき、次のようなダイアログボックスが表示されることがあります。必要な項目を参照してください。

指定されたノード名称は存在しません …… (13)

指定したノード名称は既に使われています …… (18)

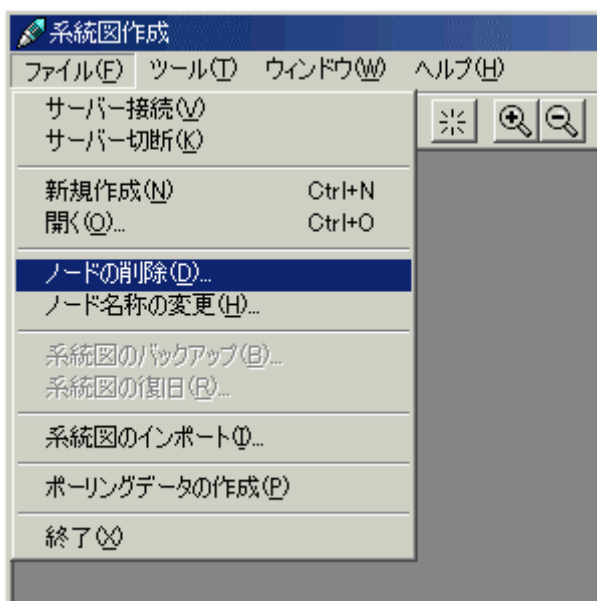
#### (9) 既存の系統図を削除する

入力済み系統図のノード名称を指定して削除します。

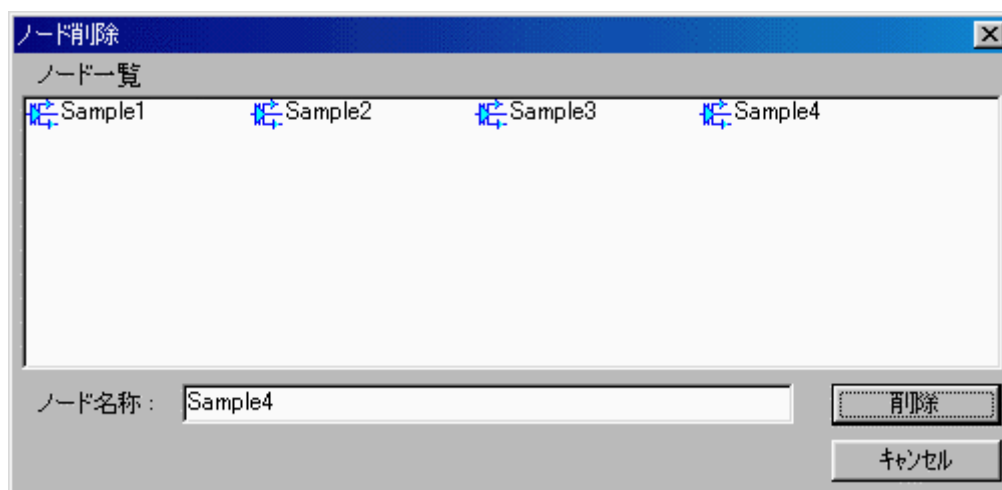
#### [操作方法]

1. [ファイル]メニューをクリックし、[ノードの削除]をクリックします。

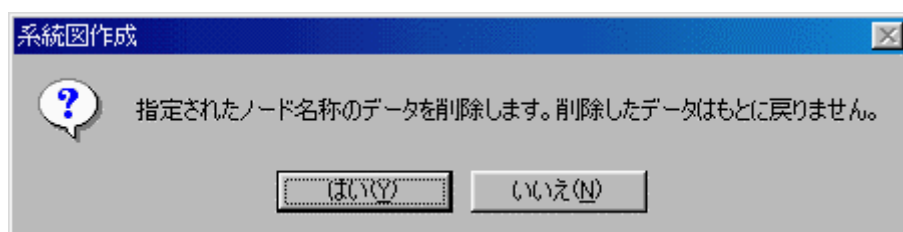




2. [ノード削除]ダイアログボックスで、削除したいノード名称を選択して、[削除]ボタンをクリックします。中止するときは、[キャンセル]ボタンをクリックします。



3. 次のようなダイアログボックスを表示しますので、削除するときは[はい]をクリックします。削除しないときは[いいえ]をクリックします。



[ 重要 ]

- 削除したデータは元に戻りません。
- ノード削除の確認ダイアログボックスで[はい]ボタンをクリックしたとき、次のようなダイアログボックスが表示されることがあります。必要な項目を参照してください。

開いているノードは削除できません …… (17)

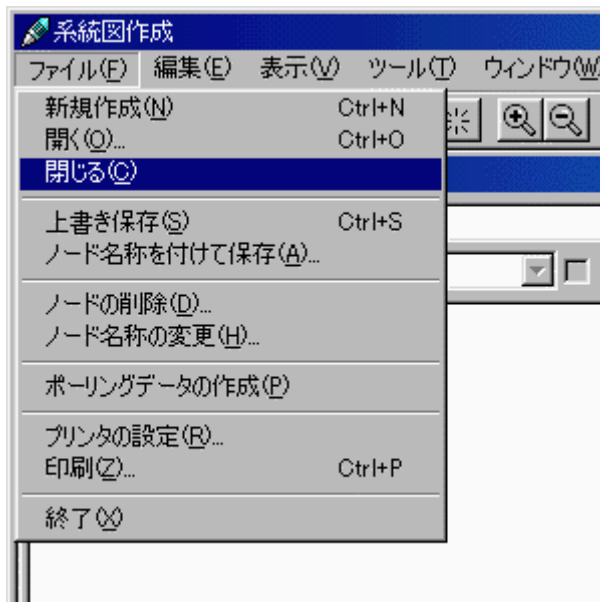
指定されたノード名称は存在しません …… (13)

(10) 閉じる

開いている系統図ウィンドウを閉じます。

[ 操作方法 ]

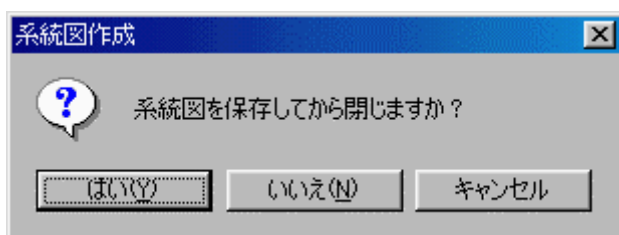
1. [ファイル]メニューをクリックし、[閉じる]をクリックします。



2. 系統図を編集してから[閉じる]操作をすると、[系統図を保存してから閉じますか?]  
ダイアログボックスを表示します。

次の操作をしてください。

- 編集した内容を上書きで保存して閉じるときは、[はい]ボタンをクリックします。
- 編集した内容を破棄して閉じるときは、[いいえ]ボタンをクリックします。
- 保存せず引き続き編集するときには、[キャンセル]ボタンをクリックします。



必要な項目を参照してください。

系統図に新しいノード名称を付けて保存する …… (7)

開いている系統図ウィンドウがないときは、この操作はできません。

(11) これ以上ウィンドウを作成できません

系統図ウィンドウを10以上開くことはできません。

[操作方法]

1. [OK]ボタンをクリックします。



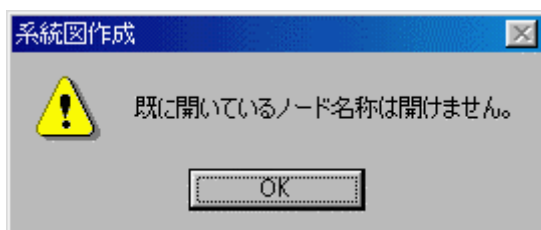
作業中の系統図ウィンドウを閉じてください。系統図ウィンドウを閉じるとき、必要であれば保存をしてください。

(12) すでに開いているノード名称は開けません

既にかいている（表示している）系統図ウィンドウを新しく開くことはできません。

[操作方法]

1. [OK]ボタンをクリックします。



(13) 指定されたノード名称は存在しません

存在しないノード名称の[開く]、[削除]、[変更]はできません。

[操作方法]

1. [OK]ボタンをクリックします。



(14) 読み出したデータには、アドレスが重複している機器が存在しています

読み出した系統図ウィンドウには、他のノード名称のデータに同じアドレスが存在している警告です。読み出した系統図ウィンドウの機器のアドレスが重複しているので修正してください。

[操作方法]

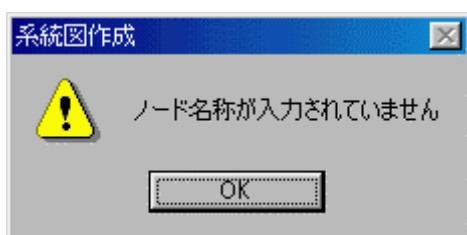
1. [OK]ボタンをクリックします。

(15) ノード名称が入力されていません

ノード名称を入力しないで保存することはできません。

[操作方法]

1. [OK]ボタンをクリックします。



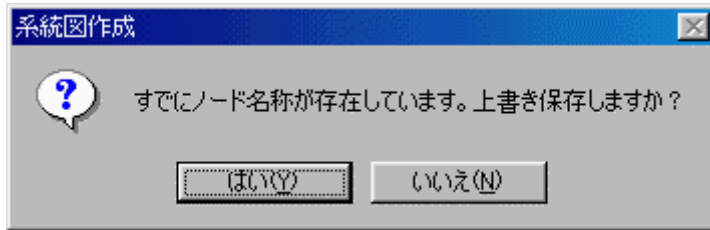
ノード名称を入力してください。

(16) すでにノード名称が存在しています

[ノード名称を付けて保存]ダイアログボックスで付けたノード名称の系統図が、既にデータベースに存在しています。

[操作方法]

1. 元の系統図に上書きして保存するときは、[はい]をクリックします。保存しないときは、[いいえ]をクリックします。



[重要]

[はい]をクリックすると、元の系統図はなくなります。

(17) 開いているノードは削除できません

指定したノードが開いているときは削除できません。

[操作方法]

1. [OK]ボタンをクリックします。

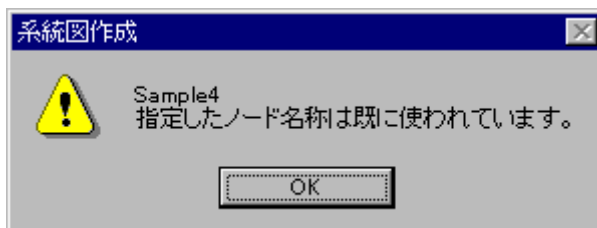


(18) 指定したノード名称は既に使われています

既に存在しているノード名称と同じ名称は設定できません。

[操作方法]

1. [OK]ボタンをクリックします。



(19) 登録してあるアドレスが他のノードにも存在しています

作業中の系統図ウィンドウに新しくノード名称付けて保存するとき、保存しようとしている系統図ウィンドウに登録してあるアドレスが、他のノード名称の系統図に既に存在しているときに、このダイアログボックスを表示します。

[操作方法]

1. [はい]ボタンをクリックすると重複しているアドレスを解除してから（アドレスを入力していない状態にしてから）[ノード名称を付けて保存]ダイアログボックスを表示します。[いいえ]をクリックすると、引き続き系統図ウィンドウで作業できる状態に戻ります。

系統図に新しいノード名称を付けて保存する …… (7)

[参考]

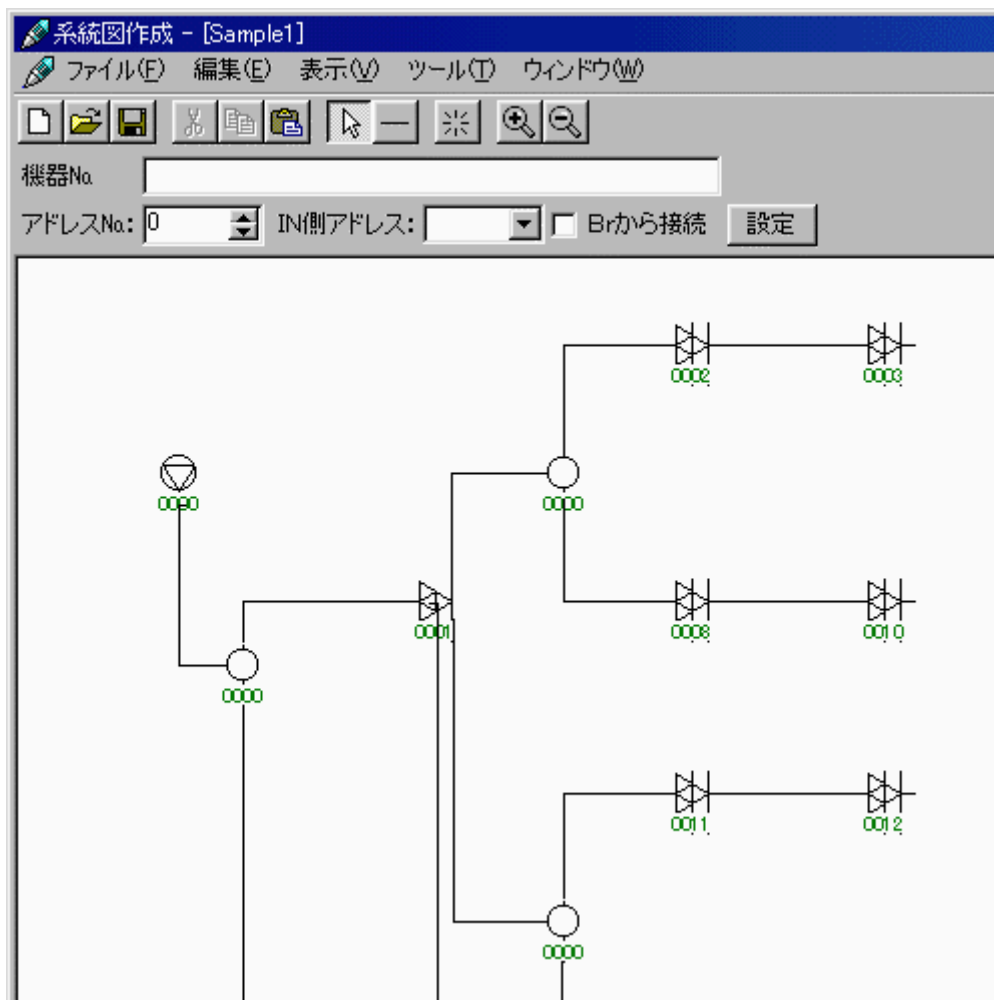
このダイアログボックスは次の操作をすると表示します。

1. [メニュー]をクリック [開く]をクリックで系統図ウィンドウを開く
2. 作業をしないで[メニュー]をクリック [ノード名称を付けて保存]

## V. 系統図を描画する

### (1) 系統図を入力する位置について

系統図ウィンドウは、行と列で構成されたセルの集合体で、1つのセルに1つの機器のキャラクタを割り当てて入力します。



線分は任意の位置に入力できます。

### (2) 機器を選択して入力する

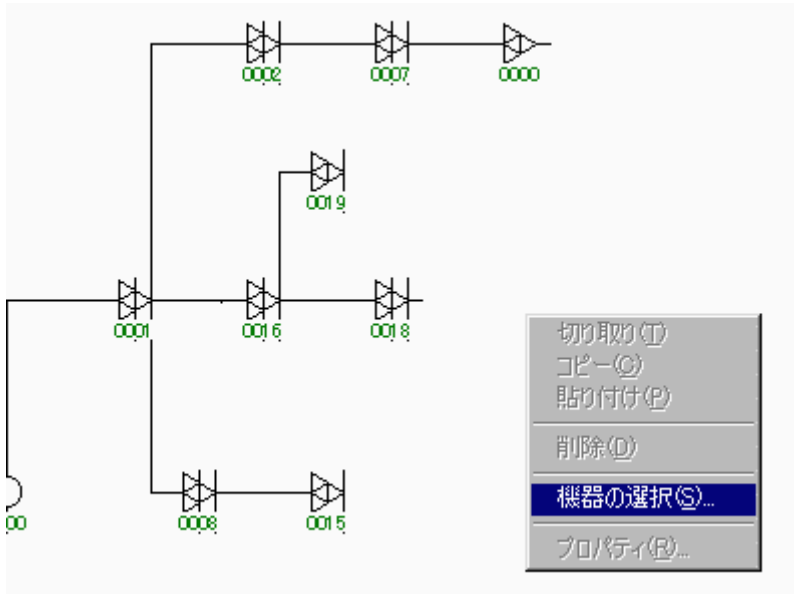
系統図ウィンドウ上に機器を配置して、系統図を構成します。

#### [ 操作方法 ]

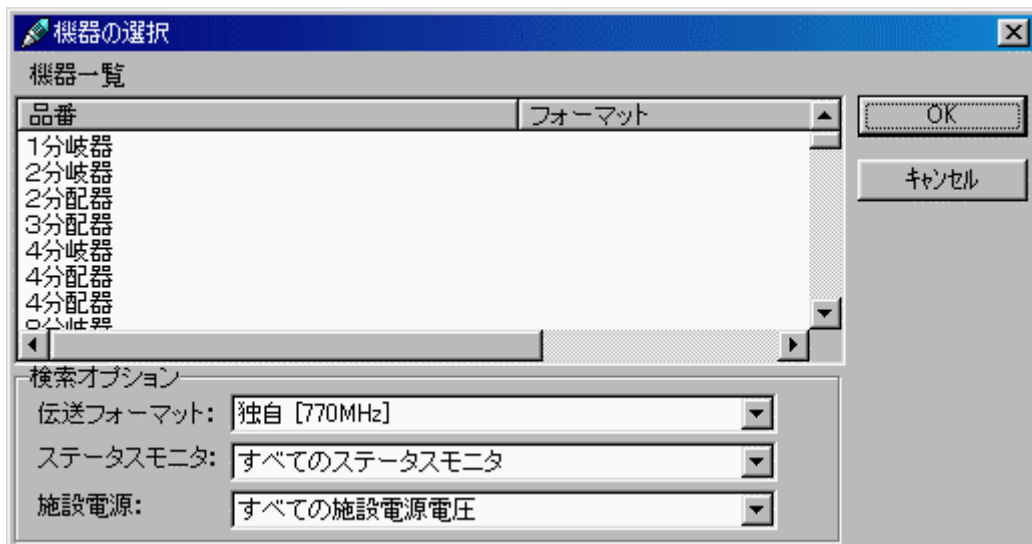
1. ツールバーの[選択]をクリックします。



2. 系統図ウィンドウの任意の位置でダブルクリックします。または、系統図ウィンドウで右クリックしポップアップメニューで[機器の選択]をクリックします。



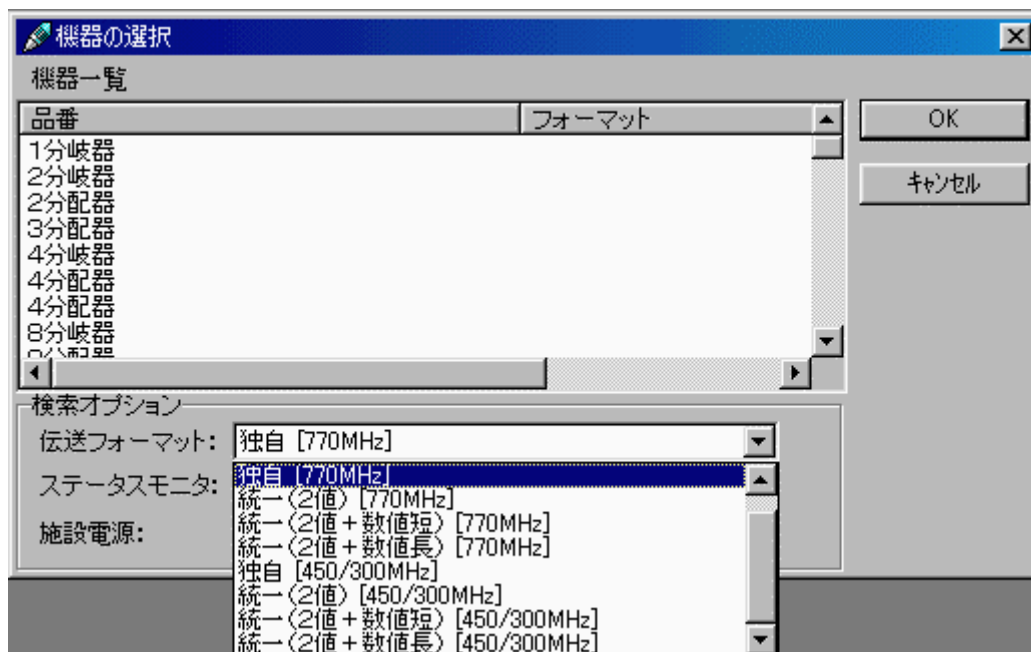
3. [機器の選択]ダイアログボックスで入力したい機器を選択して[OK]ボタンをクリックします。入力を中止するときは[キャンセル]ボタンをクリックします。





[ヒント]

- [検索オプション]の[伝送フォーマット]コンボボックスでデータフォーマットを選択すると、対応した機器のみを機器一覧リストボックスに表示します。同様に、[ステータスマニタ]、[施設電源]コンボボックスで選択すると、対応した機器のみを機器一覧リストボックスに表示します。それぞれのオプション内容については次項の[検索オプションについて]をご覧ください。



[検索オプションについて]

- 伝送フォーマット：機器に搭載されたステータスマニタユニットとのデータ通信で使用される伝送形式を表します。

フォーマット	説明
独自	D X アンテナ独自のコマンド体系を備えた伝送フォーマットです。伝送システムにより、さらに[770MHz]と[450/300MHz]があります。
統一	日本 C A T V 技術協会規格の標準伝送フォーマットです。こちらを選ぶことにより、標準仕様に準拠した機器の監視・制御・データ蓄積が可能です。監視できる項目数により(2 値のみ)、(2 値+数値短)、(2 値+数値長)があります。伝送システムにより、さらに[770MHz]と[450/300MHz]があります。
C-COR	C - C O R 社 F l e x N e t ノードアンプに対応した伝送フォーマットです。

- ステータスマニタ：機器に搭載されたステータスマニタユニットを表しています。
- 施設電源：施設で使用される電源の電圧を表し、30V施設用と60V施設用があります。

### (3)線分を描画する

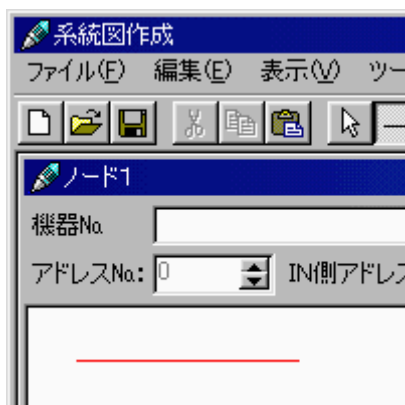
系統図ウィンドウ上に線分を描画し機器と機器を接続します。

#### [操作方法]

1. ツールバーの[線分]をクリックします。(マウスカーソルが $\perp$ になります。)



2. 系統図ウィンドウの任意の位置でマウスをダウンします。
3. 系統図の任意の位置までマウスをダウンしたままマウスを移動します。



4. 系統図の任意の位置でマウスをアップします。



- 線分は水平線または垂直線のみ描画できます。斜めの線分は描画できません。

### (4)直角に曲がった線分を描画する

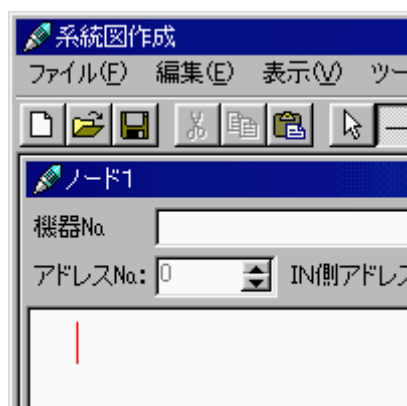
系統図ウィンドウ上に直角に曲がった線分を描画します。

[ 操作方法 ]

1. ツールバーの [ 線分 ] をクリックします。(マウスカーソルが になります。)



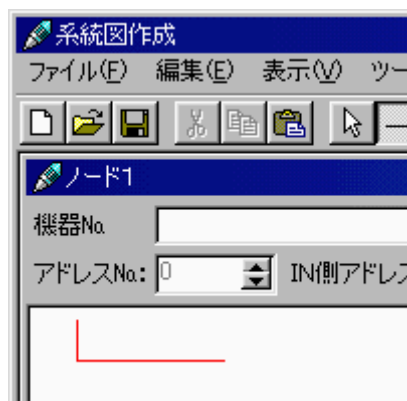
2. 系統図ウィンドウの任意の位置でマウスをダウンします。。
3. 系統図の任意の位置までマウスをダウンしたままマウスを移動します。



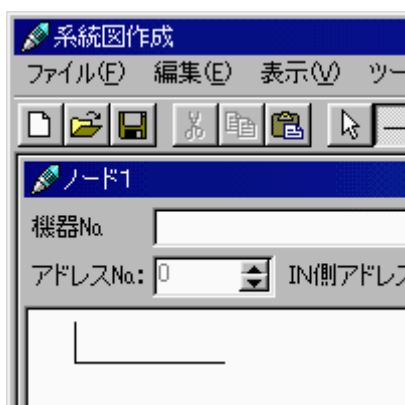
4. 系統図の任意の位置でマウス直角方向に移動します。

[ ヒント ]

曲がる方向を変えるときは「SHIFTキー」を押しながらマウスを移動します。



5. 系統図の任意の位置でマウスをアップします。



6. 1 から 5 の操作を繰り返します。

線分は水平線または垂直線のみ描画できます。斜めの線分は描画できません。

#### (5) 端点を検出して線分を描画する

線分の描画を開始する点でクリックしたとき、その近傍で機器の端点を検出すると、開始点を端点に移動させて線分の描画を開始します。

#### [ 操作方法 ]

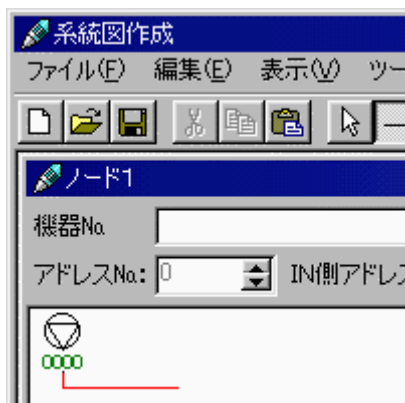
1. ツールバーの [ 選択 ] をクリックします。



2. 系統図ウィンドウの機器の近傍へマウスを移動します。

3. マウスカーソルが+に変わり、機器の端点を検出しますのでマウスをダウンします。

4. 系統図の任意の位置までマウスをダウンしたままマウスを移動します。



5. 系統図の任意の位置でマウスをアップします。



[ 端点について ]

- 端点は、機器の入出力端子などにあらかじめ系統図キャラクタ作成ソフトで設定されています。また、クリックした点から約5ドット以内で最も近い点を検出します。
- 線分描画を開始する点では機器の端点を検出し、終了する点では機器と線分の端点を検出します。

## VI. 系統図を編集する

### (1) 機器を選択する

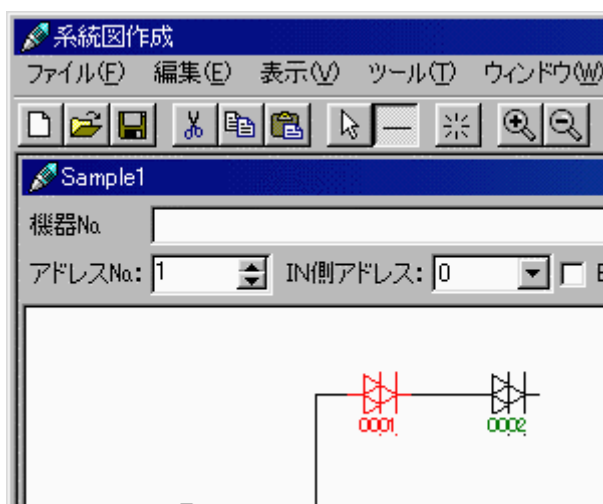
系統図ウィンドウで、コピー・切り取り・貼り付けなど編集の対象となる機器を選択します。

[ 操作方法 ]

1. ツールバーの[選択]をクリックします。



2. 選択したい機器をクリックします。
3. 機器を選択したことを示す赤色になります。



## (2) 線分を選択する

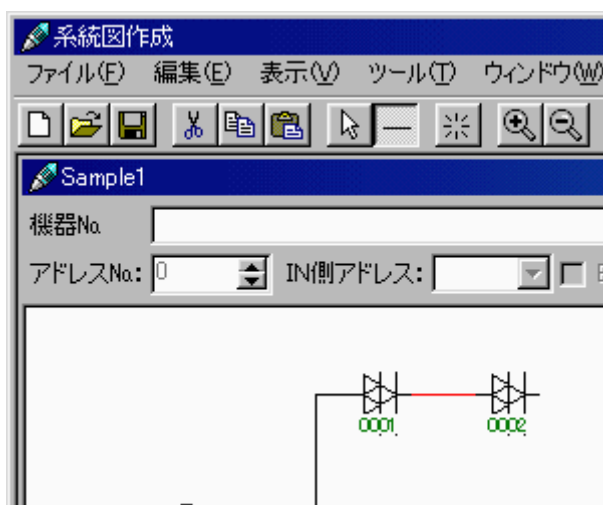
系統図ウィンドウで、コピー・切り取り・貼り付けなど編集の対象となる線分を選択します。

### [ 操作方法 ]

1. ツールバーの[選択]をクリックします。



2. 選択したい線分をクリックします。
3. 線分を選択したことを示す赤色になります。



### [ ヒント ]

- クリックした位置のまわりに複数の線分があるときは、クリックした位置から約5ドット以内の一番近い線分を選択します。
- 線分を選択したとき、両端から約5ドット以内をクリックすると端点を選択したことになります。このときカーソルが になります。
- 短い線分(約10ドット)を選択したときは、端点を選択されたことになります。

### (3) 範囲を指定して機器・線分を選択する

系統図ウィンドウで、コピー・切り取り・貼り付けなど編集の対象となる機器・線分を範囲を指定して複数選択します。

### [ 操作方法 ]

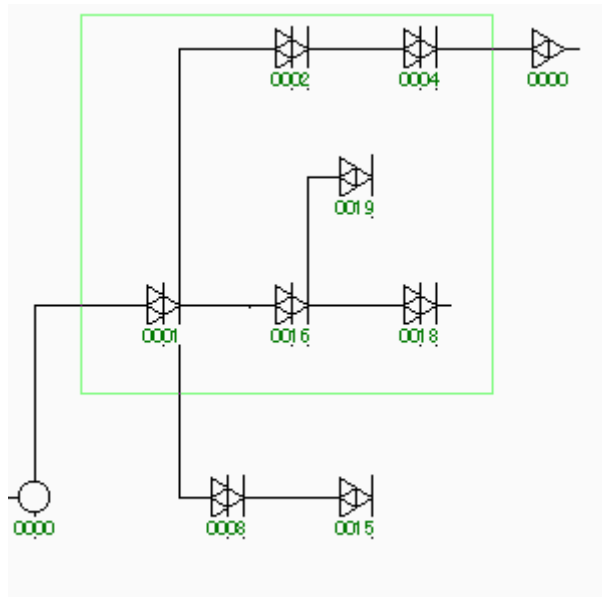
1. ツールバーの[選択]をクリックします。

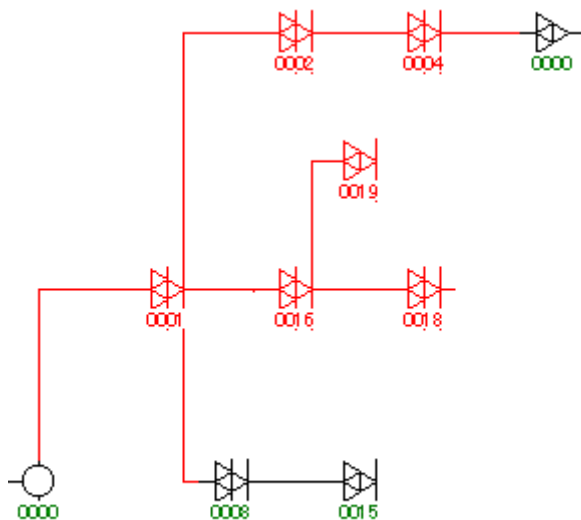


2. 選択したい機器・線分を囲む四角形の左上の位置から右下の位置までドラッグします。

### [ 注意 ]

選択の開始位置を機器、または線分上で指定した場合は、単独選択となるので、それよりも外側の何も要素がない位置から範囲指定を行ってください。





- 範囲選択はセル単位で選択できます。
- ドラッグしている間選択範囲を示す緑色の枠を表示します。
- 選択を開始するセルと終了するセルが同じときは選択できません。
- 系統図ウィンドウからはみ出して選択することはできません。

#### (4) 系統図の選択を解除する

選択している機器や線分の選択を解除します。

##### [操作方法]

1. 系統図ウィンドウで機器・線分のない位置をクリックします。

#### (5) 系統図を切り取る

選択している機器・線分の情報をメモリへ取り込み表示を消します。

##### [操作方法 1]

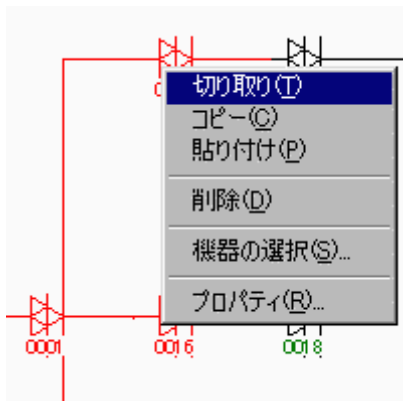
1. 機器・線分を選択している状態にします。
2. [編集]メニューをクリックし[切り取り]をクリックします。または、ツールバーの[切り取り]をクリックします。





[ 操作方法 2 ]

1. 機器・線分を選択している状態にします。
2. マウスを右クリックしポップアップメニューで[切り取り]をクリックします。



- 機器・線分を選択していない状態ではこの操作はできません。
- 切り取った機器・線分はクリップボードへはコピーされません。

(6) 系統図をコピーする

選択している機器・線分の情報をメモリへ取り込みます。

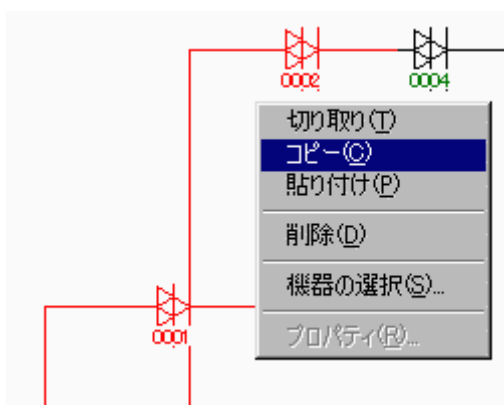
[ 操作方法 1 ]

1. 機器・線分を選択している状態にします。
2. [編集]メニューをクリックし[コピー]をクリックします。または、ツールバーの[コピー]をクリックします。



[ 操作方法 2 ]

1. 機器・線分を選択している状態にします。
2. マウスを右クリックしポップアップメニューで[コピー]をクリックします。



- 機器・線分を選択していない状態ではこの操作はできません。
- コピーした系統図はクリップボードへはコピーされません。

#### (7) 系統図を貼り付ける

切り取り・コピーした機器・線分の情報を系統図ウィンドウに貼り付けます。

##### [ 操作方法 1 ]

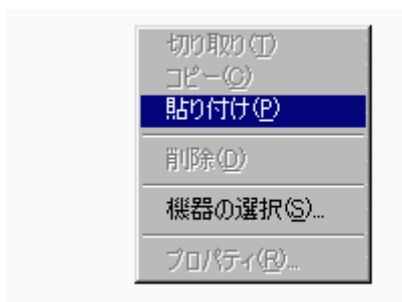
1. [編集]メニューをクリックし[貼り付け]をクリックします。または、ツールバーの[貼り付け]をクリックします。



2. 系統図ウィンドウの左上の位置に貼り付けられます。

##### [ 操作方法 2 ]

1. 貼り付ける位置で右クリックしポップアップメニューで[貼り付け]をクリックします。



2. 系統図ウィンドウのクリックした位置に貼り付けられます。

[ 注意 ]

- 切り取り・コピー操作で機器・線分の情報がメモリに入っていないときはこの操作はできません。

#### (8) 系統図を削除する

選択している機器・線分の情報を削除します。

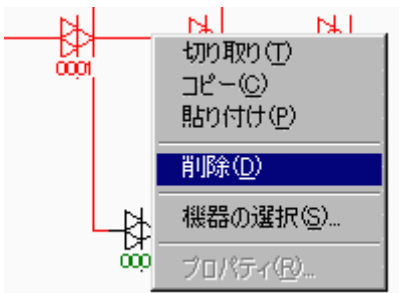
[ 操作方法 1 ]

1. 機器・線分を選択している状態にします。
2. [編集]メニューをクリックし[削除]をクリックします。



[ 操作方法 2 ]

1. 機器・線分を選択している状態にします。
2. マウスを右クリックしポップアップメニューで[削除]をクリックします。



- 機器・線分を選択していない状態ではこの操作はできません。
- 削除した系統図はクリップボードへはコピーされません。
- 削除した機器・線分を元に戻すことはできません。

#### (9) 系統図を移動する

選択している機器・線分を任意の位置に移動します。

[ 操作方法 ]

1. 機器・線分を選択している状態にします。

2. 機器・線分を任意の位置までドラッグします。

- 機器や線分の移動単位はセル単位となっています。
- 選択している機器・線分を異なった系統図ウィンドウに移動することはできません。
- [切り取り][貼り付け]操作を繰り返しても系統図を移動することができます。
- 短い線分（約10ドット程度）を移動するときは、線分の端点を検出するため、一旦線分を長くしてから線分を移動してください。

#### (10) 線分の長さを変更する

選択している線分の長さを変更します。

##### [操作方法]

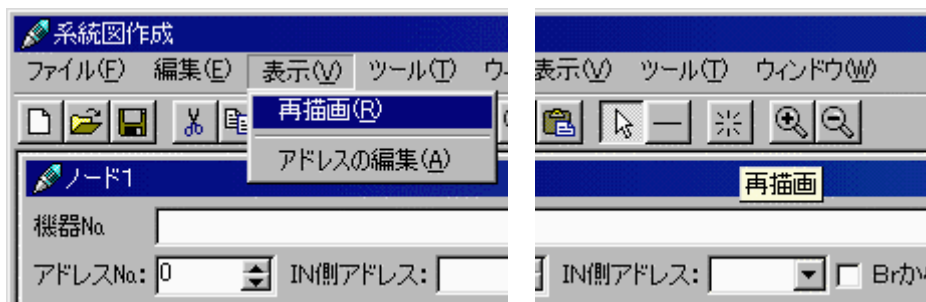
1. [Ctrl]キーを押しながら、長さを変更したい線分の端点にマウスカーソルを持って行くと $\perp$ に変化するので、その位置から任意の長さまでドラッグします。
  - 系統図ウィンドウをはみ出して線分を長くすることはできません。

#### (11) 系統図を再描画する

機器や線分を移動・切り取り・などの操作で系統図ウィンドウが乱れたときに整えて再表示します。

##### [操作方法]

1. [表示]メニューをクリックし[再描画]をクリックします。または、ツールバーの[再描画]をクリックします。

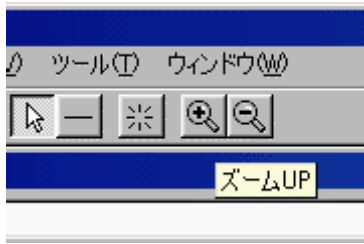


#### (12) 系統図を拡大する

系統図ウィンドウで機器・線分を拡大して表示します。

##### [操作方法]

1. ツールバーの[ズームUP]をクリックします。



- 表示する比率は[縮小][標準][拡大]の3段階です。
- 系統図ウィンドウの左上の位置を原点として拡大表示します。

### (13) 系統図を縮小する

系統図ウィンドウで機器・線分を縮小して表示します。

#### [操作方法]

1. ツールバーの[ズームDown]をクリックします。



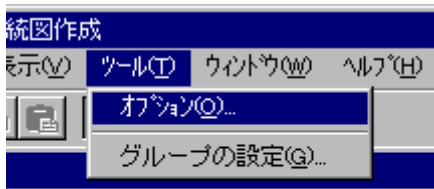
- 表示する比率は[縮小][標準][拡大]の3段階です。
- 系統図ウィンドウの左上の位置を原点として縮小表示します。

### (14) 系統図ウィンドウの領域を変更する

セルの数を指定して系統図ウィンドウの作業エリアを変更します。

#### [操作方法]

1. [ツール]メニューをクリックし[オプション]をクリックします。



2. [オプション]ダイアログボックスでセルの数を設定します。



3. 設定内容を保存する場合は[OK]ボタンをクリックします。保存しない場合は[キャンセル]ボタンをクリックします。
  - 設定可能な範囲は、64～512です。
  - 初期値は128行・128列です。
  - 系統図ウィンドウで機器（線分を除く）が描画してある範囲より小さな値を設定することはできません。

## VII. グループを設定する

### (1) グループを設定する

ステータスマニタセンターソフトでは、同一ノードまたは異なったノードの機器をグループにまとめて管理・監視することができます。

[ 機器をグループに登録するには ]

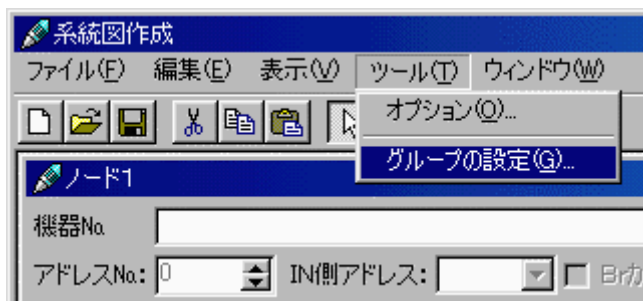
1. [ツール]・[グループの設定]メニューで新しいグループを追加登録します。
2. [機器のプロパティ]で属するグループを選択します。

### (2) グループ名を新しく追加する

新しくグループを追加します。

[ 操作方法 ]

1. [ツール]メニューをクリックし[グループの設定]をクリックします。

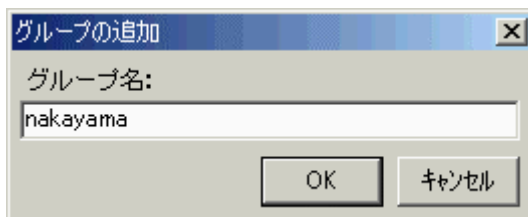


2. [グループ]ダイアログボックスで[追加...]ボタンをクリックします。  
グループの追加を中止するときは[OK]ボタンをクリックします。

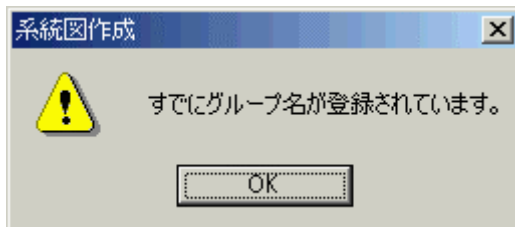


3. [グループ名の追加]ダイアログボックスでグループ名を入力して[OK]ボタンをクリックします。半角16文字まで入力できます。

グループの追加を中止するときは[キャンセル]ボタンをクリックします。



- グループ一覧に存在しているグループ名を新しく追加することはできません。



### (3) グループ名を削除する

登録済みのグループを削除します。

#### [操作方法]

1. [ツール]メニューをクリックし[グループの設定]をクリックします。



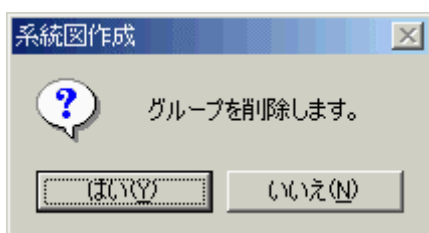


2. [グループ]ダイアログボックスで、削除したいグループ名称を一覧の中から選択して[削除]ボタンをクリックします。

グループの削除を中止するときは[OK]ボタンをクリックします。



3. [グループを削除します。]と表示しますので削除をするときは[はい]ボタンをクリックします。削除しないときは[いいえ]ボタンをクリックします。



[ 注意 ]

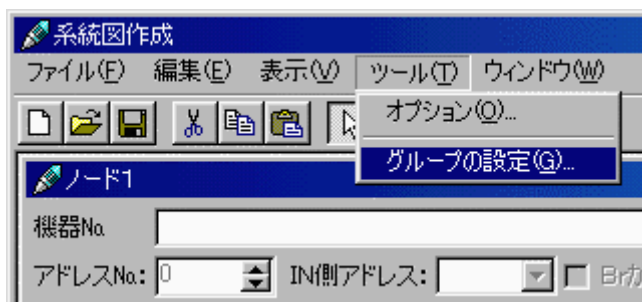
- 削除したグループ名を復元することはできません。
- 機器のプロパティで選択しているグループを削除すると、機器のプロパティのグループは未選択の状態になります。
- 2 の操作でグループを選択しないで[削除]ボタンをクリックしても削除操作はできません。

#### (4) グループ名を変更する

登録済みのグループ名を変更します。

##### [操作方法]

1. [ツール]メニューをクリックし[グループの設定]をクリックします。

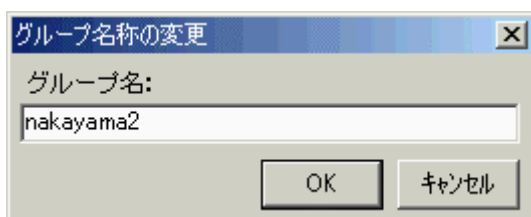


2. [グループ]ダイアログボックスで、変更したいグループ名称を一覧の中から選択して[名称変更...]ボタンをクリックします。



3. [グループ名称の変更]ダイアログボックスで新しいグループ名を入力して[OK]ボタンをクリックします。

グループ名の変更を中止するときは[キャンセル]ボタンをクリックします。



- グループ一覧に存在しているグループ名に変更することはできません。
- 2の操作でグループを選択しないで[名称変更...]ボタンをクリックしても変更操作はできません。。

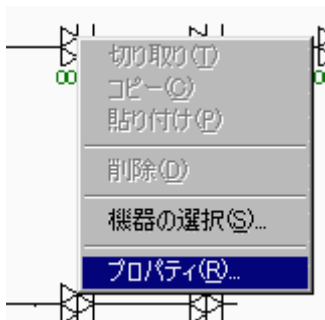
## VIII. 機器構成を設定する

### (1) 機器構成を設定する

系統図ウィンドウに入力した系統図キャラクタが、どのような機器であるかを個別に設定します。

#### [操作方法]

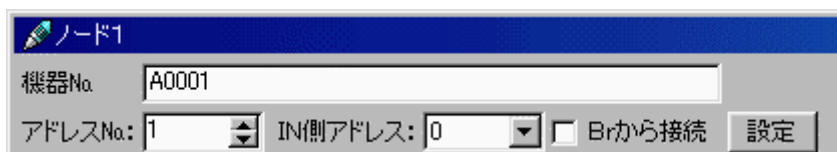
1. ツールバーで[選択]ツールをクリックします。
2. 系統図ウィンドウで配置済みの機器を右クリックします。
3. ポップアップメニューで[プロパティ]をクリックします。



4. [機器のプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
  - 機器が配置されていない個所で右クリックしてもポップアップメニューの[プロパティ]は選択できません。
  - 機器をダブルクリックすると2から4の操作を一度で行うことができます。
  - 線分に機器構成を設定することはできません。
  - ステータスマニタユニットを内蔵している機器と内蔵していない機器とで[機器のプロパティ]ダイアログボックスの内容が異なります。(設定できる内容が異なります。)

#### [ヒント]

- 機器 ・ アドレス ・ IN側アドレス ・ Brからの接続の有無に関しては、[表示]メニューの[アドレスの編集]をクリックし、チェックを入れることで、系統図ウィンドウに下の絵のような設定部分が表示され、直接設定することができます。
- その場合、設定する機器を選択状態にすることで[設定]ボタンが有効になるので、設定値を入力後、[設定]ボタンをクリックしてください。(機器により設定可能な項目が変わります。)



(2) 機器情報を設定する (ステータスマニタユニット付き)

[機器のプロパティ]のうち[機器の情報]について設定します。ここで設定した内容は、ステータスマニタの[機器個別情報]ダイアログボックス・[情報]タブで表示します。

[操作方法]

1. [機器のプロパティ]ダイアログボックスで[機器情報]タブをクリックします。

The screenshot shows a Windows-style dialog box titled '機器のプロパティ'. At the top, there's a dropdown for 'アドレスNo:' with the value '2'. Below that is a tabbed interface with '機種情報', '機器情報', '補正值', '基準値', '正常範囲', 'ポーリング', and '属'. The '機器情報' tab is active, showing several input fields: '機器No:' with 'A-0001', 'シリアルNo:', '電柱No:', 'PSNo:' with 'PS--1', 'グループ名:' with 'Group1', 'EQ:', 'BON:', and '入力ATT:'. At the bottom right, there are 'OK' and 'キャンセル' buttons.

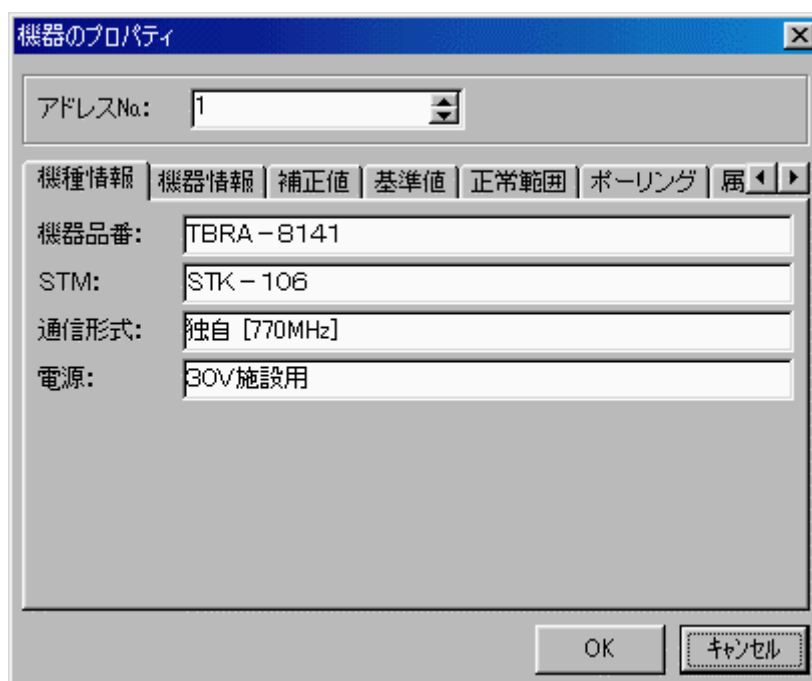
2. 他の情報を設定するときは[補正值][基準値][ポーリング]等のタブをクリックします。設定した内容を記録してダイアログボックスを閉じるときは[OK]ボタンをクリックします。設定した内容を記録しないでダイアログボックスを閉じるときは[キャンセル]ボタンをクリックします。

[機器情報]タブでの設定内容

項目	説明
アドレス	機器に内蔵されているステータスマニタユニットのアドレスを入力します。入力できるアドレスは[1]~[9 9 9 9]です。重複したアドレスは入力できません。機器をポーリングの対象外にするときは[0]を入力します。アドレスを入力して[OK]ボタンをクリックすると系統図ウィンドウで機器の下にアドレスを表示します。(設定値は半角で入力してください。)
機器	機器の を入力します。入力は半角で16文字までです。
シリアル	シリアル を入力します。入力は半角で16文字までです。
電柱	電柱 を入力します。入力は半角で16文字までです。

- P S 系統図ウィンドウで設定した電源装置の機器 がコンボボックス一覧に表示されますので、該当するものを選択します。系統図に登録した電源装置に機器 が設定されていない場合は一覧表示されません。該当する電源装置を系統図ウィンドウから削除または、移動した場合はこの設定が解除されるので、再度設定しなおしてください。
- グループ名 [ツール]・[グループの設定]メニューで設定したグループ名の中から選択します。この項目を設定済みのときで該当するグループを削除したときはグループを選択していない状態になります。
- E Q E Qの設定値を入力します。入力は半角で8文字までです。(数値以外でも可)
- B O N B O Nの設定値を入力します。入力は半角で8文字までです。(数値以外でも可)
- 入力A T T 入力A T Tの設定値を入力します。入力は半角で8文字までです。(数値以外でも可)

3. 必要に応じて[機種情報]タブをクリックします。



[機種情報]タブでの表示内容

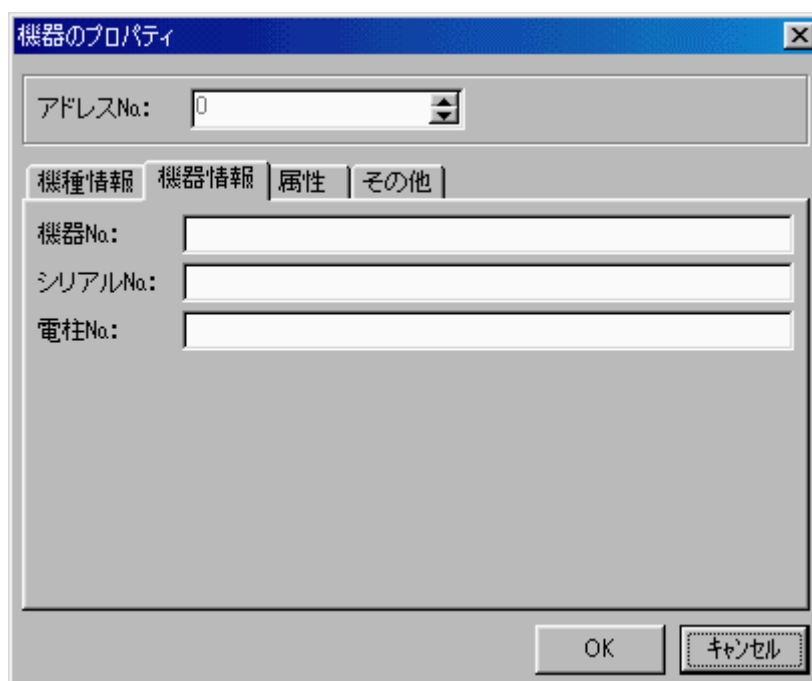
項目	説明
機器品番	機器を系統図ウィンドウに配置したときに選択した品番を表示します。
S T M	機器に内蔵されているステータスマニタユニットを表示します。
通信形式	ステータスマニタユニットの通信形式を表示します。
電源	施設の電源電圧を表示します。

(3) 機器情報を設定する (ステータスマニタユニット無し)

[機器のプロパティ]のうち[機器の情報]について設定します。ここで設定した内容は、ステータスマニタの[機器個別情報]ダイアログボックス・[情報]タブで表示します。

[操作方法]

1. [機器のプロパティ]ダイアログボックスで[機器情報]タブをクリックします。



2. 設定した内容を記録してダイアログボックスを閉じるときは[OK]ボタンをクリックします。設定した内容を記録しないでダイアログボックスを閉じるときは[キャンセル]ボタンをクリックします。

[機器情報]タブでの設定内容

項目	説明
機器	機器の を入力します。入力は半角で16文字までです。
シリアル	シリアル を入力します。入力は半角で16文字までです。
電柱	電柱 を入力します。入力は半角で16文字までです。

3. 必要に応じて[機種情報]タブをクリックします。

機器のプロパティ

アドレスNo.: 0

機種情報 | 機器情報 | 属性 | その他

機器品番: 2分配器

OK キャンセル

[機種情報]タブでの表示内容

項目	説明
機器品番	機器を系統図ウィンドウに配置したときに選択した品番を表示します。

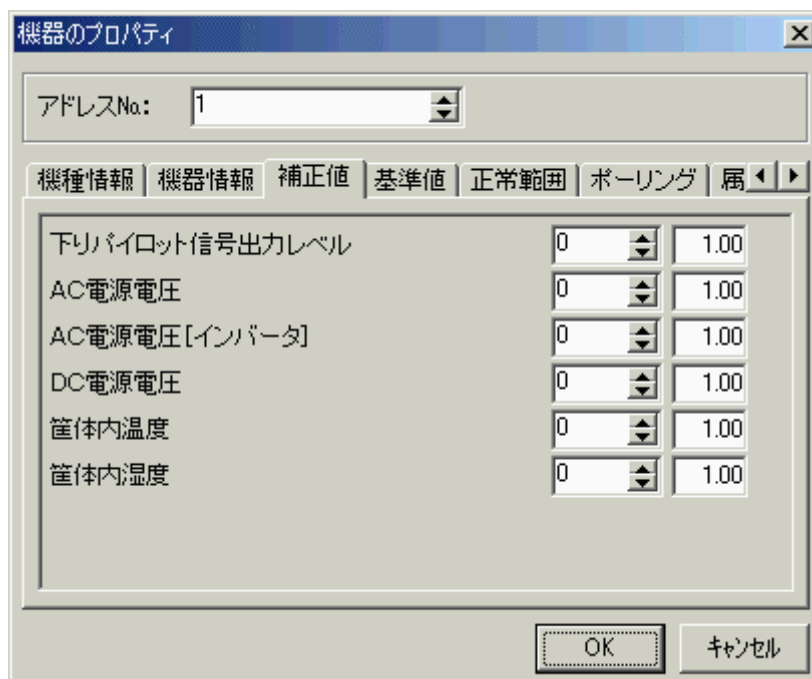
- ステータスマニタユニット無しの機器ではアドレスの設定はできません。( [0] 固定です。 )

#### (4)補正値を設定する

この設定は、ステータスマニタソフトの[機器のプロパティ]で監視[数値]タブに表示される状態の値を補正します。ここで設定した内容は、機器に搭載されているステータスマニタユニットからの数値情報をステータスマニタソフトに正しく表示するために使用されます。

#### [操作方法]

1. [機器のプロパティ]ダイアログボックスで[補正値]タブをクリックします。



2. 他の情報を設定するときは[機器情報][基準値][ポーリング]等のタブをクリックします。設定した内容を記録してダイアログボックスを閉じるときは[OK]ボタンをクリックします。設定した内容を記録しないでダイアログボックスを閉じるときは[キャンセル]ボタンをクリックします。

#### [補正値]タブでの設定内容

該当する項目の補正値を入力またはアップダウンボタンで選択します。入力できる範囲は - 1 2 8 ~ 1 2 7 です。

設定値の横の数値は倍率を表しています。

例えば、筐体内温度を[30]に設定した場合は倍率が[1.00]なので、30度を表します。

#### [ヒント]

- ステータスマニタユニットからは常に正しい数値情報を受信していますが、どうしても数値情報がずれるときのみ補正値を設定するようにしてください。
- ステータスマニタソフトでも設定することができます。(ステータスマニタの VI . 機器個別情報、(11)監視[数値]項目の内容を設定するの項を参照してください。)

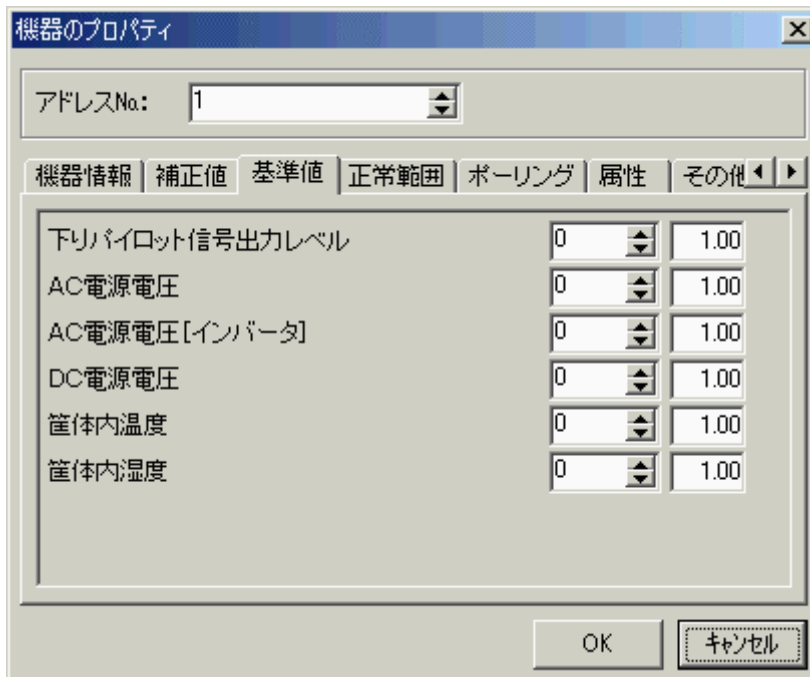


#### (5) 基準値を設定する

この設定は、ステータスマニタソフトの[機器のプロパティ]で監視[数値]タブに表示される状態の基準値を変更します。ここで設定した内容は、機器に搭載されているステータスマニタユニットからの数値情報をステータスマニタソフトに正しく表示するために使用されます。

#### [操作方法]

1. [機器のプロパティ]ダイアログボックスで[基準値]タブをクリックします。



2. 他の情報を設定するときは[機器情報][正常範囲][ポーリング]等のタブをクリックします。設定した内容を記録してダイアログボックスを閉じるときは[OK]ボタンをクリックします。設定した内容を記録しないでダイアログボックスを閉じるときは[キャンセル]ボタンをクリックします。

#### [基準値]タブでの設定内容

該当する項目の補正値を入力またはアップダウンボタンで選択します。入力できる範囲は - 1 2 8 ~ 1 2 7 です。

設定値の横の数値は倍率を表しています。

例えば、筐体内温度を[30]に設定した場合は倍率が[1.00]なので、30 度を表します。

#### [ヒント]

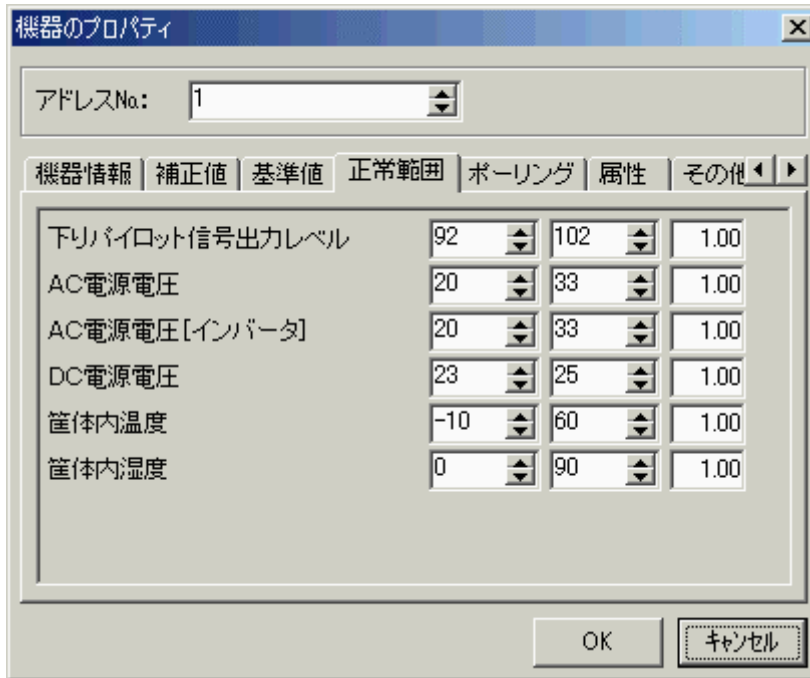
- 例えば、ERA - 8001 などのアンプで、標準出力より 5 dB 下げて運用したいときなどに設定します。
- ステータスマニタソフトでも設定することができます。(ステータスマニタの VI . 機器個別情報、(11)監視[数値]項目の内容を設定するの項を参照してください。)

## (6) 正常範囲を設定する

この設定は、ステータスマニタソフトの[機器のプロパティ]で監視[数値]タブに表示される状態の正常範囲を指定します。ここで設定した内容は、機器に搭載されているステータスマニタユニットからの数値情報をステータスマニタソフトに正しく表示するために使用されます。

### [操作方法]

1. [機器のプロパティ]ダイアログボックスで[正常範囲]タブをクリックします。



2. 他の情報を設定するときは[機器情報][基準値][ポーリング]等のタブをクリックします。設定した内容を記録してダイアログボックスを閉じるときは[OK]ボタンをクリックします。設定した内容を記録しないでダイアログボックスを閉じるときは[キャンセル]ボタンをクリックします。

### [正常範囲]タブでの設定内容

該当する項目の正常範囲を入力またはアップダウンボタンで選択します。入力できる範囲は - 1 2 8 ~ 1 2 7 です。

設定値の横の数値は倍率を表しています。

例えば、筐体内温度を[30]に設定した場合は倍率が[1.00]なので、30度を表します。

### [ヒント]

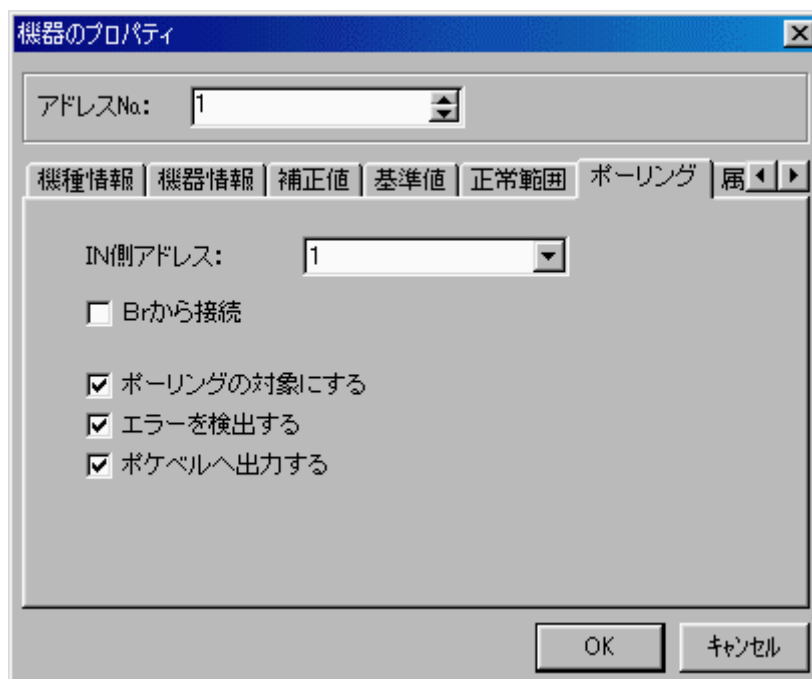
- ここで設定した範囲が、機器の状態を正常か異常か判定するための情報となります。
- ステータスマニタソフトでも設定することができます。(ステータスマニタの VI . 機器個別情報、(11)監視[数値]項目の内容を設定するの項を参照してください。)

## (7) ポーリング情報を設定する

この設定は、機器とポーリングを行うとき、機器がどの機器と接続しているかについての情報を設定します。ここで設定した内容は、ポーリングデータを作成するときに使用します。

### [操作方法]

1. [機器のプロパティ]ダイアログボックスで[ポーリング]タブをクリックします。



2. 他の情報を設定するときは[機器情報][補正值][基準値]等のタブをクリックします。設定した内容を記録してダイアログボックスを閉じるときは[OK]ボタンをクリックします。設定した内容を記録しないでダイアログボックスを閉じるときは[キャンセル]ボタンをクリックします。

### [ポーリング]タブでの設定内容

項目	説明
IN側アドレス	設定中の機器のIN側と接続されている機器のアドレスをリストボックス一覧から選択します。サブセンター (RF モデム) と直結のときは[0]を選択します。IN側の機器のアドレスが[0] (ポーリングの対象外にしている機器) のときは、もう一つ前の機器のアドレスを設定します。設定中のアドレスが[0]のときはIN側アドレスを選択しないでください。(選択しても選択していない状態に戻ります。)
Brから接続	設定中の機器のIN側と接続している機器のBr側に接続しているときにチェックボックスを[ON]にします。[OUT]側に接続しているときはチェックボックスを[OFF]にします。

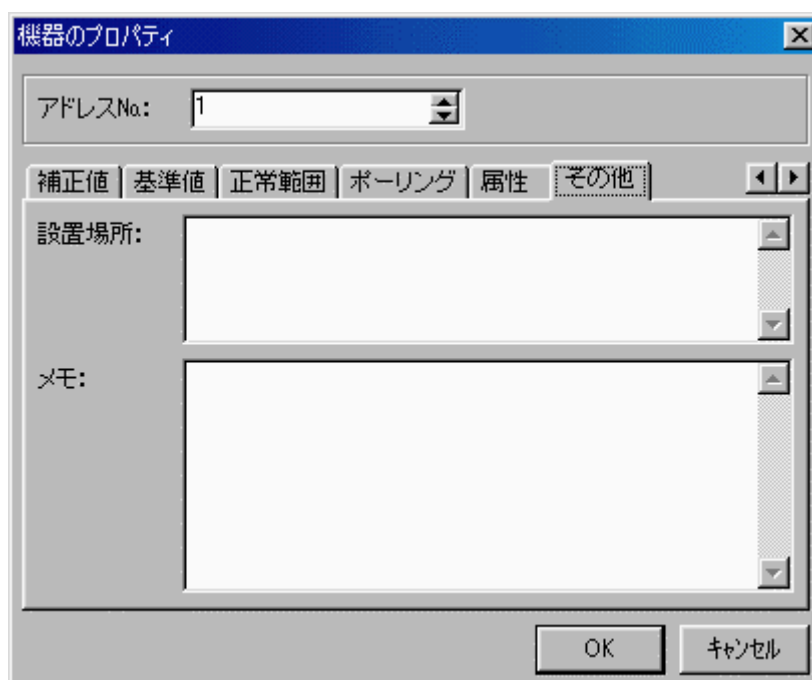
- |             |  |
|-------------|--|
| ポーリングの対象にする | 設定中の機器をポーリングの対象にする場合は[ON]にします。[OFF]の場合、設定中の機器の監視・制御は行いません。 |
| エラーを検出する    | エラーが発生したとき、画面表示やポケベル出力等のエラー処理を行う場合は[ON]にします。               |
| ポケベルへ出力する   | エラーが発生したとき、ポケベルへ出力する場合は[ON]にします。                           |

#### (8) その他の情報を設定する

[機器のプロパティ]のうち[その他] (機器の設置場所やメモ) について設定します。

#### [操作方法]

1. [機器のプロパティ]ダイアログボックスで[その他]タブをクリックします。



2. 他の情報を設定するときは[機器情報][補正值][基準値]等のタブをクリックします。設定した内容を記録してダイアログボックスを閉じるときは[OK]ボタンをクリックします。設定した内容を記録しないでダイアログボックスを閉じるときは[キャンセル]ボタンをクリックします。

#### [その他]タブでの設定内容

項目	説明
設置場所	設定中の機器が設置されている場所を入力します。入力は半角で 256 文字までです。
メモ	メモを入力します。入力は半角で 256 文字までです。

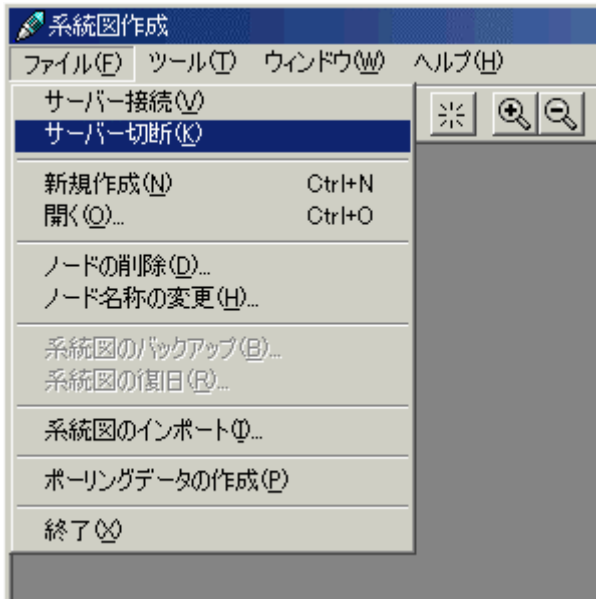
## IX. 系統図をバックアップする

### (1) 系統図をバックアップする

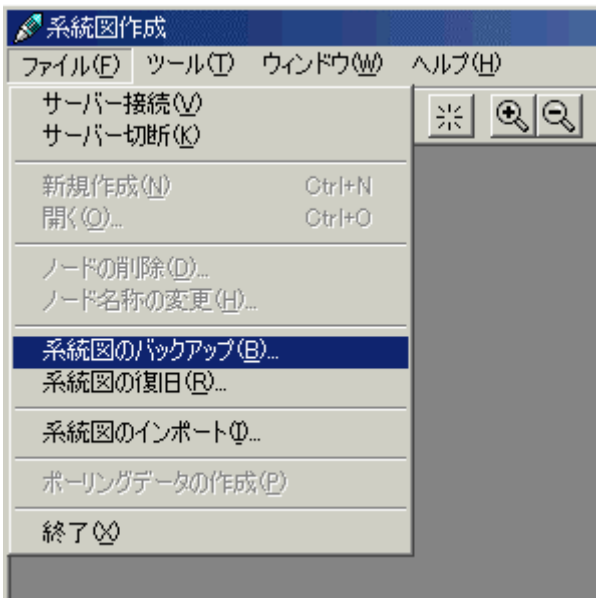
系統図のバックアップを作成します。

#### [操作方法]

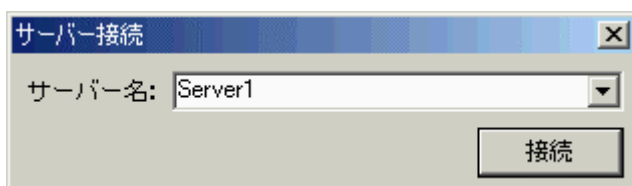
1. サーバーに接続している場合は、[ファイル]メニューで[サーバー切断]をクリックします。(系統図を開いている場合はすべて閉じてから行ってください。)



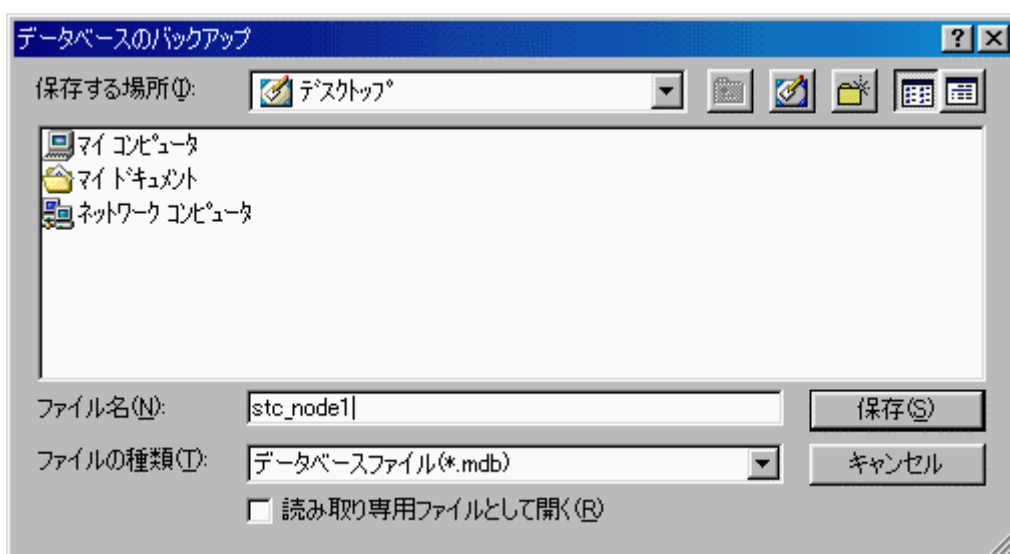
2. [ファイル]メニューで[系統図のバックアップ]をクリックします。



3. [サーバー接続]ダイアログでバックアップを行うデータの入ったサーバーを指定し、[接続]ボタンをクリックします。



4. ファイル名、保存する場所を設定し、[保存]ボタンをクリックします。



バックアップが完了するまで、しばらくかかります。

以上で、系統図のバックアップは完了です

## X. 系統図を復旧する

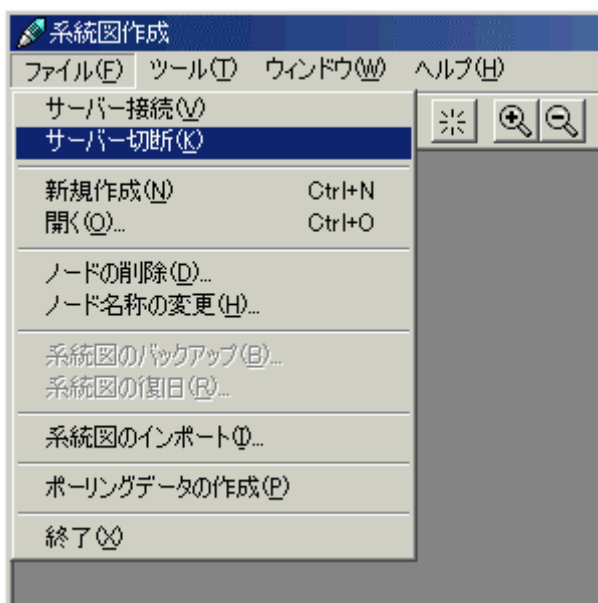
### (1) 系統図を復旧する

系統図を復旧します。

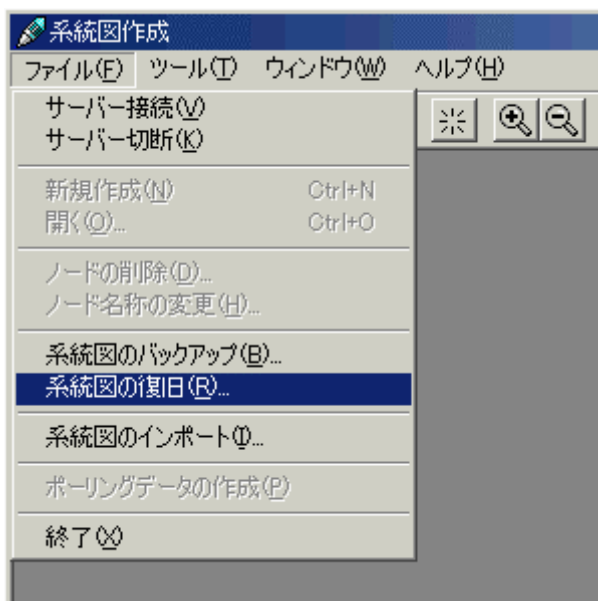
**注：復旧を行うと現在登録されている系統図は全て上書きされます。**

#### [ 操作方法 ]

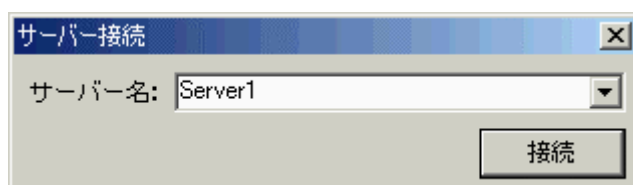
1. サーバーに接続している場合は、[ファイル]メニューで[サーバー切断]をクリックします。( 系統図を開いている場合はすべて閉じてから行ってください。 )



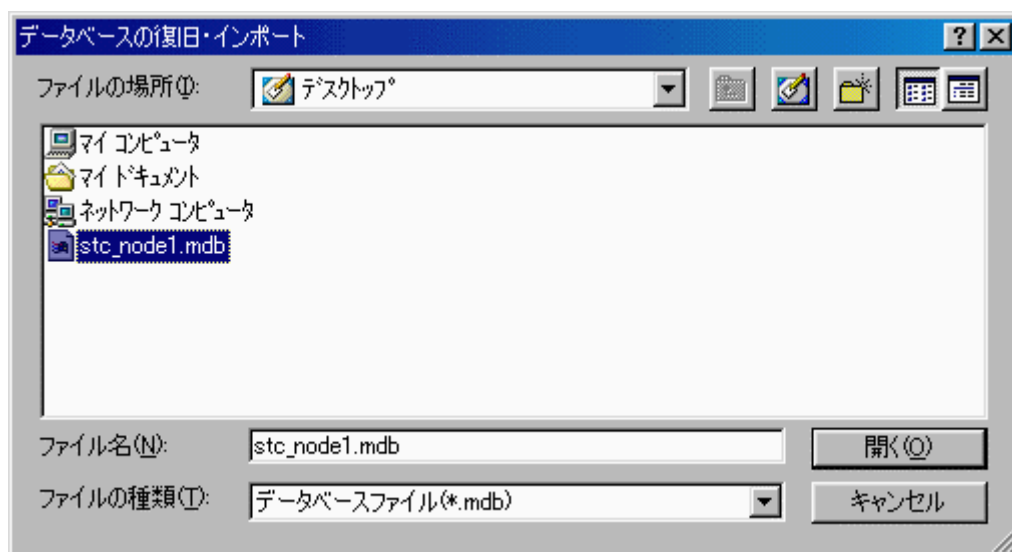
2. [ファイル]メニューで[系統図の復旧]をクリックします。



3. [サーバー接続]ダイアログで復旧を行うサーバーを指定し、[接続]ボタンをクリックします。



4. データベースがバックアップされているフォルダ、ファイル名を選択し、[開く]ボタンをクリックします。



復旧が完了するまで、しばらくかかります。

以上で、系統図の復旧は完了です。

## XI. 系統図をインポートする

### (1) 系統図をインポートする

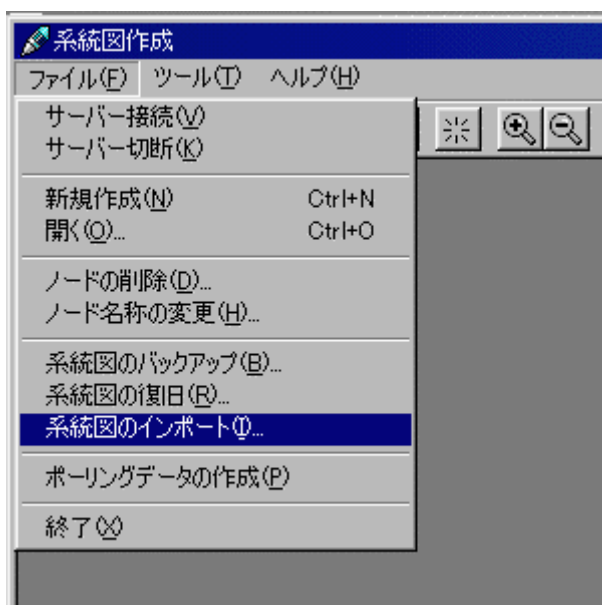
STC-9501 でバックアップした系統図を本ソフトにインポートします。

**注：インポートを行うと現在登録されている系統図は全て上書きされます。**

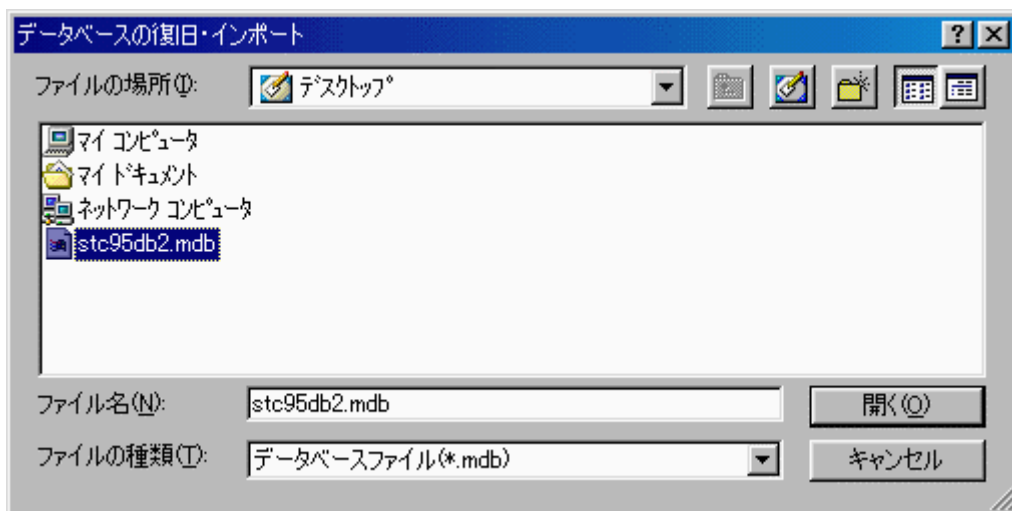
#### [ 操作方法 ]

1. [ファイル]メニューで[系統図のインポート]をクリックします。(サーバー接続していない場合は、先に接続を行ってください。)





2. データベースがバックアップされているフォルダ、ファイル名を選択し、[開く]ボタンをクリックします。（ファイル名は通常 stc95db2.mdb です。）



インポートが完了するまで、しばらくかかります。

以上で、該当する系統図のインポートは完了です。

## XII. ポーリングデータを作成する

### (1) ポーリングデータを作成する

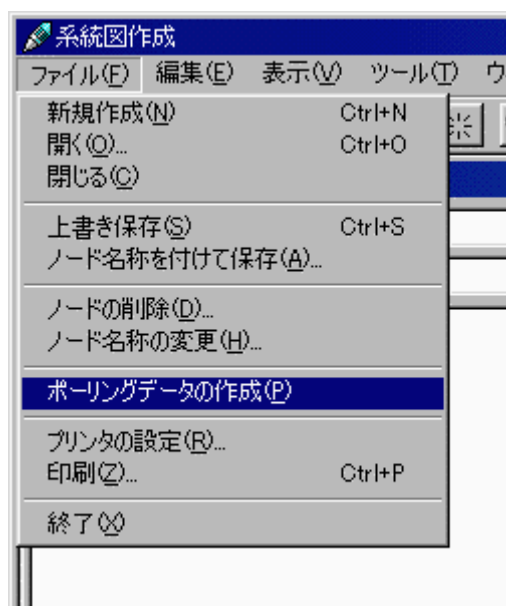
ステータスマニタで、ユニットと送信・受信する順序データを作成します。

#### [重要]

- 系統図ウィンドウ・機器のプロパティで[アドレス ][I N側アドレス][B rから接続]が正しく設定されていることを確認してからポーリングデータを作成してください。
- 作成、変更した系統図をすべて保存してからポーリングデータを作成してください。(保存操作は、選択している系統図ウィンドウが対象となるので、複数の系統図を作成したときはそれぞれについて保存してください。)
- ポーリングデータの作成後に系統図の保存操作を行った場合は、プログラムを終了する前に必ずポーリングデータの作成を行ってから終了してください。ポーリングデータの作成を行わないまま終了すると、データに不整合が生じます。

#### [操作方法]

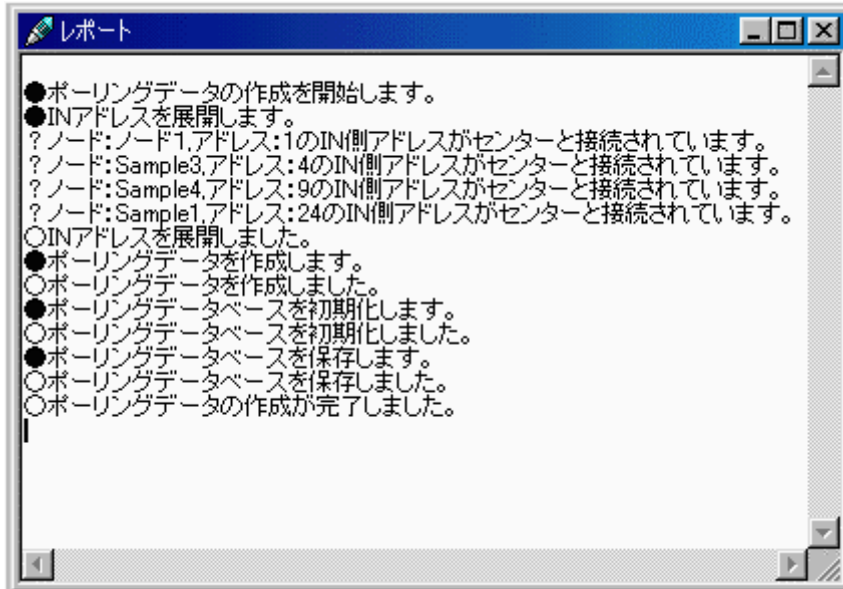
1. [ファイル]メニューをクリックし[ポーリングデータの作成]をクリックします。



2. [ポーリングデータ作成]ダイアログボックスで進行状況を表示します。[レポート]ウィンドウでポーリングデータ作成作業の内容を表示します。
3. [レポート]で[ポーリングデータの作成が完了しました。]と表示されればポーリングデータの作成は完了です。

## (2) レポートをチェックする

ポーリングデータの作成作業状況を表示します。ポーリングデータの作成段階でのエラーやワーニングを検出して表示します。




- エラーが発見されたときはエラーの発生している機器のプロパティを正しく設定し直してください。
- エラーが発生したままだと、ポーリングデータは作成されません。[ポーリングデータの作成が完了しました。]と表示されるまで、[機器のプロパティ]でのポーリング情報の修正と[ポーリング作成]を繰り返して操作してください。

### [ 記号の意味について ]

- … 処理の開始を表します。
- … 処理の終了を表します。
- ? … エラーではないが、問題がある可能性のあるものを表します。ポーリングデータは作成されますが、内容に問題がないことを確認してください。
- × … エラーの発生を表します。問題のある機器のポーリング情報を修正してください。

### [ レポートウィンドウについて ]

レポートウィンドウはポーリングデータの作成操作で自動的に表示します。レポートウィンドウを手動で表示することはできません。レポートウィンドウを閉じるときは、右上の  ボタンをクリックします。

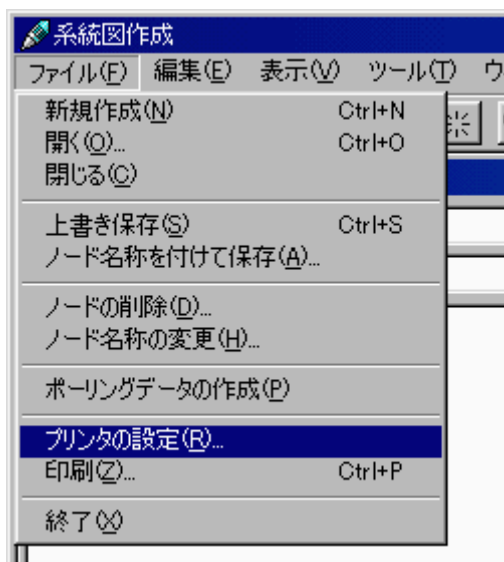
## XIII. 系統図を印刷する

### (1) プリンタを設定する

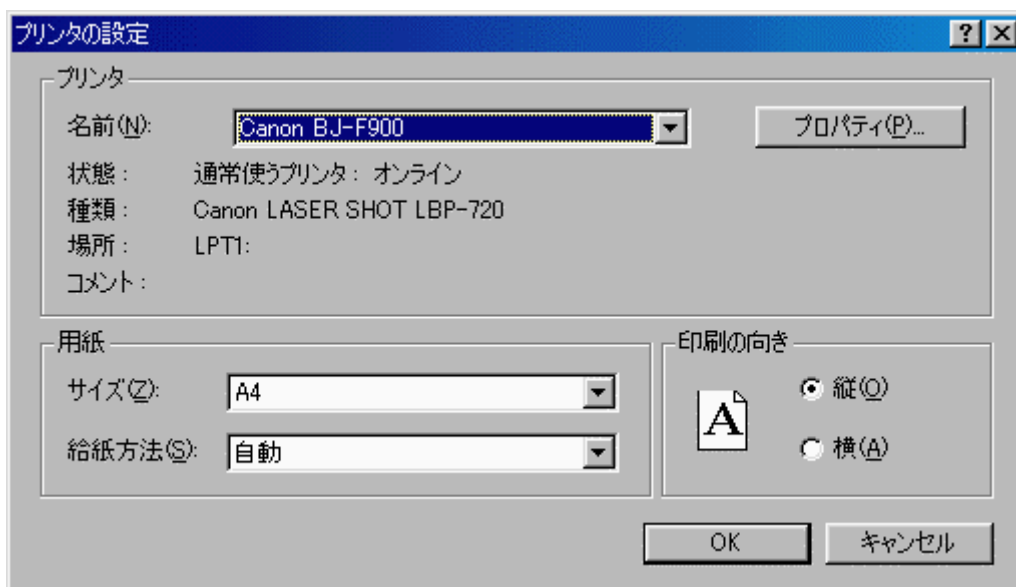
系統図を印刷するプリンタについて設定します。

#### [操作方法]

1. [ファイル]メニューをクリックし[プリンタの設定 . . .]をクリックします。



2. [プリンタの設定]ダイアログボックスを設定します



3. 設定を保存してダイアログボックスを閉じるときは[OK]ボタンをクリックします。設定した内容を保存しないでダイアログボックスを閉じるときは[キャンセル]ボタンをクリックします。

## [プリンタの設定]ダイアログボックスの設定内容

設定項目	説明
プリンタ・名前	コンピュータに設定されているプリンタの一覧から使用するプリンタを選択します。
プリンタ・プロパティ	使用するプリンタの設定を変更します。
用紙・サイズ	使用する用紙のサイズを一覧から選択します。
用紙・給紙方法	使用する用紙が入っているトレイやフィーダを一覧から選択します。
印刷の向き	系統図を印刷する向きを縦または横で指定します。

プリンタの設定をしたとき次のようなメッセージが表示されることがあります。

- プリンタが登録されていません。
- プリンタが見つかりませんでした。
- 選択したプリンタは有効ではありません。
- デフォルトプリンタが存在しません。

これらのメッセージが表示されたときは、正しく設定できません。プリンタの登録やプリンタとの接続などを確認して再度実行してください。

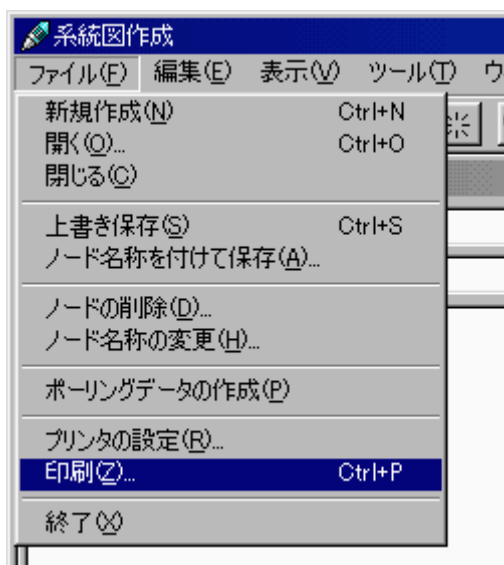
ここでの操作は、系統図ウィンドウを表示しているときのみ操作できます。系統図ウィンドウを表示していないときは操作できません。(メニューがありません。)

### (2)印刷する

系統図ウィンドウに表示している系統図を印刷します。

#### [操作方法]

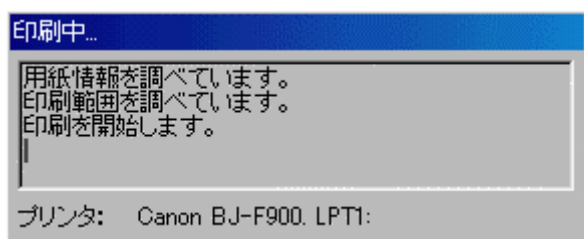
1. [ファイル]メニューをクリックし[印刷...]をクリックします。



2. [系統図の印刷]ダイアログボックスを設定します。



3. 印刷を実行するときは[OK]ボタンをクリックします。印刷を中止するときは[キャンセル]ボタンをクリックします。
4. 印刷内容をスプーラに転送している間[印刷中 . . .]ダイアログボックスを表示します。



[系統図の印刷]ダイアログボックスの設定内容

項目	説明
拡大縮小・比率	系統図を印刷する比率を指定します。30%から400%の間で指定します。100%に設定すると系統図キヤラクタ1つの大きさが約10mmになります。
ヘッダー・ノード名を印刷する	ヘッダー部分(用紙の左上側)にノード名称を印刷するときにチェックボックスを[ON]にします。
ヘッダー・ページを印刷する	ヘッダー部分(用紙の左上側)にページ数を印刷するときにチェックボックスを[ON]にします。
余白	上下左右の余白を設定します。0mmから50mmの間で設定します。
[設定]ボタン	[プリンタの設定]ダイアログボックスを表示します。

印刷の実行をしたとき次のようなメッセージが表示されることがあります。

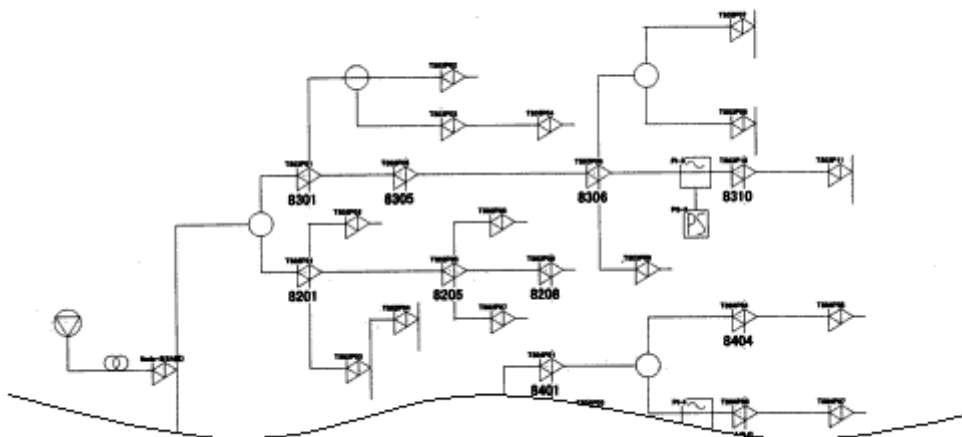
- プリンタが登録されていません。
- このプリンタには印刷できません。
- LPT1:への書き込みエラー

- プリンタが見つかりませんでした。
  - 選択したプリンタは有効ではありません。
  - デフォルトプリンタが存在しません。
  - これらのメッセージが表示されたときは、正しく印刷できません。プリンタの登録やプリンタとの接続などを確認して再度実行してください。
- 
- 印刷できるのは系統図のみです。他の情報の印刷はできません。
  - ここでの操作は、系統図ウィンドウを表示しているときのみ操作できます。系統図ウィンドウを表示していないときは操作できません。(メニューがありません。)

### (3)印刷例

[系統図の印刷]ダイアログボックスで[ノード名を印刷する][ページを印刷する]チェックボックスを[ON]にしたときの印刷イメージを次に示します。

ノード名称:Node-5 ページ:1



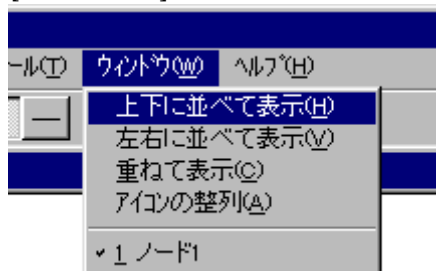
## XIV. ウィンドウを操作する

### (1) 上下に並べて表示

開いているウィンドウを上下に整列して表示します。

[操作方法]

1. [ウィンドウ]メニューをクリックし[上下に並べて表示]をクリックします。



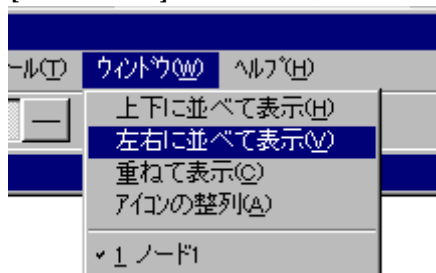
ウィンドウが開いていないときは、このメニューを実行することはできません。

### (2) 左右に並べて表示

開いているウィンドウを左右に整列して表示します。

[操作方法]

1. [ウィンドウ]メニューをクリックし[左右に並べて表示]をクリックします。



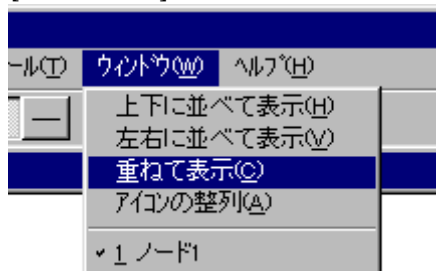
ウィンドウが開いていないときは、このメニューを実行することはできません。

### (3) 重ねて表示

開いているウィンドウを重ねて整列表示します。

[操作方法]

1. [ウィンドウ]メニューをクリックし[重ねて表示]をクリックします。



ウィンドウが開いていないときは、このメニューを実行することはできません。

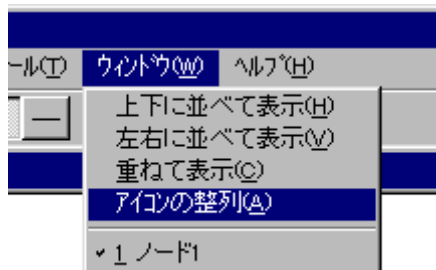


#### (4) アイコンの整列

開いていて最小化している（アイコン状態の）ウィンドウを整列表示します。

##### [操作方法]

1. [ウィンドウ]メニューをクリックし[アイコンの整列]をクリックします。



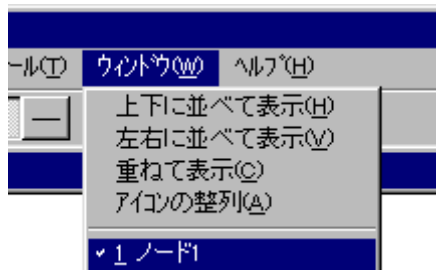
ウィンドウが最小化になっていないときは、このメニューを実行することはできません。

#### (5) 開いている系統図ウィンドウを選択する

現在開いている系統図ウィンドウの一覧から作業したい系統図ウィンドウを選択します。

##### [操作方法]

1. [ウィンドウ]メニューをクリックし[ノード名称]をクリックします。



選択した系統図ウィンドウは一番手前に表示します。メニューにチェックがつきます。

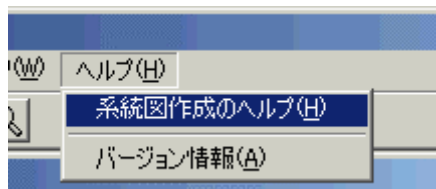
## XV. ヘルプ

### (1) ヘルプを表示する

ステータスマニタ・系統図作成ソフトのヘルプを表示します。

#### [操作方法]

1. [ヘルプ]メニューをクリックし[系統図作成のヘルプ]をクリックします。

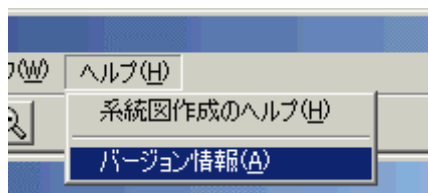


### (2) バージョン情報を表示する

ステータスマニタ・系統図作成ソフトの著作権情報、バージョン などを表示します。

#### [操作方法]

1. [ヘルプ]メニューをクリックし[バージョン情報]をクリックします。



# 通信サーバー

## I. 通信サーバーについて

### (1) 概要

通信サーバーは、ステータスマニタセンターソフトの通信機能を集約したソフトで、下記の機能を有しています。

- RFモデムを介したステータスマニタユニットとの通信
- ポケットベル、ショートメールなど異常発生時のメッセージ送信
- ステータスマニタソフト（自PC、遠隔PC）との通信

### [ 概観図 ]

- 通信状況ウィンドウを表示していない場合



- 通信状況ウィンドウを表示している場合



上段：受信時点灯 下段：送信時点灯

## II. ご注意

### (1) 通信サーバーを起動する前に

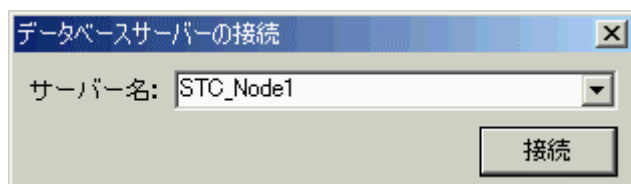
1. パソコン本体とモデムが正しく接続されていることを確認してください。
2. 系統図を作成してから通信サーバーを起動してください。
3. 通信サーバーを起動させてからステータスマニタを起動してください。
4. 通信サーバーと系統図作成を同時に動作させないでください。また通信サーバーとデータ伝送確認を同時に動作させないでください。
5. ステータスマニタセンターソフトのインストールされているパソコンには、他のアプリケーションをインストールしないでください。

### III. 起動と終了

#### (1) 起動する

##### [操作方法]

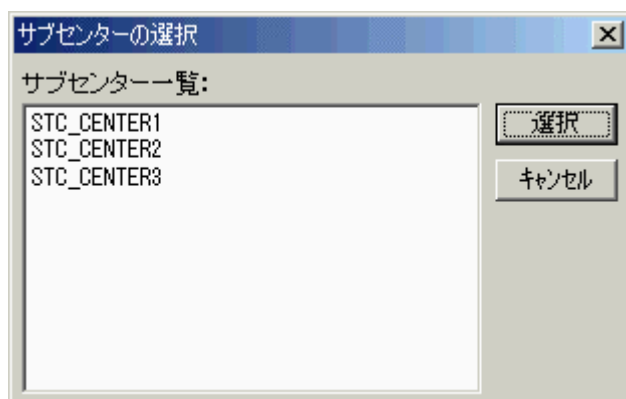
1. [スタートボタン]をクリックし、[プログラム][ステータスマニタセンターソフト]をポイントして、[通信サーバー]をクリックします。
2. [データベースサーバーの接続]ダイアログボックスで、データベースが登録されているサーバーのコンピュータ名を入力して[接続]ボタンをクリックします。



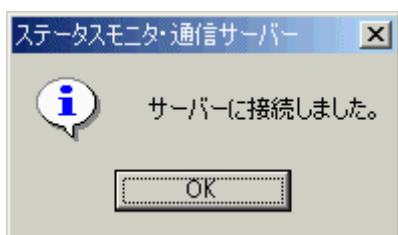
##### [ヒント]

サーバーの接続でコンピュータ名がわからない場合は次のようにして確認することができます。

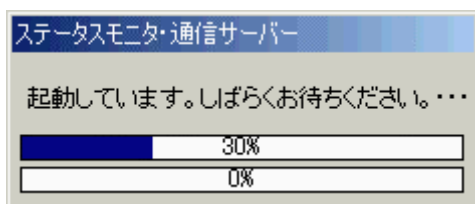
1. データベースサーバーが設置されているコンピュータのデスクトップ、またはエクスプローラ上にある[マイ コンピュータ]アイコンを右クリックして、ポップアップメニュー内の[プロパティ]を選択します。
2. [システムのプロパティ]画面が表示されるので[ネットワーク ID]タブを選択すると、[フル コンピュータ名]のところに表示されている名称がコンピュータ名になります。
  - 一度入力したコンピュータ名はドロップダウンリストに登録されるので、次回からは入力しなくてもリストから選択できるようになります。
3. [サブセンターの選択]ダイアログボックスが開き、データベースに登録されているサブセンター名が一覧表示されるので、自局のサブセンター名を選択して[選択]ボタンをクリックします。



4. [サーバーに接続しました。]と表示されるので、[OK]ボタンをクリックします。



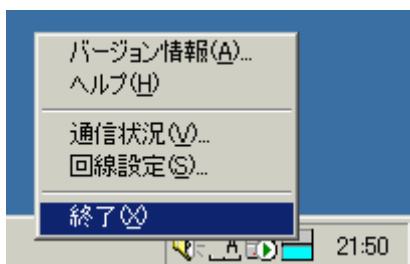
5. [起動しています。しばらくお待ちください。...]と表示され、処理が完了すると、タスクトレイに通信サーバーのアイコンが表示されます。



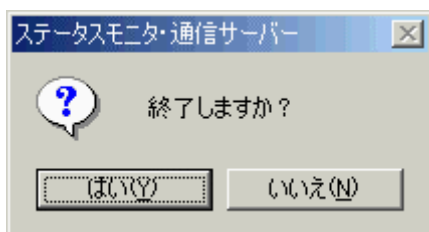
## (2) 終了する

### [操作方法]

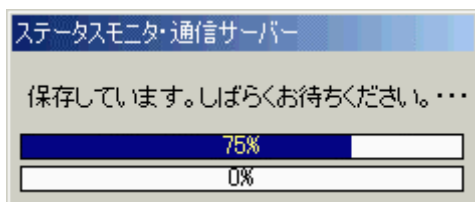
1. タスクトレイ内の通信サーバーアイコンを右クリックし、[終了]をクリックします。



2. [終了しますか? ]ダイアログボックスを表示しますので、終了するときは[はい]をクリックします。終了しないでそのまま作業を続けるときは[いいえ]をクリックします。



3. [保存しています。しばらくお待ちください。...]と表示され、処理が完了すると終了します。



注意：ステータスマニタが起動している場合は、まずステータスマニタを終了してくだ

さい。

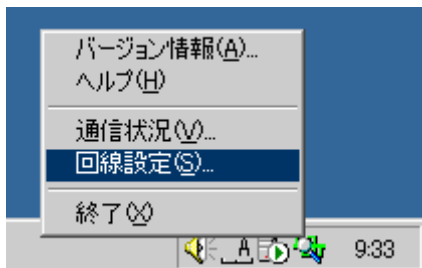
## IV. 通信回線の設定をする

### (1) 回線の設定をする

ステータスモニタユニットとの通信回線を設定します。

#### [操作方法]

1. タスクトレイ内の通信サーバーアイコンを右クリックし、[回線設定]をクリックします。



2. [回線の設定]ダイアログボックスを表示します。

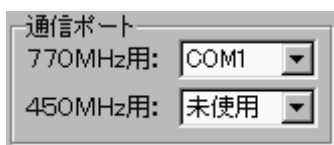


### (2) 通信ポートの設定をする

R F モデムと接続するポートを設定します。

#### [操作方法]

1. [回線の設定]ダイアログボックスを表示します。
2. [ステータス通信]タブで通信ポートを設定します。設定できるポートは COM1 ~ COM4 です。R F モデムを使用しない場合は[未使用]を選択します。



3. [O K]ボタンをクリックします。

通信ポートの設定を変更した場合、ソフトを再起動してください。

### (3)エラー検出の設定をする

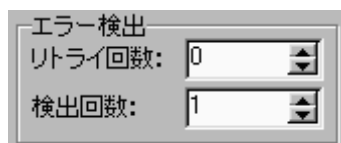
機器のエラーおよびステータスマニタユニットとの通信エラーの検出方法の設定をします。

#### [操作方法]

1. [回線の設定]ダイアログボックスを表示します。
2. [ステータス通信]タブでエラー検出を設定します。

リトライ回数：ステータスマニタユニットとの通信エラー（無応答を含む）が発生した場合のリトライ回数を設定します。

検出回数：機器のエラーまたはステータスマニタユニットとの通信エラー（無応答を含む）が発生した場合、エラーと判定するまでの回数を設定します。



エラー検出	
リトライ回数:	0
検出回数:	1

3. [OK]ボタンをクリックします。
- 設定を変更した場合、ソフトを再起動してください。

#### [ヒント]

- ステータスマニタユニットとの通信エラーが発生すると通信を1秒間待ってから再開します。このときリトライ回数が設定されていれば前回と同じアドレスの機器に送信し、設定されていない場合は次のアドレスの機器に送信します。
- 機器のエラーが検出された場合はリトライしません。

### (4)送信件数の設定をする

1秒間にSTMユニットと通信する件数（ポーリング件数）の設定をします。

#### [操作方法]

1. [回線の設定]ダイアログボックスを表示します。
2. [ステータス通信]タブで送信件数を設定します。設定可能な件数は1～10です。



送信件数:	2
-------	---

3. [OK]ボタンをクリックします。

#### [注意]

- [通信状況ウィンドウ]を表示させているときは設定にかかわらず、1秒間に約3件となります。
- エラーの発生と復旧時には経歴データベースの更新処理が発生するため、最大1秒間（経歴の保存件数が1万件のとき最大）通信が停止します。



(5) エラー発生時ビープ音を出力する

[操作方法]

1. [回線の設定]ダイアログボックスを表示します。
2. [ステータス通信]タブで[エラー発生時ビープ音を出力する]チェックボックスを[ON]にします。  
 エラー発生時ビープ音を出力する
3. [OK]ボタンをクリックします。

(6) 経歴の保存日数を設定する

機器および伝送エラー経歴の保存日数を設定します。

[操作方法]

1. [回線の設定]ダイアログボックスを表示します。
2. [経歴]タブで保存日数を設定します。設定可能な日数は1～150です。



3. [OK]ボタンをクリックします。

[ヒント]

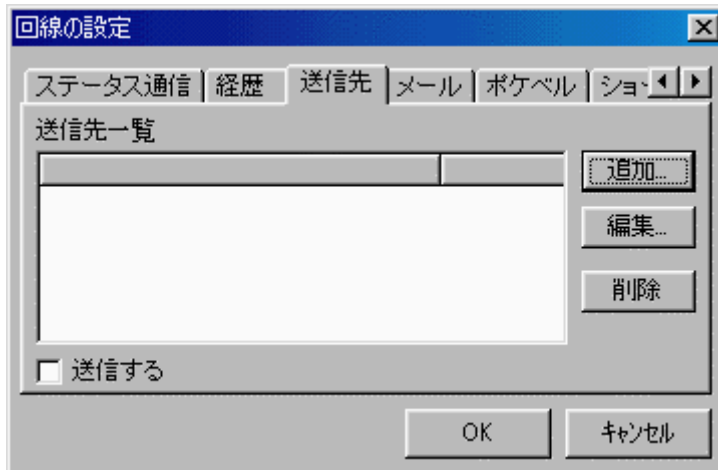
- バックアップは1日ごとにファイルとして保存され、保存日数分のファイル数を超えるものは古いものから順に消去されます。
- バックアップされた経歴データは[日付.mdb]として保存されているので、Microsoft Access 2000 で閲覧することができます。
- 保存される場所は、デフォルトの設定でインストールした場合は C:¥Program Files¥STC9506 です。

(7)エラー発生時の送信先、送信内容を設定する

機器のエラーおよびステータスマニタユニットとの通信エラー発生時のメッセージ送信先および送信内容を設定します。

[操作方法]

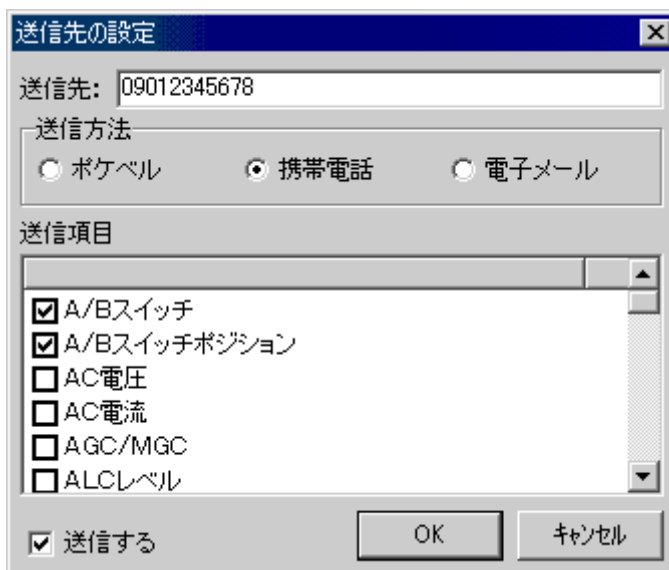
1. [回線の設定]ダイアログボックスを表示します。
2. [送信先]タブをクリックします。



下記のボタンを使用して新規登録、編集、削除を行います。

ボタン	内容
[追加]	新たに送信先を追加する場合にクリックします。
[編集]	すでに登録済みで送信の内容を変更する場合にクリックします。
[削除]	登録済みの送信先を削除する場合にクリックします。

3. [送信先の設定]ダイアログボックスで[送信先][送信方法][送信項目]を設定します。



#### [送信先の設定]ダイアログボックスの設定内容

項目	説明
送信先	送信先のポケベル番号、または携帯番号、電子メールアドレスを入力します。ポケベル番号、携帯番号の場合は数字を続けて入力します。ハイフンやスペース等は入力しないでください。
送信方法	ポケベル、携帯電話(ショートメール)、電子メールのいずれかを選択します。
送信項目	エラーメッセージの対象とする項目にチェックを入れます。チェックを入れた項目のみ、エラーが発生した場合にメッセージが送信されます。
送信する	この送信先の設定に対してメッセージ送信の有効、無効を設定します。

4. 設定完了後、[OK]ボタンをクリックします。
5. [送信先]タブの[送信先一覧]に設定した送信先が表示されます。メッセージ送信を有効にした場合は左にチェックが入っています。チェックをはずすと無効になります。



6. 送信先の設定内容を変更する場合は[送信先一覧]から送信先を選択し、[編集]ボタンをクリックします。
7. 送信先を削除する場合は[送信先一覧]から送信先を選択し、[削除]ボタンをクリックします。
8. [送信する]チェックボックスにチェックを入れることでメッセージ送信機能が有効になります。
9. すべての設定が完了後、[OK]ボタンをクリックします。

#### [ ヒント ]

- メッセージ送信機能を使うには、ポケベルは[ポケベル]タブ、携帯電話は[ショートメール]タブ、電子メールは[メール]タブの設定をそれぞれ行ってください。
- メッセージ送信を有効にするには[送信先]タブの[送信する]チェックボックスおよび[送信先一覧]に設定した送信先のチェックボックスの両方にチェックが入っている必要があります。
- 一度エラー内容を送信すると、エラー内容が変わらない限り次の送信は行われません。
- ソフトの起動時には前回の内容を覚えていないので、起動時にエラーが発生していると、ただちに送信が行われます。

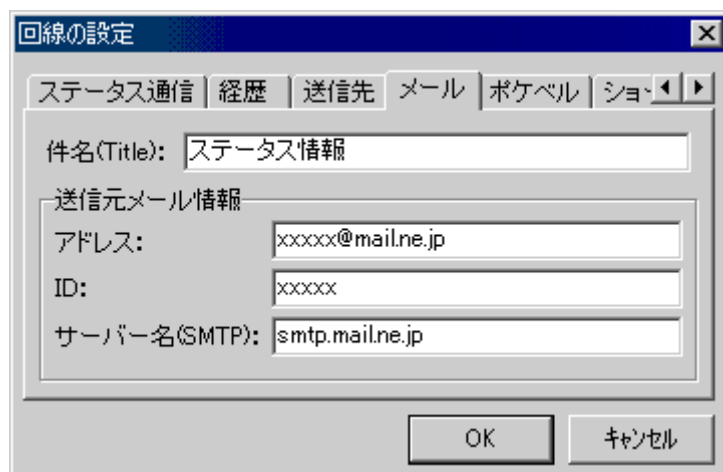
#### (8)メール送信時の情報を設定する

エラー発生時のメールに表示する項目を設定します。

注意 メール送信を行うには、あらかじめプロバイダからメールアカウントを取得している必要があります。

#### [ 操作方法 ]

1. [回線の設定]ダイアログボックスを表示します。
2. [メール]タブで件名、アドレス、ID、サーバー名を設定します。



## [メール]タブの設定内容

設定項目	説明
件名(Title)	メールの件名を入力します。
アドレス	送信元のメールアドレスを入力します。
I D	送信元のアカウントの I D 名を入力します。(通常、メールアドレスで@より前の文字列を入力します。)
サーバー名(SMTP)	送信サーバー (SMTP サーバー) 名を入力します。

詳細はメールアカウント発行先のプロバイダの設定方法を参照してください。

3. [OK]ボタンをクリックします。

## (9)ポケベル(クイックキャスト)送信方法を設定する

エラー発生時、ポケベル(クイックキャスト)に送信するときのタイミングや送れるトーン音数を設定します。

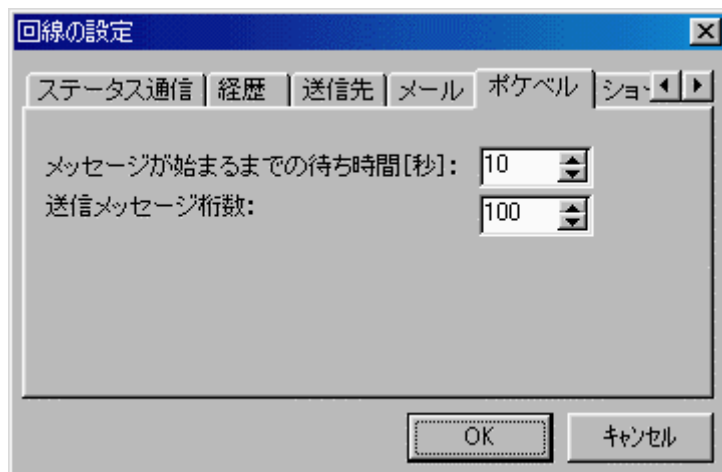
注意 ポケベル送信機能はNTTドコモのネクストサービス対応機にのみ送信可能です。

### [操作方法]

1. [回線の設定]ダイアログボックスを表示します。
2. [ポケベル]タブでメッセージが始まるまでの待ち時間、送信メッセージ桁数を設定します。

メッセージが始まるまでの待ち時間：ポケベルのメッセージセンターに電話をかけて繋がったあと、メッセージの送信を始めるまでの時間を設定します。設定可能な時間は1～60秒です。

送信メッセージ桁数：メッセージ送信可能なプッシュ信号の最大桁数を設定します。



3. [OK]ボタンをクリックします。

- ポケベル送信中はステータスマニタユニットとの通信を停止します。

#### (10) ショートメール送信方法を設定する

エラー発生時、ショートメールに送信するときのタイミングや送れるトーン音数を設定します。

注意 ショートメール送信機能はNTTドコモのショートメールサービス対応機にのみ送信可能です。

#### [操作方法]

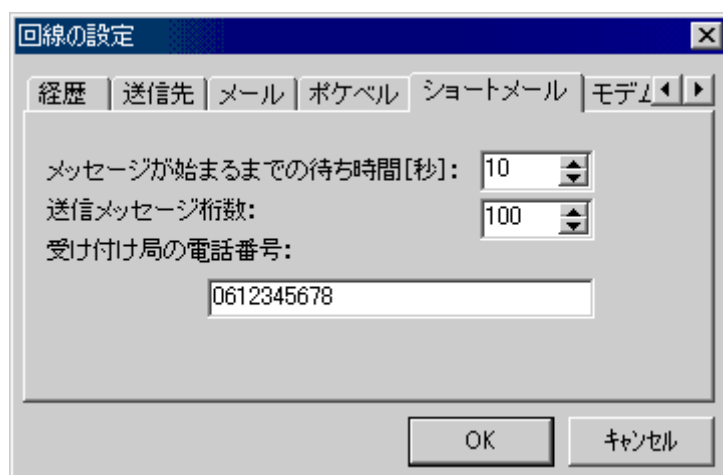
1. [回線の設定]ダイアログボックスを表示します。

2. [ショートメール]タブでメッセージが始まるまでの待ち時間、送信メッセージ桁数、受け付け局の電話番号を設定します。

メッセージが始まるまでの待ち時間：ショートメールのメッセージセンターに電話をかけて繋がった後、メッセージの送信を始めるまでの時間を設定します。設定可能な時間は1～60秒です。

送信メッセージ桁数：メッセージ送信可能なプッシュ信号の最大桁数を設定します。

受け付け局の電話番号：ショートメール送信時の受け付け局の電話番号を設定します。番号の間にハイフンやスペース等は入力しないでください。



3. [OK]ボタンをクリックします。

- ショートメール送信中はステータスマニタユニットとの通信を停止します。

#### (11) モデムを設定する

ポケベル等のメッセージ送信で使用する電話モデムの外線切り替え番号や、通信ポートを設定します。

[ 操作方法 ]

1. [回線の設定]ダイアログボックスを表示します。
2. [モデム]タブで外線切り替え番号、通信ポートおよび発信音を検出してからダイヤルするかどうかを設定します。



外線切り替え番号：P B X等の使用時、設定を行います。

通信ポート：電話モデムを接続するポートを設定します、COM1～COM4まで設定可能です。通信ポートの設定を変更した場合、ソフトを再起動してください。

注意 メッセージ送信機能を使わない場合は[未使用]に設定してください。

発信音を検出する：発信音を検出してからダイヤルする場合、チェックボックスを[ON]に設定します。外線を使用する場合は、チェックボックスを[OFF]にしてください。

3. [OK]ボタンをクリックします。

( 1 2 ) 電源監視を設定する

機器が検出した商用/インバータの動作電源状態を系統図上の電源装置にどのように反映させるか設定を行います。

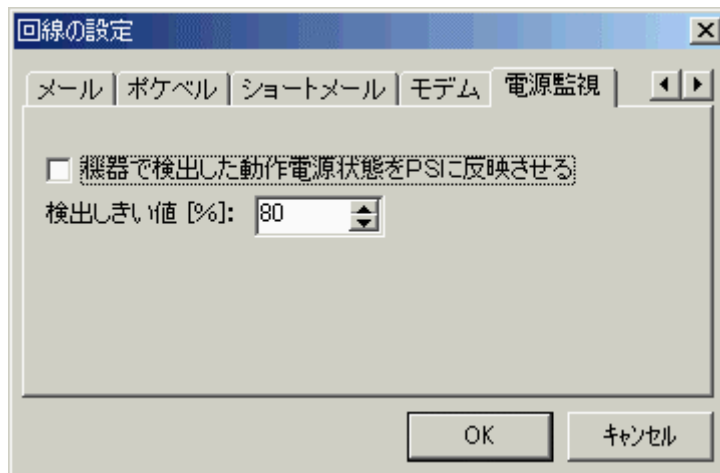
対象となるのは、擬似エラー検出機能付き電源装置となります。

[ 操作方法 ]

1. [回線の設定]ダイアログボックスを表示します。
2. [電源監視]タブで次の設定を行います。

機器で検出した動作電源状態を PS に反映させる：設定を有効にする場合、チェックを入れます。

検出しきい値：電源装置につながっている機器のうち、ここに設定した割合数以上の機器が検出した結果を動作電源状態とします。



3. [OK]ボタンをクリックします。

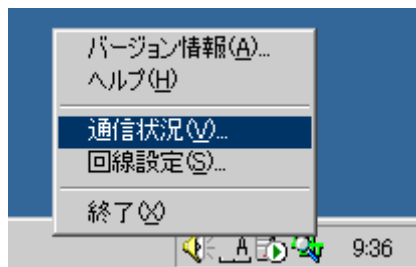
## V. 通信状況

(1)通信状況ウィンドウを表示する

モデムとの通信状況を表示します。

[操作方法]

1. タスクトレイ内の通信サーバーアイコンを右クリックし、[通信状況]をクリックします。





## 画面表示例

アドレス	送信データ	受信データ	エラー
0001	FE 10 00 01 00 EF	FE A0 00 01 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 5F	
0001	FE 10 00 01 00 EF	FE A0 00 01 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 5F	
0001	FE 10 00 01 00 EF	FE A0 00 01 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 5F	
0001	FE 10 00 01 00 EF	FE A0 00 01 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 5F	
0001	FE 10 00 01 00 EF	FE A0 00 01 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 5F	
0001	FE 10 00 01 00 EF	FE A0 00 01 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 5F	
0001	FE 10 00 01 00 EF	FE A0 00 01 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 5F	
0001	FE 10 00 01 00 EF	FE A0 00 01 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 5F	
0001	FE 10 00 01 00 EF	FE A0 00 01 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 5F	
0001	FE 10 00 01 00 EF	FE A0 00 01 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 5F	
0001	FE 10 00 01 00 EF	FE A0 00 01 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 5F	
0001	FE 10 00 01 00 EF	FE A0 00 01 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 5F	
0001	FE 10 00 01 00 EF	FE A0 00 01 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 5F	
0001	FE 10 00 01 00 EF	FE A0 00 01 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 5F	
0001	FE 10 00 01 00 EF	FE A0 00 01 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 5F	
0001	FE 10 00 01 00 EF	FE A0 00 01 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 5F	

表示を停止する場合：[オプション]メニューで[表示停止]をクリックします。（通信は停止しません）

表示を開始する場合：[オプション]メニューで[表示開始]をクリックします。

エラーが発生したら停止する：[オプション]メニューで[エラーが発生したら通信停止する]をクリックします。

ウィンドウを閉じる場合：[ファイル]メニューで[閉じる]をクリックするか、[閉じる]ボタンをクリックします。

## VI. データベースのバックアップ

### (1) データベースのバックアップについて

- データベースのバックアップは通信サーバーが自動的に行います。
- バックアップするタイミングは、コンピュータの日付変更時です。
- 日付の変更時にバックアップファイルを上書きするので、前日データのみ保存されます。
- 以前の状態に戻すためには普段からユーザーが手動でバックアップを行い、バックアップファイルのコピーを別の場所に保存しておく必要があります。

[手動でバックアップを行うには]

1. [スタートボタン]をクリックし、[プログラム][ステータスマニタセンターソフト]をポイントして、[データベースのバックアップ]をクリックします。

2. バッチファイルが起動し、バックアップファイルがCドライブのルート（ C : ¥ ）に保存されます。
3. 次の3つのファイルのコピーをとり、別の場所に保存します。
  - stc95sq1.bak
  - stc95sq2.bak
  - stc95sq3.bak

[ リストアを行うには ]

1. ステータスマニタセンターソフトのすべてのプログラムを終了します。
2. バックアップ作業で保存した3つのファイルをCドライブのルート（ C : ¥ ）に上書きコピーします。
3. ステータスマニタセンターソフトがあるフォルダ（デフォルトの設定でインストールした場合は C:¥Program Files¥STC9506 ）内にある [ stc95res.bat ] を実行します。

注意 リストア作業を行うと、それまでに記録されたデータベースの内容がすべて上書きされます。緊急時以外はこの操作を絶対行わないでください。

## VII. 通信サーバーの異常終了時について

### (1)通信サーバーの異常終了時について

通信サーバーは起動時に、現在運用中であることを示すために自局のサブセンター名をデータベースに登録します。

ステータスマニタ等を起動し、データベースサーバーに接続すると、この情報を元に運用中のサブセンター名が一覧表示されます。

通信サーバーの終了時には、登録したサーバー名を削除し、運用が終了したことを示します。

ところが、通信サーバーが異常終了した場合はサブセンター名が残ったままとなり、この状態でステータスマニタ等を起動し、データベースサーバーに接続すると、運用中ではないにもかかわらずそのサブセンター名が表示されることとなります。

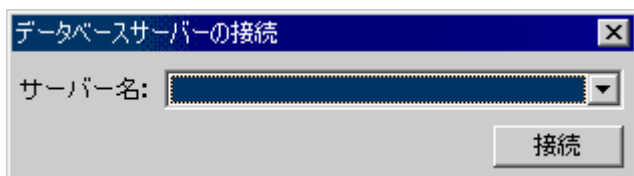
このような不都合を解消するためには次の操作を行ってください。

[ 操作方法 ]

1. 起動中のステータスマニタセンターソフト関連のプログラムをすべて終了してください。
2. ステータスマニタセンターソフトがあるフォルダ（デフォルトの設定でインストールした場合は C:¥Program Files¥STC9506 ）内にある [ DelSubS.exe ] を実行します。



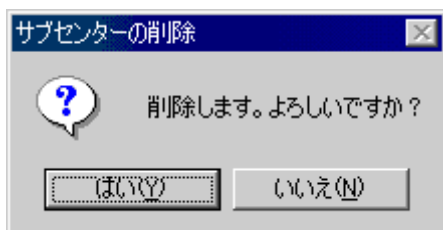
3. [データベースサーバーの接続]ダイアログボックスのリストボックスからデータベースが登録されているサーバーのコンピュータ名を選択して[接続]ボタンをクリックします。



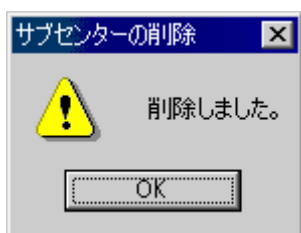
4. 接続が完了するとサブセンター一覧にサブセンター名が表示されるので、削除するサブセンター名を選択し、[削除]ボタンをクリックします。



5. 確認のダイアログボックスが表示されるのでOKであれば[はい]をクリックします。



6. [削除しました。]のダイアログボックスが表示されるので、[OK]をクリックします。



7. サブセンター一覧のダイアログボックスに戻るので、引き続き他のサブセンターを削除する場合は4.からの操作を繰り返してください。終了する場合は[終了]をクリックしてください。

## VIII. ヘルプ

### (1)バージョン情報を表示する

ステータスマニタのバージョン情報、著作権などを表示します。

#### [操作方法]

1. タスクトレイ内の通信サーバーアイコンを右クリックします。
2. [バージョン情報]をクリックします。

### (2)ヘルプを表示する

ステータスマニタのヘルプを表示します。

#### [操作方法]

1. タスクトレイ内の通信サーバーアイコンを右クリックします。
2. [ヘルプ]をクリックします。

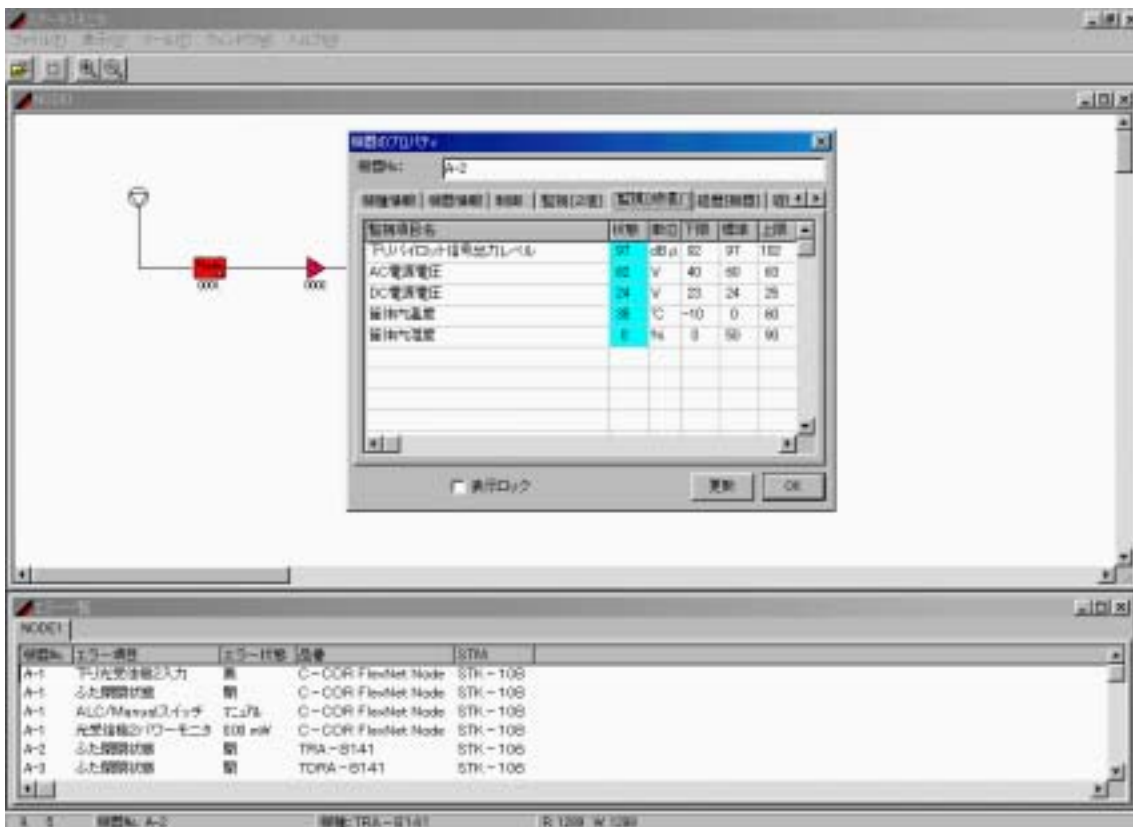
# ステータスマニタ

## I. ステータスマニタについて

### (1)概要

ステータスマニタは、機器に内蔵されたステータスマニタユニットと通信することで、  
双方向CATV施設の運用状態の監視と制御を行うシステムです。

[ 概観図 ]



## II. ご注意

### (1)ステータスマニタを起動する前に

1. パソコン本体とモデムが正しく接続されていることを確認してください。
2. 系統図を作成してからステータスマニタを起動してください。
3. 通信サーバーを起動させてからステータスマニタを起動してください。
4. ステータスマニタと系統図作成を同時に動作させないでください。またステータスマニタとデータ伝送確認を同時に動作させないでください。
5. ステータスマニタセンターソフトのインストールされているパソコンには、他のアプリケーションをインストールしないでください。
6. マウスで[クリック]の操作をするときは左ボタンを使用します。特に[右クリック]と表現しているときは右ボタンを使用します。

### III. 起動と終了

#### (1) 起動する

##### [操作方法]

R F モデムを直接接続しているコンピュータの場合（サブセンター用 PC）

1. [スタートボタン]をクリックし、[プログラム][ステータスマニタセンターソフト]をポイントして、[通信サーバー]をクリックします。
2. [通信サーバー]が起動後、[スタートボタン]をクリックし、[プログラム][ステータスマニタセンターソフト]をポイントして、[ステータスマニタ]をクリックします。

R F モデムが接続されていない（遠隔監視）のコンピュータの場合（センター用 PC）

1. [スタートボタン]をクリックし[プログラム][ステータスマニタセンターソフト]をポイントして[ステータスマニタ]をクリックします。
- 通信サーバーおよびステータスマニタは同一 PC で複数起動できません。
  - ステータスマニタと系統図作成を同時に動作させないでください。

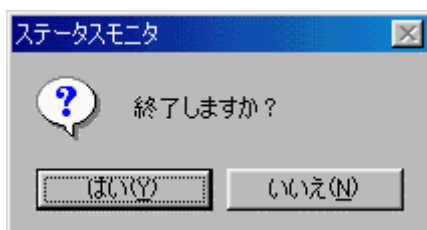
#### (2) 終了する

##### [操作方法]

1. [ファイル]メニューをクリックし[終了]をクリックします。



2. [終了しますか? ]ダイアログボックスを表示しますので、終了するときは[はい]をクリックします。終了しないでそのまま作業を続けるときは[いいえ]をクリックします。

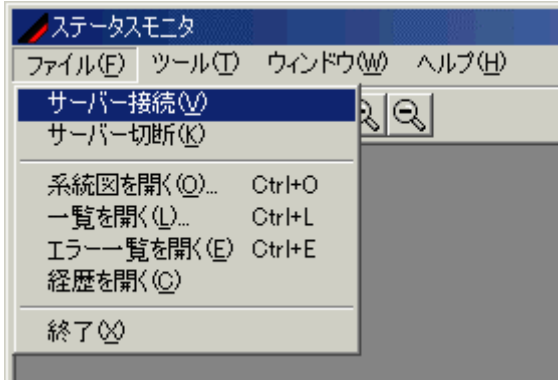


## IV. サーバーの接続と切断

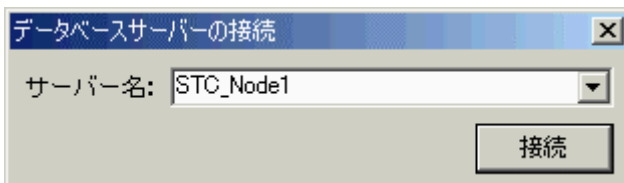
### (1) 接続する

#### [操作方法]

1. [ファイル]メニューをクリックし[サーバー接続]をクリックします。



2. [データベースサーバーの接続]ダイアログボックスで、データベースが登録されているサーバーのコンピュータ名を入力して[接続]ボタンをクリックします。

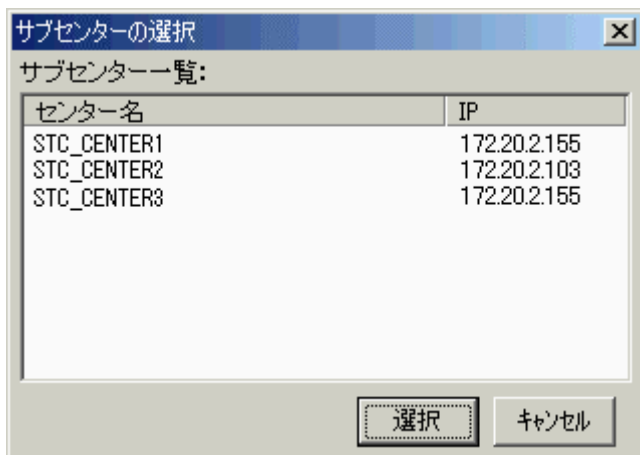


#### [ヒント]

サーバーの接続でコンピュータ名がわからない場合は次のようにして確認することができます。

1. データベースサーバーが設置されているコンピュータのデスクトップ、またはエクスプローラ上にある[マイ コンピュータ]アイコンを右クリックして、ポップアップメニュー内の[プロパティ]を選択します。
2. [システムのプロパティ]画面が表示されるので[ネットワーク ID]タブを選択すると、[フル コンピュータ名]のところに表示されている名称がコンピュータ名になります。
  - 一度入力したコンピュータ名はドロップダウンリストに登録されるので、次回からは入力しなくてもリストから選択できるようになります。

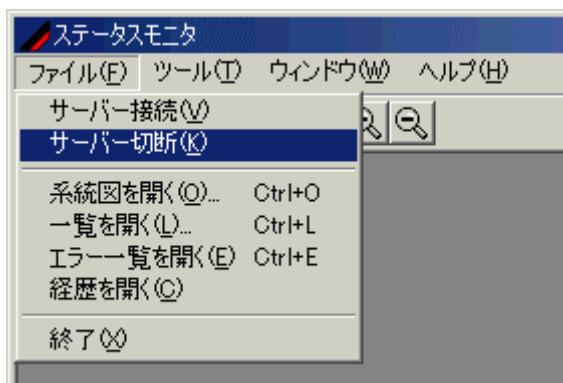
3. [サブセンターの選択]ダイアログボックスが開き、通信サーバーが稼働中のサブセンター名が一覧表示されるので、モニタするサブセンター名を選択して[選択]ボタンをクリックします。



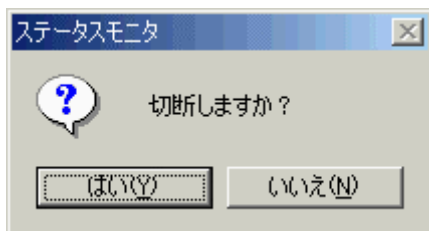
## (2) 切断する

### [操作方法]

1. [ファイル]メニューをクリックし[サーバー切断]をクリックします。



2. [切断しますか?]ダイアログボックスを表示しますので、切断するときは[はい]をクリックします。切断しないでそのまま作業を続けるときは[いいえ]をクリックします。



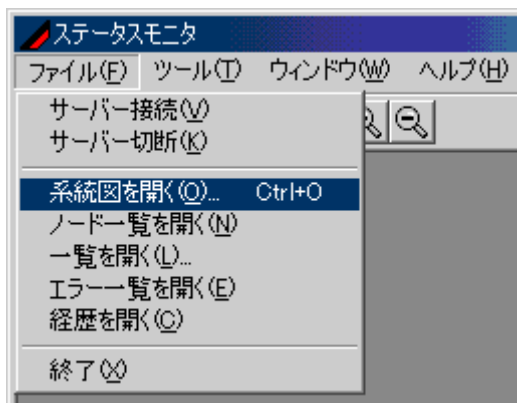


## V. 系統図

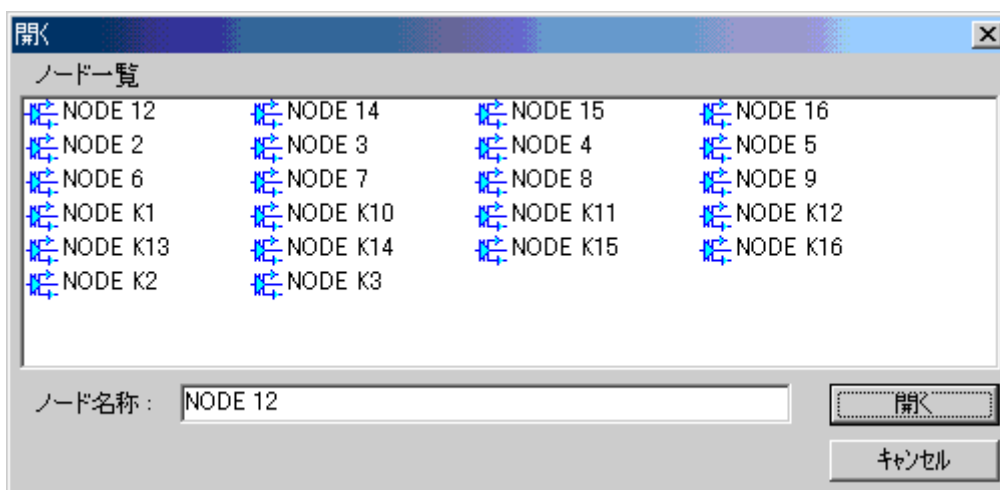
(1) 系統図を表示する

[操作方法]

1. [ファイル]メニューをクリックし[系統図を開く]をクリックします。



2. ノード名称をクリックし[開く]をクリックします。

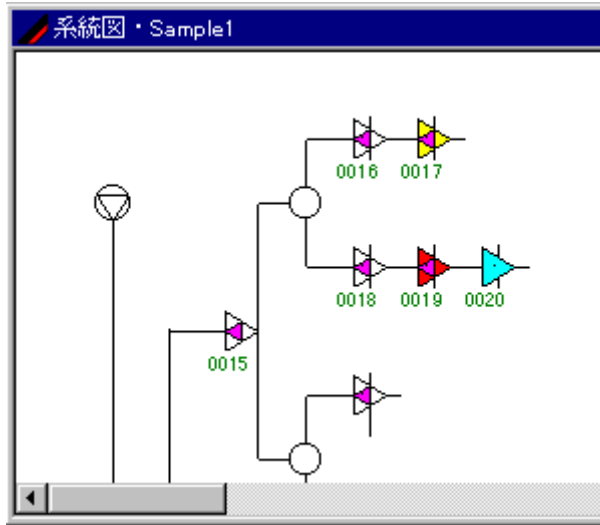


[ヒント]

- 系統図ウィンドウでの表示の更新は約6秒ごとに行われます。したがって機器の状態が変化してから系統図表示に反映されるまで最大6秒の遅延があります。

(2) 系統図の表示内容について

系統図では、アンプの状態を色と形で示しています。



- アンプのキャラクタの下に機器 またはアドレス を表示します（上の図ではアドレス）。
- アンプのキャラクタが隣接していると、機器 の表示が短くなる場合があります。

アンプの表示例

正常時（上り分岐増幅部通常状態）



正常時（上り分岐増幅部なし）



正常時（上り分岐増幅部阻止状態）



正常時（上り幹線増幅部阻止状態）



アンプ異常時



データ伝送異常時



ポーリング対象外の機器（アドレス No.が0）



- ステータスバーは下記のように表示されます。





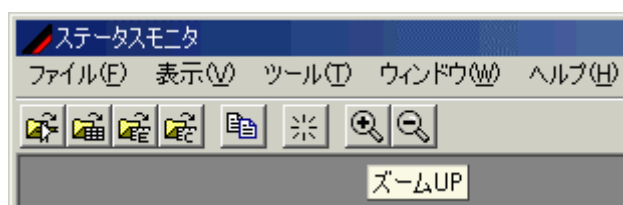
系統図から以下の項目が実行できます。

- 機器のプロパティ 機器単体の監視、制御項目等を表示します。
- ノード/系統一覧 ノード機器およびノード全体のエラー状況を一覧表示します。
- 一覧表示 ノード内の機器の監視、制御項目等を一覧表示します。
- エラーの一覧表示 現在発生しているエラーを一覧表示します。
- 伝送確認 機器単体と一対一で通信し、機器単体の監視、制御項目等を表示します。

### (3) 系統図を拡大・縮小する

[操作方法]

1. ツールバーの (拡大)  (縮小) ボタンをクリックします。

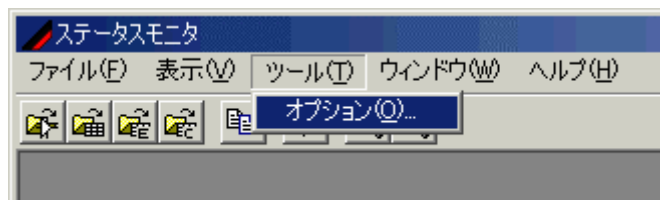


- 表示サイズは[縮小][標準][拡大]の3段階です。

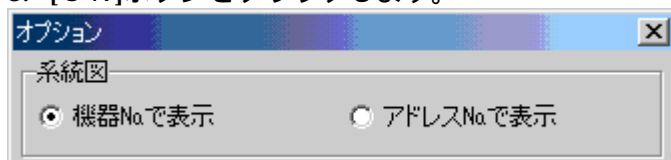
### (4) 系統図内の機器 とアドレス の表示を切り替える

[操作方法]

1. [ツール]メニューをクリックし、[オプション]をクリックします。




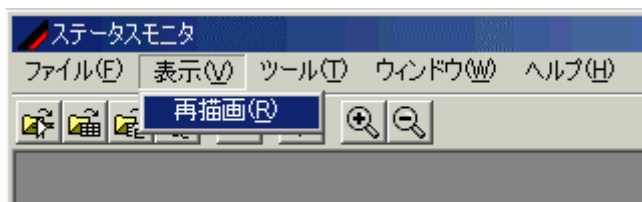
2. 系統図の[機器 で表示]または[アドレス で表示]をクリックします。
3. [OK]ボタンをクリックします。



### (5) 系統図を再描画する

#### [操作方法]

1. [表示]メニューの[再描画]をクリックするか、ツールバーのをクリックします。



### (6) 系統図を印刷する

現在表示中の系統図を印刷します。

#### [操作方法]

1. 印刷する系統図を表示させ、[ファイル]メニューをクリックし[印刷]をクリックします。
2. 拡大縮小比率、ヘッダー、余白等を設定します。プリンタの設定を変更する場合は、[設定]ボタンをクリックします。



3. [O K]ボタンを押します。

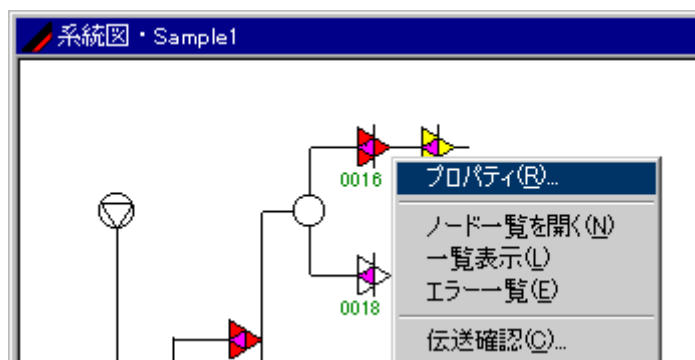
- 系統図が1枚に収まりきらない場合は複数のページにわたって印刷されます。
- 系統図はモノクロで印刷されます。

## VI. 機器個別情報

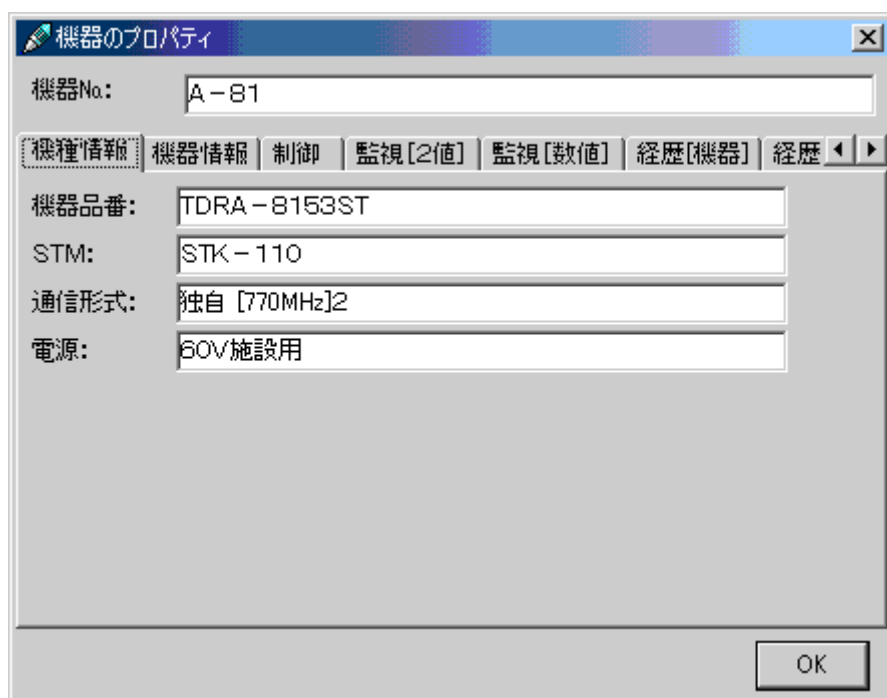
(1) 機器個別情報を表示する

[操作方法]

1. 系統図上で表示する機器をダブルクリックするか、右クリックし、[プロパティ]をクリックします。



2. [機種情報]タブをクリックします。



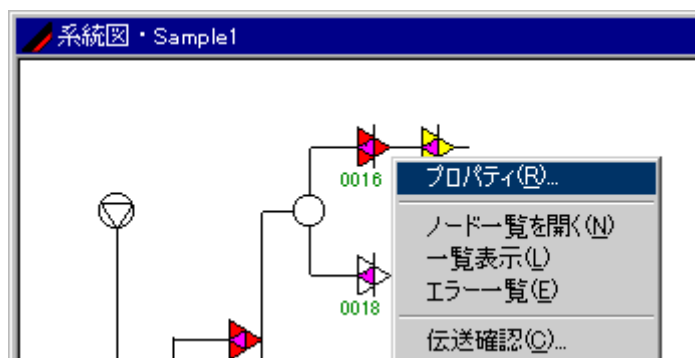
## 情報タブで確認できる項目

項目	説明
機器品番	機器品番を表示します。
STM	装着されているSTMユニット名を表示します。
通信形式	装着されているSTMユニットの通信形式を表示します。
電源	接続されている電源を表示します。

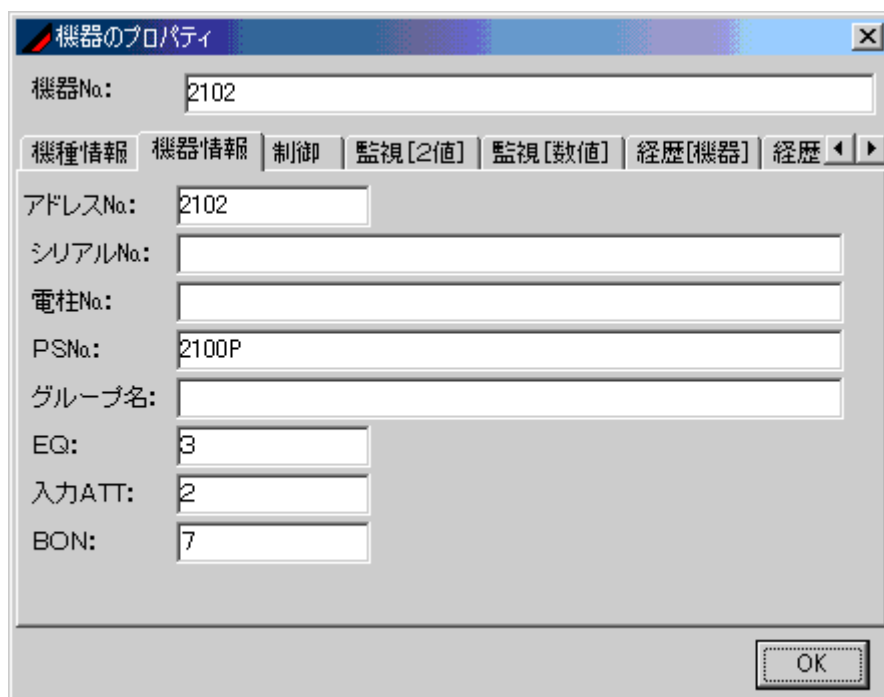
## (2) 機器情報を表示する

### [操作方法]

1. 系統図上で表示する機器をダブルクリックするか、右クリックし、[プロパティ]をクリックします。



2. [機器情報]タブをクリックします。



## 情報タブで確認できる項目

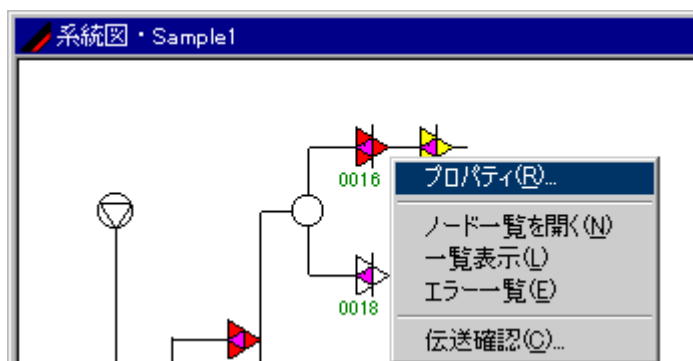
項目	説明
アドレス	装着されているSTMユニットのアドレスを表示します。
シリアル	シリアルを表示します。
電柱	取り付けられている電柱を表示します。
PS	電源を供給しているPSを表示します。
グループ名	グループ名を表示します。
EQ	アンプのEQの値を表示します。
入力ATT	アンプの入力ATTの値を表示します。
BON	アンプのBONの値を表示します。

### (3)制御情報を表示する

アンプの制御情報を表示します。

#### [操作方法]

1. 系統図上で表示する機器をダブルクリックするか、右クリックし、[プロパティ]をクリックします。



2. [制御]タブをクリックします。



[制御]タブでは機器の制御に必要な項目を表示します。

項目	説明
制御項目名	制御する対象の項目名を表示します。
設定値	現在の制御状態を表示します。
既定値	標準値がどちらの状態かを表示します。
設定	設定する項目をボタンで表示します。

- [表示ロック]ボタンをチェックすることで外部からの制御の有無にかかわらず制御タブの表示を固定できます。チェックしない場合、クリック後数秒で元の状態に戻ります。
- 実際に制御するときは[制御]ボタンをクリックします（ツール オプションで[制御]で制御ボタンを有効にする]チェックボックスを[ON]にしている場合）。
- 無応答の場合、画面左下に無応答と表示されます。



- STMを搭載していない機器の場合、この画面は表示されません
- 設定で[-6dB]が選択できる機器について  
[-6dB]の設定は確認用のため運用では設定しないでください。



#### (4)制御を実行する

##### [操作方法]

ここでは上り分岐増幅3ゲートを阻止にする操作を例に説明します。

1. 系統図上で表示する機器をダブルクリックするか、右クリックし、[プロパティ]をクリックします。
2. [制御]タブを表示します。
3. 上り分岐増幅3ゲートの状態が通常であることを確認します。
4. [表示ロック]をクリックします。
5. [阻止]ボタンををダブルクリックし、背景が水色の状態にします。
6. [制御]ボタンをクリックします。
7. [制御を実行します。よろしいですか?]と表示されたら[はい]ボタンをクリックします。

6,7 は[ツール] [オプション]で[制御で制御ボタンを有効にする]チェックボックスが[ON]の場合のみ操作が可能です。[OFF]の場合、設定項目をダブルクリックするだけで制御が実行されます。



- しばらくすると[設定値]の表示が[阻止]に変わります。
- [設定値]はセンター装置から送信される制御の状態を表すものでSTMの状態を表すものではありません。

アンプ制御を途中で中止するには

[操作方法]

1. [制御を実行します。よろしいですか?]と表示されたら[いいえ]ボタンをクリックします。

注意

[ツール] [オプション]で[制御で制御ボタンを有効にする]チェックボックスを[OFF]にしている場合は、短時間に続けて制御の実行操作を行わないでください。制御が切替わらない場合があります。

これは、制御の処理中に次の制御操作を行ったことにより、次の制御が受けられないために起こります。

必ず、前回の制御が完了し、機器の状態が切替わっているのを確認してから次の制御を実行するようにしてください。

[確認方法]

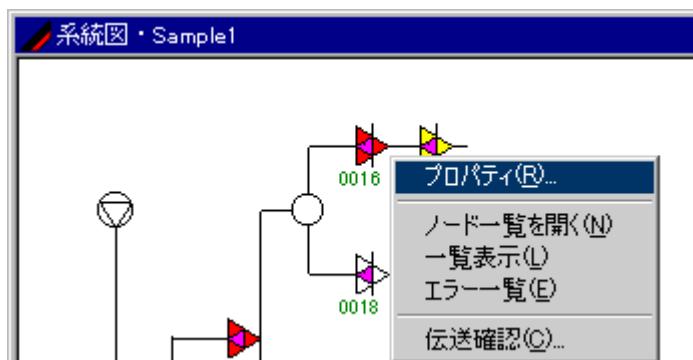
1. [制御]タブの[状態]表示が切替わったことで制御の実行が受けられたことを確認します。
2. [監視[2値]]タブで、実際に機器の状態が切替わったことを確認します。
  - 切替わらない場合は5回までリトライしますのでしばらく時間がかかります。それでも切替わらない場合は、もう一度制御操作をやり直してください。

(5)監視 [ 2 値 ] を表示する

機器の監視項目で2値の情報を表示します。

[操作方法]

1. 系統図上で表示する機器をダブルクリックするか、右クリックし、[プロパティ]をクリックします。





2. [監視 [ 2 値 ] ]タブをクリックします。



監視 [ 2 値 ] で確認できる項目 (例)

項目	説明
ふた開閉状態	ふた開閉状態を表示します (開 / 閉)。
動作電源状態	動作電源状態を表示します (商用 / インバータ)。
水浸入状態	水浸入状態を表示します (有 / 無)。
下りAGC / MGC動作状態	AGC動作状態を表示します (AGC / MGC)。
上り分岐増幅部1, 2動作状態	上り分岐増幅部1, 2の動作状態を表示します (通常 / 阻止)。
上り分岐増幅部3, 4動作状態	上り分岐増幅部3, 4の動作状態を表示します (通常 / 阻止)。
上り幹線増幅部動作状態	上り幹線増幅部動作状態を表示します (通常 / 阻止)。

- 監視項目は機器品番、伝送フォーマットにより異なります。
- 状態表示は状態によって色が変わります。

	正常の場合
	エラーが発生している場合

- 無応答の場合、画面左下に無応答と表示されます。

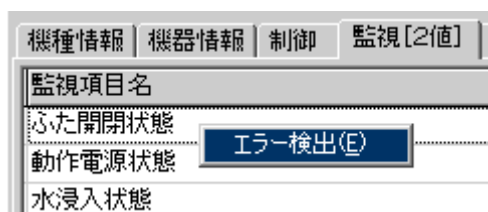


- STMを搭載していない機器の場合、この画面は表示されません。

#### [ 監視の有効 / 無効 ]

機器の監視を項目ごとに有効/無効に切り換えることができます。

1. [表示ロック]チェックボックスを[ON]にします。
2. 設定する監視項目名上で右クリックすると、[エラー検出]が表示されるのでクリックします。



3. 有効時は[白]、無効時は[グレー]に背景色が変わります。2. の操作をするたびに、切り換わります。



4. [更新]ボタンをクリックすると確認のダイアログボックスが表示されるので、設定内容を保存する場合は[はい]、保存しない場合は[いいえ]をクリックしてください。

#### [ ヒント ]

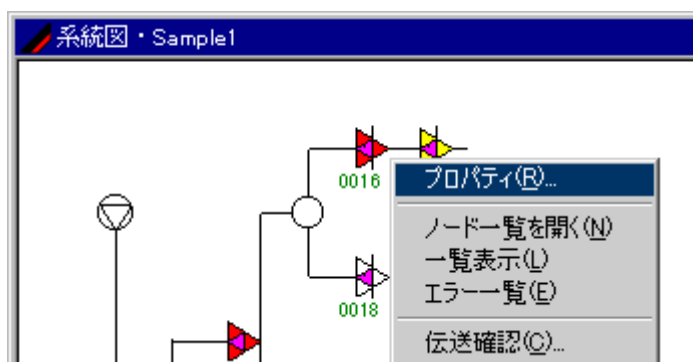
- [更新]ボタンが表示されるタブでは、そのタブ上の設定だけでなく他のタブ上の設定も同時に更新されます。そのため、それぞれのタブ上での設定を済ませた後に[更新]ボタンをクリックすると、まとめて設定することができます。

(6)監視 [ 数値 ] を表示する

機器の監視項目で数値の情報を表示します。

[ 操作方法 ]

1. 系統図上で表示する機器をダブルクリックするか、右クリックし、[プロパティ]をクリックします。





2. [監視 [ 数値 ] ]タブをクリックします。



## 監視（数値）で確認できる項目（例）

項目	説明
下りパイロット信号出力レベル	下りパイロット信号出力レベルを表示します（1 dB単位）。
AC電源電圧	商用電源使用時のAC電源電圧を表示します（1 V単位）。
AC電源電圧（インバータ）	インバータ電源使用時のAC電源電圧を表示します（1 V単位）。
DC電源電圧	DC電源電圧を表示します。（1 V単位）。
筐体内温度	筐体内部の温度を表示します（1 単位）。
筐体内湿度	筐体内部の湿度を表示します（10%単位）。

- 監視項目は機器品番、伝送フォーマットにより異なります。
- 状態表示は状態によって色が変わります。

	正常の場合
	エラーが発生している場合

- 無応答の場合、画面左下に無応答と表示されます。



- STMを搭載していない機器の場合、この画面は表示されません。

### [監視の有効/無効]

機器の監視を項目ごとに有効/無効に切り換えることができます。

1. [表示ロック]チェックボックスを[ON]にします。
2. 設定する監視項目名上で右クリックすると、[エラー検出]が表示されるのでクリックします。

機種情報	機器情報	制御	監視[2値]	監視[数値]
監視項目名		状態	単位	下
下りパイロット信号出力レベル		0	dBμ	9:
AC電源電圧		エラー検出(E)	0	V 4:
DC電源電圧		0	V	2:

- 有効時は[白]、無効時は[グレー]に背景色が変わります。2.の操作をするたびに、切り替わります。

機種情報	機器情報	制御	監視[2値]	監視[数値]
監視項目名		状態	単位	下
トリバインド信号出力レベル		0	dBμ	90
AC電源電圧		0	V	40
DC電源電圧		0	V	20

- [更新]ボタンをクリックすると確認のダイアログボックスが表示されるので、設定内容を保存する場合は[はい]、保存しない場合は[いいえ]をクリックしてください。

#### [ ヒント ]

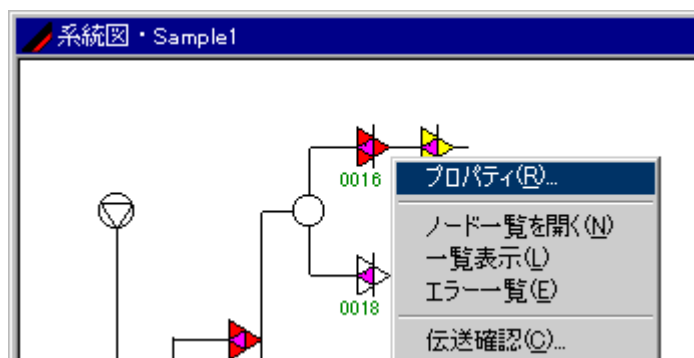
- [更新]ボタンが表示されるタブでは、そのタブ上の設定だけでなく他のタブ上の設定も同時に更新されます。そのため、それぞれのタブ上での設定を済ませた後に[更新]ボタンをクリックすると、まとめて設定することができます。

#### (7)機器経歴を表示する

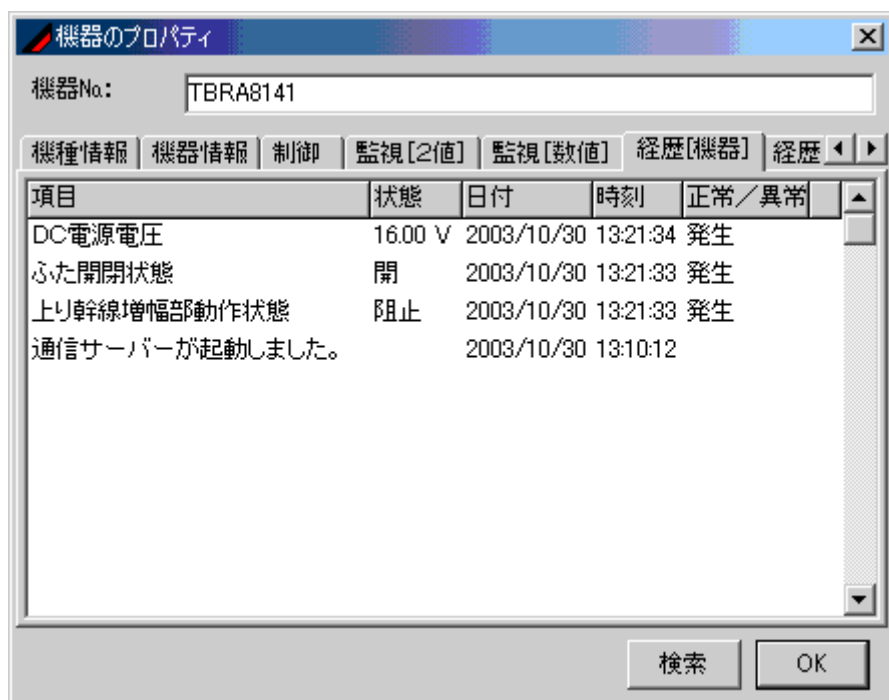
機器のエラー経歴を発生順に表示します。

#### [ 操作方法 ]

- 系統図上で表示する機器をダブルクリックするか、右クリックし、[プロパティ]をクリックします。



2. [経歴[機器]]タブをクリックします。
3. [検索]ボタンをクリックします。



#### 機器経歴で確認できる項目

項目	説明
項目	異常発生項目を表示します。
状態	異常発生 / 収束時の状態を表示します。
日付	異常発生 / 収束時の日付を表示します。
時刻	異常発生 / 収束時の時刻を表示します。
正常 / 異常	異常発生時は[発生]、収束時は[復旧]を表示します。

- STMを搭載していない機器の場合、この画面は表示されません。

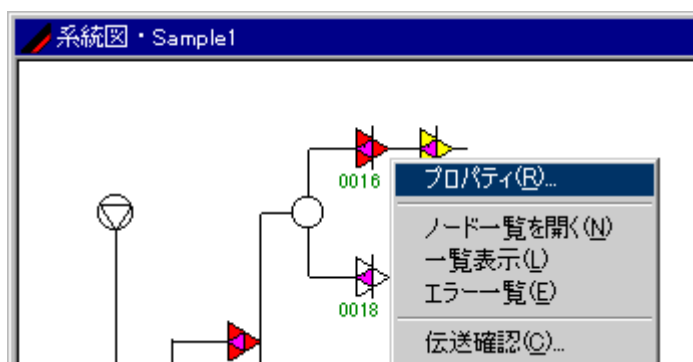


(8)ステータス経歴を表示する

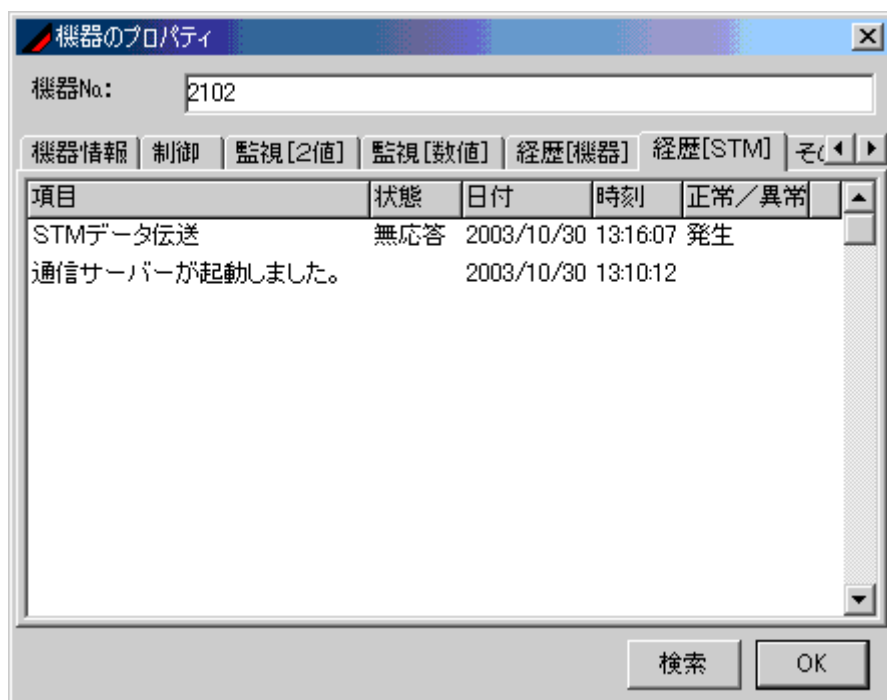
ステータスモニタユニットのエラー経歴を発生順に表示します。

[操作方法]

1. 系統図上で表示する機器をダブルクリックするか、右クリックし、[プロパティ]をクリックします。



2. [経歴[STM]]タブをクリックします。
3. [検索]ボタンをクリックします。



## ステータス経歴で確認できる項目

項目	説明
項目	異常発生項目を表示します。
状態	異常発生 / 収束時の状態を表示します。
日付	異常発生 / 収束時の日付を表示します。
時刻	異常発生 / 収束時の時刻を表示します。
正常 / 異常	異常発生時は[発生]、収束時は[復旧]を表示します。

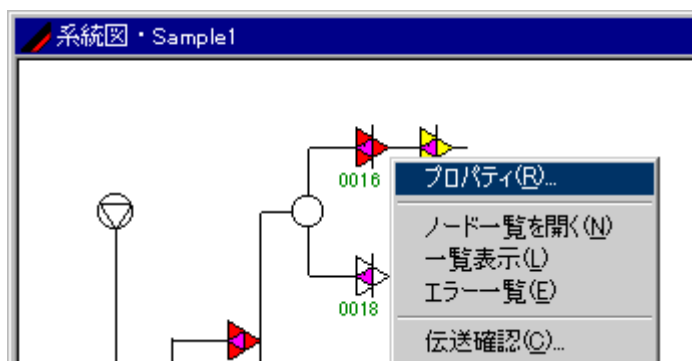
- STMを搭載していない機器の場合、この画面は表示されません。

### (9)メモ、設置場所を入力する

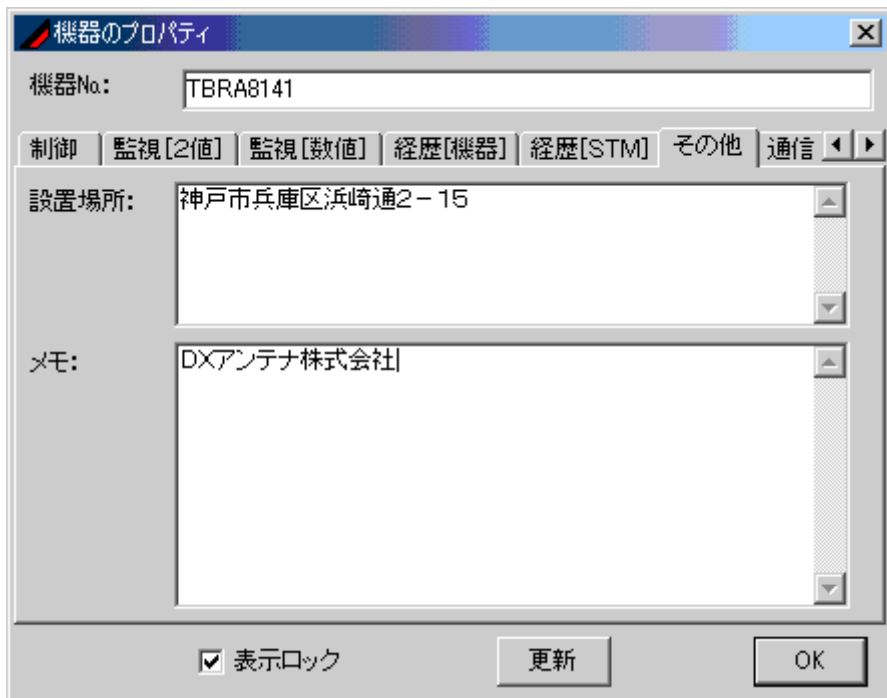
機器に対するコメントを入力します。

#### [操作方法]

1. 系統図上で表示する機器をダブルクリックするか、右クリックし、[プロパティ]をクリックします。



2. [その他]タブをクリックします。
3. 入力した内容を保存するときは[表示ロック]チェックボックスを[ON]にした後、テキストボックスに入力します。どちらの項目も半角で256文字まで入力できます。
4. [更新]ボタンをクリックすると確認のダイアログボックスが表示されるので、設定内容を保存する場合は[はい]、保存しない場合は[いいえ]をクリックしてください。



[ ヒント ]

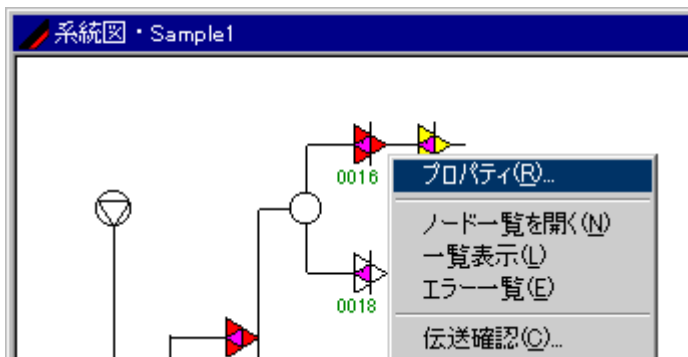
- [更新]ボタンが表示されるタブでは、そのタブ上の設定だけでなく他のタブ上の設定も同時に更新されます。そのため、それぞれのタブ上での設定を済ませた後に[更新]ボタンをクリックすると、まとめて設定することができます。

( 1 0 ) 通信関係の設定を行う

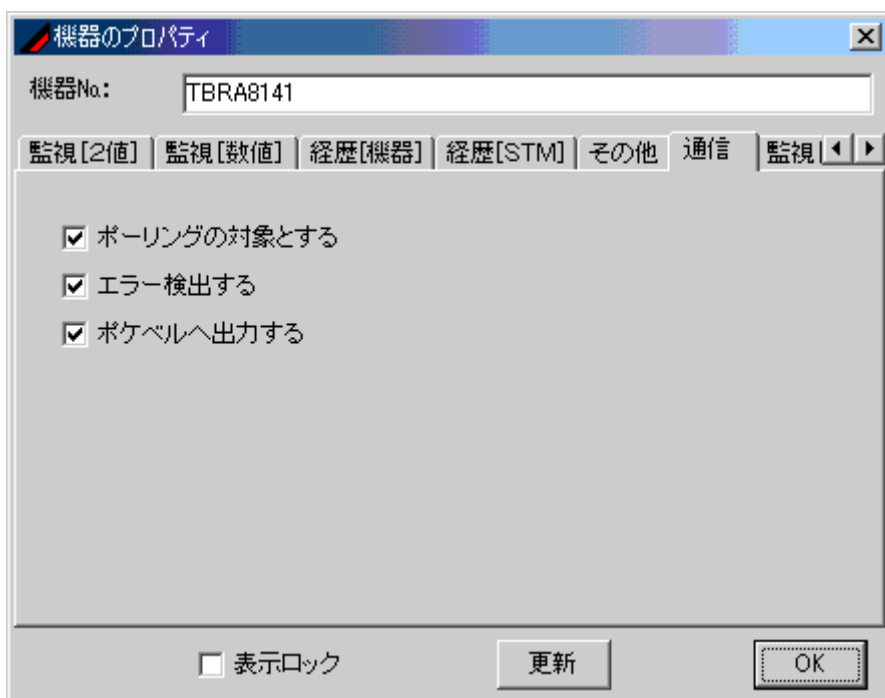
個別の機器に対するポーリング、エラー検出、メッセージ送信（ポケベル、ショートメール、電子メール）の有無を設定します。

[ 操作方法 ]

1. 系統図上で表示する機器をダブルクリックするか、右クリックし、[プロパティ]をクリックします。



2. [通信]タブをクリックします。



- [ポーリングの対象とする]  
この機器に対して通信を行う場合、チェックボックスを[ON]にします。[OFF]の場合、この機器への通信は行いません。
  - [エラー検出する]  
この機器でエラーが発生したことを検出する場合、チェックボックスを[ON]にします。[ポーリングの対象とする]チェックボックスを[OFF]にした場合、この項目の設定は無効です。
  - [ポケベルへ出力する]  
この機器でエラーが発生したときにメッセージ送信（ポケベル、ショートメール、電子メール）を行う場合、チェックボックスを[ON]にします。[ポーリングの対象とする]、および[エラー検出する]チェックボックスを[OFF]にした場合、この項目の設定は無効です。
  - STMを搭載していない機器の場合、この画面は表示されません。
3. [更新]ボタンをクリックすると確認のダイアログボックスが表示されるので、設定内容を保存する場合は[はい]、保存しない場合は[いいえ]をクリックしてください。

[ヒント]

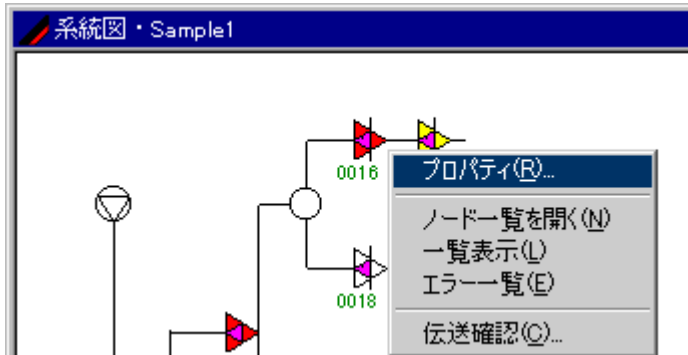
- [更新]ボタンが表示されるタブでは、そのタブ上の設定だけでなく他のタブ上の設定も同時に更新されます。そのため、それぞれのタブ上での設定を済ませた後に[更新]ボタンをクリックすると、まとめて設定することができます。


(11) 監視[数値]項目の内容を設定する

監視[数値]項目の上限下限値および表示値を設定します。設定した内容はこの機器でのみ有効です。

[操作方法]

1. 系統図上で表示する機器をダブルクリックするか、右クリックし、[プロパティ]をクリックします。



2. [監視[数値]編集]タブをクリックします。
3. [表示ロック]チェックボックスを[ON]にした後、設定したい項目をダブルクリックし、ボタンまたは直接入力を行います。



- [基準] 該当項目の上限および下限の基準となる値を設定します。基準値を + 1 に設定した場合、上限下限も同時に + 1 ずつ変更されます。
- [下限] 該当項目の下限値を設定します。

- [上限] 該当項目の上限値を設定します。
- [補正] 該当項目の監視[数値]項目の値を補正します。
  - S T Mを搭載していない機器の場合、この画面は表示されません。
- 4. 他の同タイプの機種もまとめて同一設定にする場合は、[編集の内容を他の機器(同一機種)にも適用する]にチェックを入れます。
- 5. [更新]ボタンをクリックすると確認のダイアログボックスが表示されるので、設定内容を保存する場合は[はい]、保存しない場合は[いいえ]をクリックしてください。

#### [ ヒント ]

- [更新]ボタンが表示されるタブでは、そのタブ上の設定だけでなく他のタブ上の設定も同時に更新されます。そのため、それぞれのタブ上での設定を済ませた後に[更新]ボタンをクリックすると、まとめて設定することができます。

## VII. 伝送確認

### (1)伝送確認を表示する

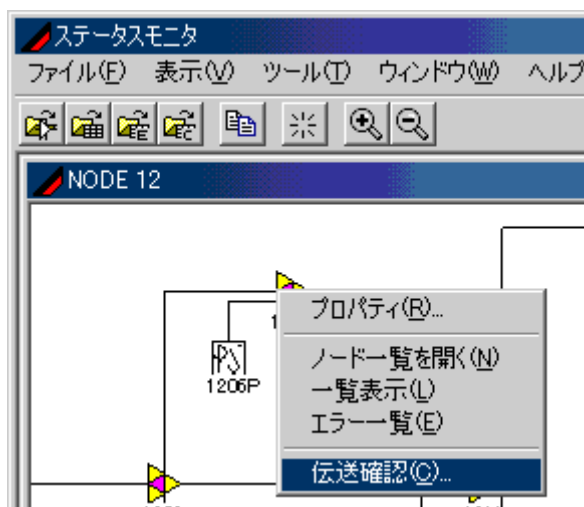
系統図に表示されている機器と1対1で通信することで、機器内蔵のステータスマニタユニットとの通信確認、機器の監視・制御を行います。

#### [ 注意 ]

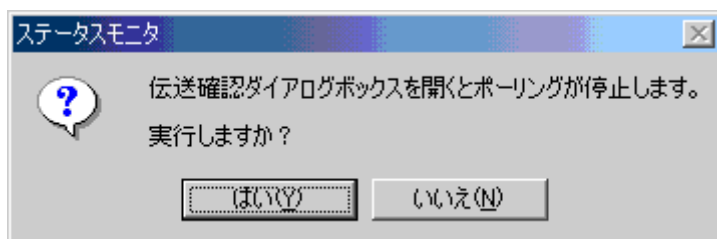
- 伝送確認実行中は他の機器とのポーリングを停止します。伝送確認を終了するまでポーリングを再開しません。
- 遠隔側 P C では伝送確認を実行できません。
- 系統図に登録していない機器は伝送確認できません。
- S T Mを搭載していない機器の場合は操作できません。

#### [ 操作方法 ]

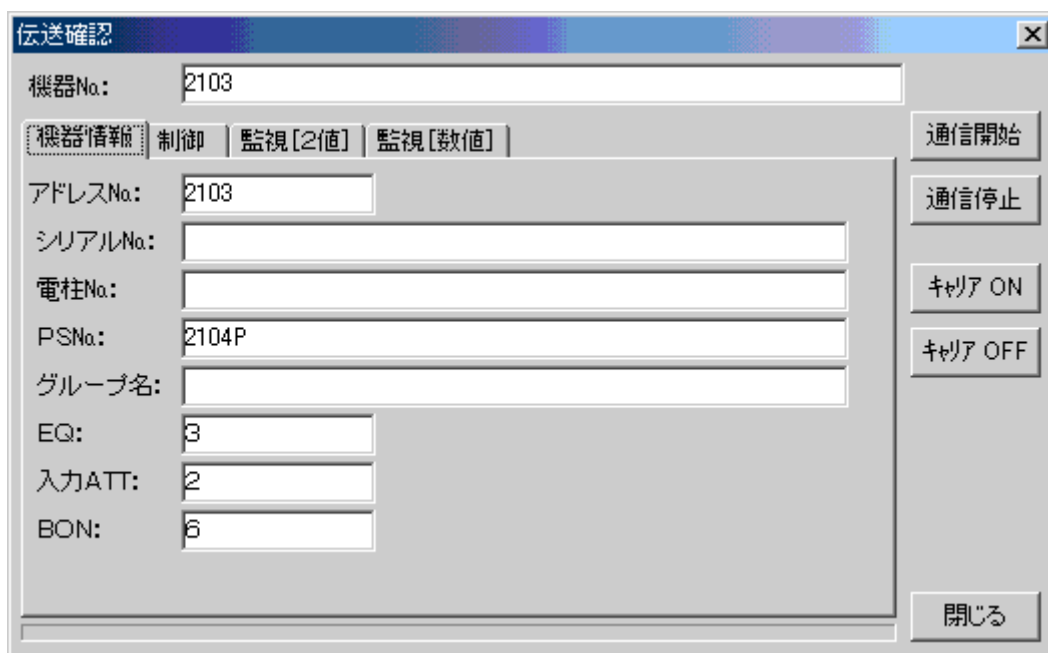
1. 系統図上で表示する機器を右クリックし、[伝送確認]をクリックします。



2. 実行するかどうか確認のダイアログボックスを表示しますので、実行する場合は[はい]ボタンをクリックします。



3. 伝送確認ダイアログボックスを表示します。




## (2) 伝送を確認する

### [ 操作方法 ]

1. 系統図上で表示する機器を右クリックし、[伝送確認]をクリックします。
2. 実行するかどうか確認のダイアログボックスを表示しますので、実行する場合は[はい]ボタンをクリックします。
3. 伝送確認ダイアログボックスを表示します。



#### 伝送確認での操作

操作項目	説明
[ 通信開始 ]	選択している機器と通信を開始します。通信中は <b>通信</b> と表示します。
[ 通信停止 ]	通信を停止します。
[ キャリア ON ]	選択している機器のステータスマニタユニットの上りデータ信号キャリアを ON するコマンドを送信します。キャリア ON 中は <b>キャリア ON</b> と表示します。また、キャリア ON 中を示すプログレスバーを表示します。 
[ キャリア OFF ]	ステータスマニタユニットの上りデータ信号キャリアを OFF するコマンドを送信します。
[ 設定 ]	[制御]タブの[設定]ボタンダブルクリックで制御内容を記憶します。 [通信開始]ボタンクリックまたは[閉じる]ボタンクリックでステータスマニタユニットに制御内容が反映されます。 通信中、キャリア ON 中は設定を変更できません。
[ 閉じる ]	[データ伝送確認]ダイアログボックスを閉じ、ポーリングを再開します。

- 伝送確認でステータスマニタユニットと通信でが無応答の場合は **無応答** と表示します。



### (3) 伝送確認・[情報]タブについて

#### [操作方法]

1. 系統図上で表示する機器を右クリックし、[伝送確認]をクリックします。
2. 実行するかどうか確認のダイアログボックスを表示しますので、実行する場合は[はい]ボタンをクリックします。
3. 伝送確認ダイアログボックスを表示します。

伝送確認

機器No: 2103

機器情報 | 制御 | 監視[2値] | 監視[数値]

アドレスNo: 2103

シリアルNo:

電柱No:

PSNo: 2104P

グループ名:

EQ: 3

入力ATT: 2

BON: 6

通信開始

通信停止

キャリア ON

キャリア OFF

閉じる

#### 情報タブで確認できる項目

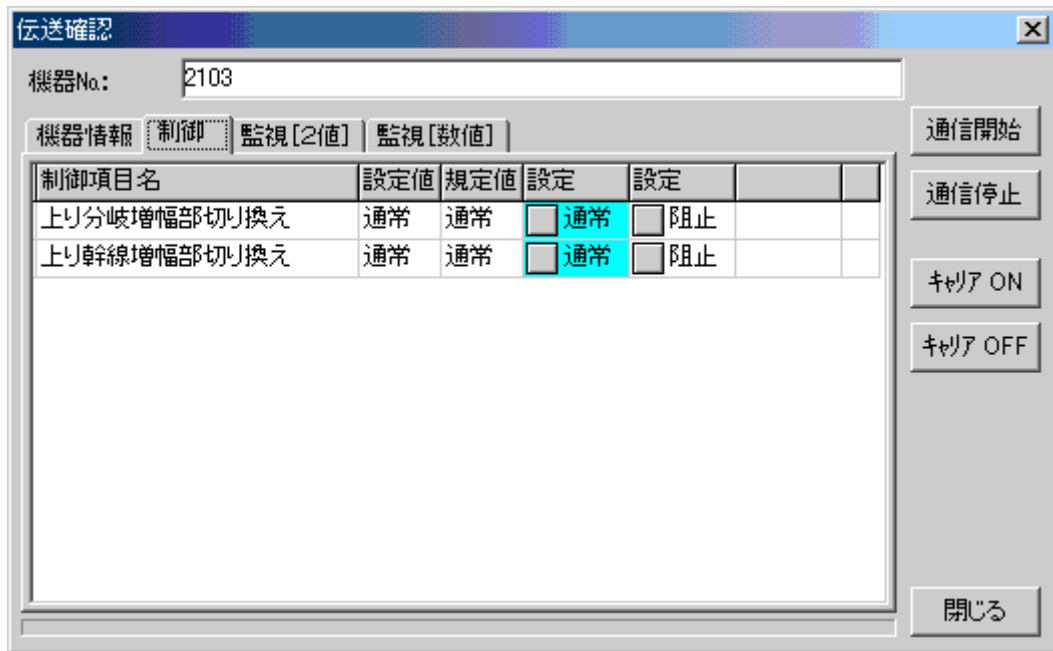
項目	説明
アドレス No.	装着されているSTMユニットのアドレス を表示します。
シリアル	シリアル を表示します。
電柱	取り付けられている電柱 を表示します。
PS	電源を供給しているPS を表示します。
グループ名	グループ名を表示します。
EQ	アンプのEQの値を表示します
入力ATT	アンプの入力ATTの値を表示します。
BON	アンプのBONの値を表示します。

### (4) 伝送確認・[制御]タブについて

#### [操作方法]

1. 系統図上で表示する機器を右クリックし、[伝送確認]をクリックします。
2. 実行するかどうか確認のダイアログボックスを表示しますので、実行する場合は[はい]ボタンをクリックします。

3. 伝送確認ダイアログボックスを表示します。



[ 制御 ] タブでは機器の制御に必要な項目を表示します。

項目	説明
制御項目名	制御する対象の項目名を表示します。
設定値	現在の制御状態を表示します。
既定値	標準値がどちらの状態かを表示します。
設定	設定する項目をボタンで表示します。

- 制御の内容は、[通信開始]ボタンクリックまたは[閉じる]ボタンクリックでステータスマニタユニットに制御内容が反映されます。
- 通信中、キャリアON中は設定を変更できません。

設定で[ - 6 d B ]が選択できる機器について

[ - 6 d B ]の設定は確認用のため運用では設定しないでください。

(5)伝送確認・[監視[2値]]タブについて

[操作方法]

1. 系統図上で表示する機器を右クリックし、[伝送確認]をクリックします。
2. 実行するかどうか確認のダイアログボックスを表示しますので、実行する場合は[はい]ボタンをクリックします。



3. 伝送確認ダイアログボックスを表示します。



監視（2値）で確認できる項目（例）

項目	説明
ふた開閉状態	ふた開閉状態を表示します（開／閉）。
水浸入状態	水浸入状態を表示します（有／無）。
動作電源状態	動作電源状態を表示します（商用／インバータ）。
下りAGC／MGC動作状態	AGC動作状態を表示します（AGC／MGC）。
上り分岐増幅部動作状態	上り分岐増幅部の動作状態を表示します（通常／阻止）。
上り幹線増幅部動作状態	上り幹線増幅部動作状態を表示します（通常／阻止）。

- 監視項目は機器品番、伝送フォーマットにより異なります。
- 状態表示は状態によって色が変わります。

	正常の場合
	エラーが発生している場合

(6) 伝送確認・[監視[数値]]タブについて

[操作方法]

1. 系統図上で表示する機器を右クリックし、[伝送確認]をクリックします。
2. 実行するかどうか確認のダイアログボックスを表示しますので、実行する場合は[は

い)ボタンをクリックします。



3. 伝送確認ダイアログボックスを表示します。



監視（数値）で確認できる項目（例）

項目	説明
下りパイロット信号出力レベル	下りパイロット信号出力レベルを表示します（1 dB 単位）。
AC 電源電圧	商用電源使用時の AC 電源電圧を表示します（1 V 単位）。
AC 電源電圧（インバータ）	インバータ電源使用時の AC 電源電圧を表示します（1 V 単位）。
DC 電源電圧	DC 電源電圧を表示します。（1 V 単位）。
筐体内温度	筐体内部の温度を表示します（1 単位）。
筐体内湿度	筐体内部の湿度を表示します（10 % 単位）。

- 監視項目は機器品番、伝送フォーマットにより異なります。
- 状態表示は状態によって色が変わります。

	正常の場合
	エラーが発生している場合

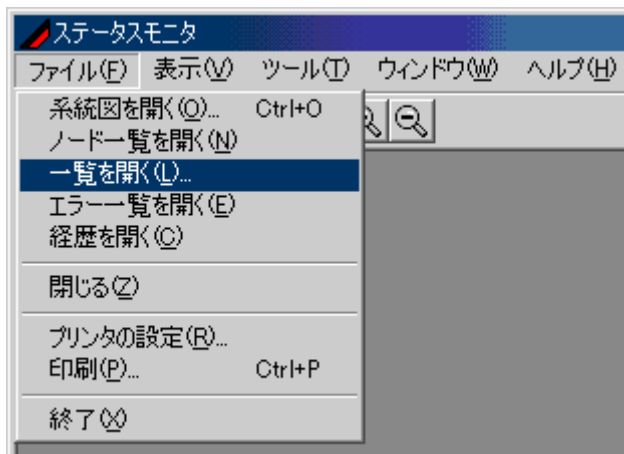
## VIII. 機器一覧

### (1) 機器一覧を表示する

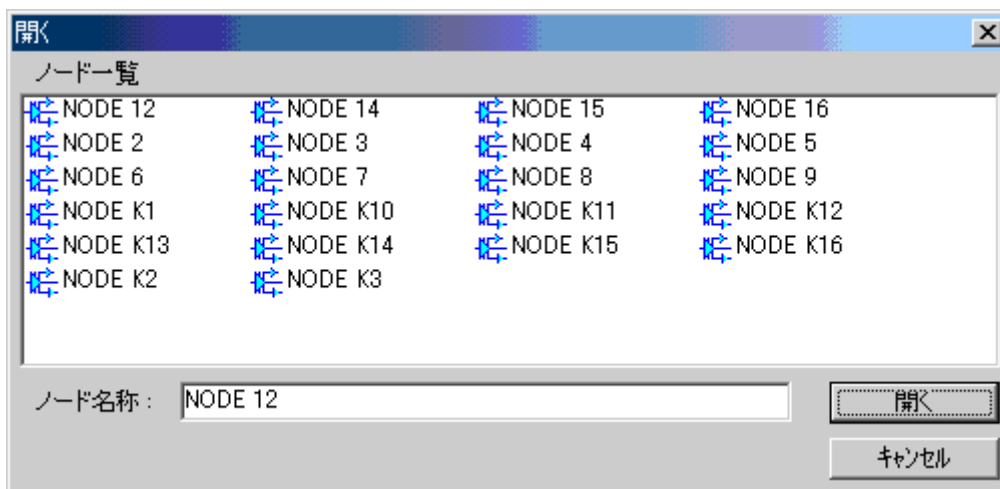
機器個別情報・情報タブで表示される内容をノード別に一覧表示します。

#### [ 操作方法 1 ]

1. メニューバーの[ファイル] [一覧を開く]をクリック、またはツールバーの[一覧を開く]アイコンをクリックします。

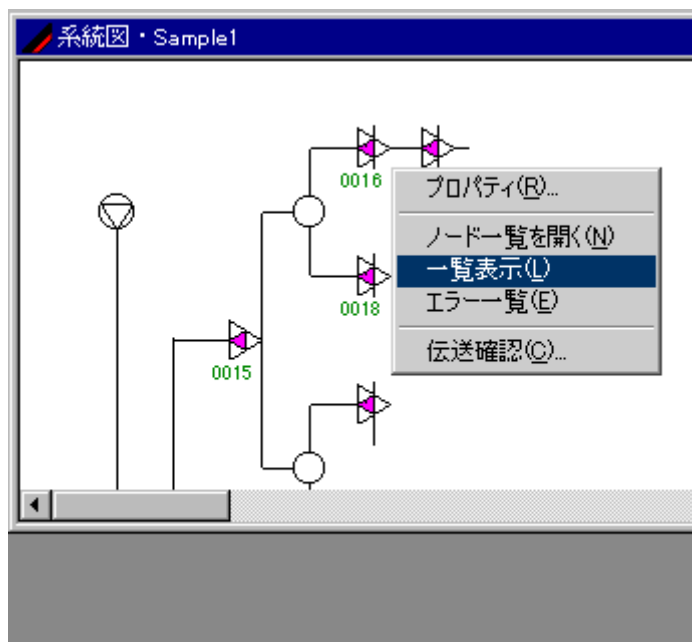


2. ノード名称をクリックし[開く]をクリックします。



[ 操作方法 2 ]

1. 系統図上で右クリックし、[一覧表示]をクリックします。機器を右クリックした場合、その機器より前に接続された機器の一覧が表示されます。ノード全体の一覧を表示する場合は機器が表示されていないところで右クリックします。



(2) 機器一覧・[情報]タブについて

各機器の情報を一覧表示します。

[ 表示概要 ]

機器No.	機器品番	STM	通信形式	電源	アドレスNo.	シリアルNo.	電▲
0174	TBRA-8001	STK-104	独自 [770MHz]1	60V施設用	114	M801094	7
0153	TBRA-8001	STK-104	独自 [770MHz]1	60V施設用	107	M801099	7
0159	TBRA-8001	STK-104	独自 [770MHz]1	60V施設用	108	M801086	7
0160	TBRA-8001	STK-104	独自 [770MHz]1	60V施設用	109	M801007	7
0109	TBRA-8001	STK-104	独自 [770MHz]1	60V施設用	103	M801093	7

[情報]タブで確認できる項目

項目	説明
機器	機器 を表示します。 STMとの通信に異常がある場合に黄色で塗りつぶします。
機器品番	機器品番を表示します。

STM	装着されているSTMユニット名を表示します。
通信形式	STMユニットの通信形式を表示します。
電源	接続されている電源を表示します。
アドレス	装着されているSTMユニットのアドレス を表示します。
シリアル	シリアル を表示します。
電柱	アンプが取り付けられている電柱 を表示します。
PS	アンプに電源を供給しているPS を表示します。
グループ	グループ名を表示します。
EQ	アンプのEQの値を表示します。
入力ATT	アンプの入力ATTの値を表示します。
BON	アンプのBONの値を表示します。

- [情報]タブでは次の操作ができます。

#### [ 機器のプロパティ ]

機器単体の監視、制御項目等を表示します。  
プロパティ表示させる機器の行をダブルクリックするか、右クリックしてポップアップメニューの[プロパティ]をクリックします。

#### [ 系統図 ]

一覧内で右クリックしてポップアップメニューの[系統図を開く]をクリックします。  
同じノードの系統図が開きます。(すでに開いている場合は新た開きません。)

#### [ ノード/系統一覧 ]

ノード機器およびノード全体のエラー状況を一覧表示します。  
一覧表内で右クリックしてポップアップメニューの[ノード一覧を開く]をクリックします。

#### [ エラーの一覧 ]

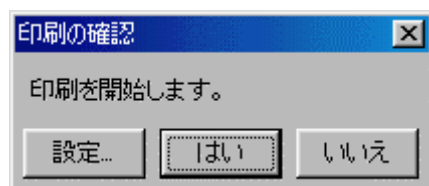
一覧内で右クリックしてポップアップメニューの[エラー一覧]をクリックします。

#### [ コピー ]

メニューバーの[編集] [コピー]、または一覧内で右クリックしてポップアップメニューの[コピー]をクリックします。一覧のテキストデータがクリップボードに取り込まれます。

#### [ 印刷 ]

1. メニューバーの [ファイル] [印刷]をクリックします。

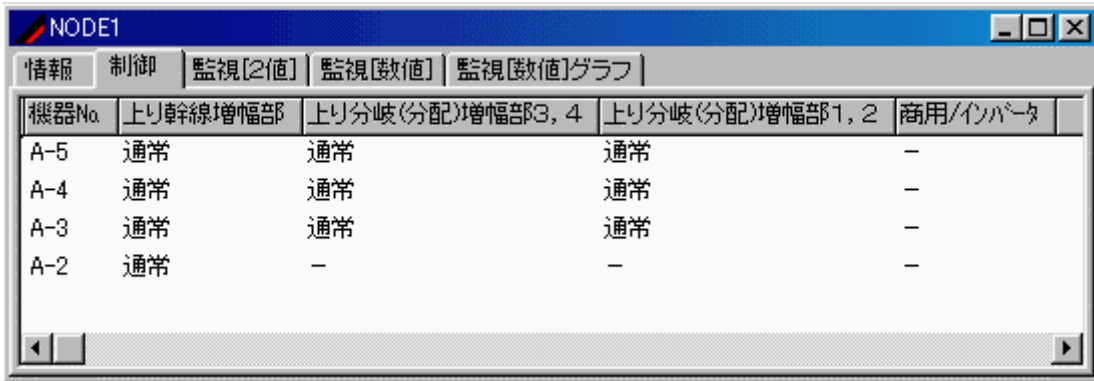


2. 印刷の開始は[はい]、プリンタの設定は[設定... ]、キャンセルは[いいえ]をクリックします。

(3) 機器一覧・[制御]タブについて

各機器の制御情報を一覧表示します。

[表示概要]



The screenshot shows a window titled 'NODE1' with a menu bar containing '情報', '制御', '監視[2値]', '監視[数値]', and '監視[数値]グラフ'. Below the menu is a table with the following data:

機器No.	上り幹線増幅部	上り分岐(分配)増幅部3, 4	上り分岐(分配)増幅部1, 2	商用/インバータ
A-5	通常	通常	通常	-
A-4	通常	通常	通常	-
A-3	通常	通常	通常	-
A-2	通常	-	-	-

[制御]タブで確認できる項目(例)

項目	説明
上り分岐増幅部切り換え状態	上り分岐増幅部切り換え状態を表示します(通常/阻止)。
上り幹線増幅部切り換え状態	上り幹線増幅部切り換え状態を表示します(通常/阻止)。

制御項目は機器品番、伝送フォーマットにより異なります。

- [制御]タブでは次の操作ができます。

[機器のプロパティ]

機器単体の監視、制御項目等を表示します。  
プロパティ表示させる機器の行をダブルクリックするか、右クリックしてポップアップメニューの[プロパティ]をクリックします。

[系統図]

一覧内で右クリックしてポップアップメニューの[系統図を開く]をクリックします。  
同じノードの系統図が開きます。(すでに開いている場合は新た開きません。)

[ノード/系統一覧]

ノード機器およびノード全体のエラー状態を一覧表示します。  
一覧表内で右クリックしてポップアップメニューの[ノード一覧を開く]をクリックします。

[エラーの一覧]

一覧内で右クリックしてポップアップメニューの[エラー一覧]をクリックします。

[コピー]

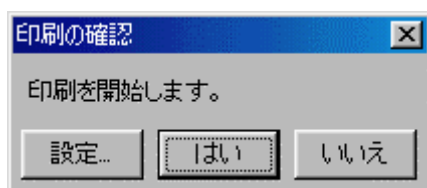
メニューバーの[編集] [コピー]、または一覧内で右クリックしてポップアップメニューの[コピー]をクリックします。一覧のテキストデータがクリップボードに取り



込まれます。

[印刷]

1. メニューバーの [ファイル] [印刷]をクリックします。



2. 印刷の開始は[はい]、プリンタの設定は[設定... ]、キャンセルは[いいえ]をクリックします。

(4)機器一覧・[監視[2値]]タブについて

各機器の監視[2値]情報を一覧表示します。

[表示概要]

機器No.	ふた開閉	水浸入	動作電源	AGC/MGC	上り分岐増幅部	上り分岐(分配)増幅部1, 2	上り分岐(分配)増幅部3, 4
A-5	閉	無	商用	-	通常	通常	通常
A-4	閉	無	商用	AGC	通常	通常	通常
A-3	閉	無	商用	AGC	通常	通常	通常
A-2	閉	無	商用	AGC	通常	-	-

[監視[2値]]タブで確認できる項目(例)

項目	説明
機器	機器 を表示します。
ふた開閉状態	ふた開閉状態を表示します(開/閉)。
水浸入状態	水浸入状態を表示します(有/無)。
動作電源状態	動作電源状態を表示します(商用/インバータ)。
下りAGC/MGC動作状態	AGC動作状態を表示します(AGC/MGC)。
上り分岐増幅部切り換え状態	上り分岐増幅部切り換え状態を表示します(通常/阻止)。
上り幹線増幅部動作状態	上り幹線増幅部動作状態を表示します(通常/阻止)。

監視項目は機器品番、伝送フォーマットにより異なります。

- [監視[2値]]タブでは次の操作ができます。

[ 機器のプロパティ ]

機器単体の監視、制御項目等を表示します。

プロパティ表示させる機器の行をダブルクリックするか、右クリックしてポップアップメニューの[プロパティ]をクリックします。

[ 系統図 ]

一覧内で右クリックしてポップアップメニューの[系統図を開く]をクリックします。

同じノードの系統図が開きます。(すでに開いている場合は新たに開きません。)

[ ノード/系統一覧 ]

ノード機器およびノード全体のエラー状況を一覧表示します。

一覧表内で右クリックしてポップアップメニューの[ノード一覧を開く]をクリックします。

[ エラーの一覧 ]

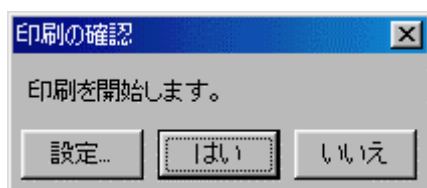
一覧内で右クリックしてポップアップメニューの[エラー一覧]をクリックします。

[ コピー ]

メニューバーの[編集] [コピー]、または一覧内で右クリックしてポップアップメニューの[コピー]をクリックします。一覧のテキストデータがクリップボードに取り込まれます。

[ 印刷 ]

1. メニューバーの [ファイル] [印刷]をクリックします。



2. 印刷の開始は[はい]、プリンタの設定は[設定... ]、キャンセルは[いいえ]をクリックします。

(5) 機器一覧・[監視[数値]]タブについて

各機器の監視[数値]情報を一覧表示します。

[ 表示概要 ]

NODE1						
機器No	下り出力レベル	AC電圧	DC電圧	筐体内温度	筐体内湿度	AC電流
A-5	-	61 V [97]	24 V [76]	35 °C [2D]	0 % [03]	-
A-4	97 dB $\mu$ [A2]	61 V [97]	24 V [76]	35 °C [2D]	0 % [02]	-
A-3	97 dB $\mu$ [A0]	61 V [96]	24 V [75]	35 °C [2D]	0 % [02]	-
A-2	97 dB $\mu$ [9C]	61 V [97]	24 V [76]	37 °C [2E]	0 % [02]	-

[監視[数値]]タブで確認できる項目（例）

項目	説明
機器	機器 を表示します。
下りパイロット信号出力レベル	下りパイロット信号出力レベルを表示します（1 dB単位）。
A C 電源電圧	商用電源使用時のA C 電源電圧を表示します（1 V単位）。
A C 電源電圧（インバータ）	インバータ電源使用時のA C 電源電圧を表示します（1 V単位）。
D C 電源電圧	D C 電源電圧を表示します。（1 V単位）。
筐体内温度	筐体内部の温度を表示します（1 単位）。
筐体内湿度	筐体内部の湿度を表示します（1 0 %単位）。

監視項目は機器品番、伝送フォーマットにより異なります。

カッコ内の数値は各監視[数値]情報の元になる16進値で、それぞれの項目に応じたレベル表現に変換されて左の値となります。この数値は通信サーバーソフトの通信状況ウィンドウで表示される受信データの値と一致します。

- [監視[数値]]タブでは次の操作ができます。

[ 機器のプロパティ ]

機器単体の監視、制御項目等を表示します。

プロパティ表示させる機器の行をダブルクリックするか、右クリックしてポップアップメニューの[プロパティ]をクリックします。

[ 系統図 ]

一覧内で右クリックしてポップアップメニューの[系統図を開く]をクリックします。同じノードの系統図が開きます。（すでに開いている場合は新た開きません。）

[ ノード/系統一覧 ]

ノード機器およびノード全体のエラー状況を一覧表示します。

一覧表内で右クリックしてポップアップメニューの[ノード一覧を開く]をクリックします。

[ エラーの一覧 ]

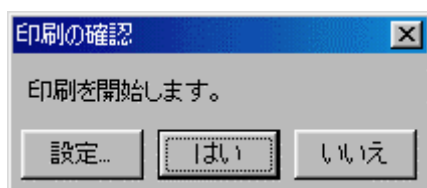
一覧内で右クリックしてポップアップメニューの[エラー一覧]をクリックします。

[ コピー ]

メニューバーの[編集] [コピー]、または一覧内で右クリックしてポップアップメニューの[コピー]をクリックします。一覧のテキストデータがクリップボードに取り込まれます。

[印刷]

1. メニューバーの [ファイル] [印刷]をクリックします。

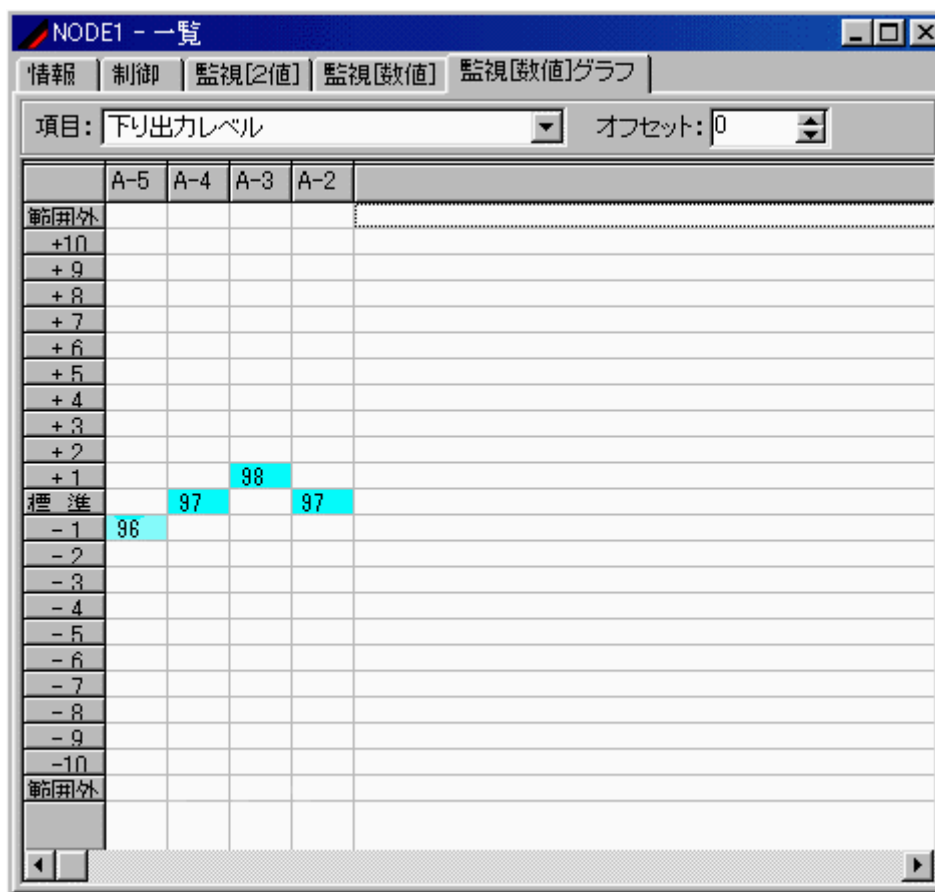


2. 印刷の開始は[はい]、プリンタの設定は[設定... ]、キャンセルは[いいえ]をクリックします。

(6)機器一覧・[監視[数値]グラフ]タブについて

各機器の監視[数値]情報をグラフ表示します。横軸は各機器の機器 No.、縦軸は標準値からのレベル位置を表します。各機器の数値情報が、標準値からどれだけ増減しているかが視覚的に表示されるので、他の機器とのレベルの違いや異常をひと目で確認することができます。

[表示概要]

A screenshot of a software window titled "NODE1 - 一覧". It has several tabs: "情報", "制御", "監視[2値]", "監視[数値]", and "監視[数値]グラフ". The "監視[数値]グラフ" tab is selected. Below the tabs, there is a dropdown menu for "項目:" with "下り出力レベル" selected, and a spinner for "オフセット:" set to "0". The main area is a table with columns for device IDs (A-5, A-4, A-3, A-2) and rows for levels from +10 to -10, plus "範囲外" (Out of Range) at the top and bottom. The "標準" (Standard) row is highlighted in cyan. The data values are: A-5: 96, A-4: 97, A-3: 98, A-2: 97.

	A-5	A-4	A-3	A-2
範囲外				
+10				
+9				
+8				
+7				
+6				
+5				
+4				
+3				
+2				
+1			98	
標準		97		97
-1	96			
-2				
-3				
-4				
-5				
-6				
-7				
-8				
-9				
-10				
範囲外				

[ 操作方法 ]

1. 表示させる数値項目を[項目]リストボックスから選択します。
2. グラフの範囲内に収まらない場合は[オフセット]を増減させます。

表示項目は機器品番、伝送フォーマットにより異なります。

- [監視[数値]グラフ]タブでは次の操作ができます。

[ 機器のプロパティの表示 ]

プロパティ表示させる機器の列をダブルクリックします。

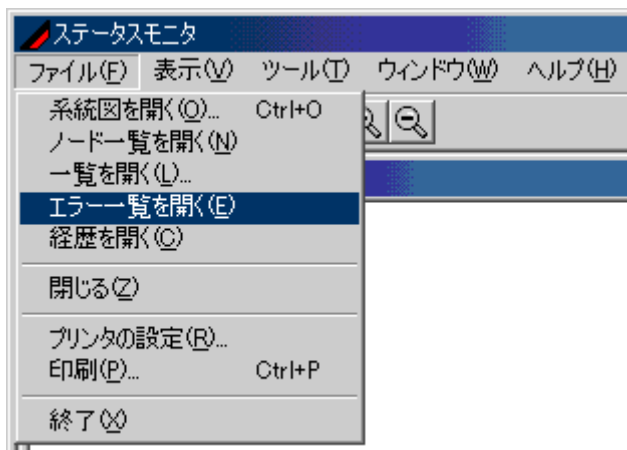
## IX. エラー一覧

### (1) エラー一覧を表示する

現在発生しているエラーの内容をノード別に一覧表示します。

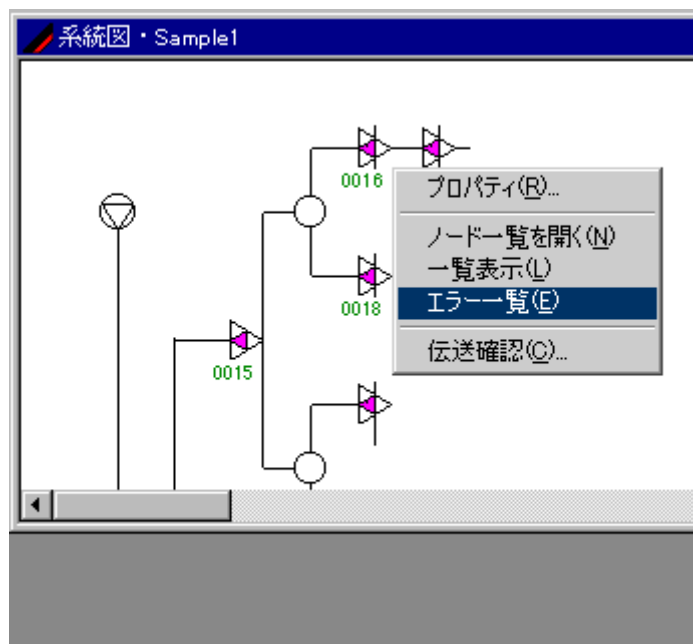
[ 操作方法 1 ]

1. メニューバーの[ファイル] [エラー一覧を開く]をクリック、またはツールバーの[エラー一覧を開く]アイコンをクリックします。



[ 操作方法 2 ]

1. 系統図上で右クリックし、[エラー一覧]をクリックします。



(2) エラー一覧について

現在発生しているエラーの情報を全ノード、およびノード別に一覧表示します。

[ 表示概要 ]

機器No.	エラー項目	エラー状態	品番	STM
A-1	下り光受信機2入力	無	C-COR FlexNet Node	STK-108
A-1	ふた開閉状態	開	C-COR FlexNet Node	STK-108
A-1	ALC/Manualスイッチ	マニュアル	C-COR FlexNet Node	STK-108
A-1	光受信機2/パワーモニタ	0.00 mW	C-COR FlexNet Node	STK-108
A-2	ふた開閉状態	開	TRA-8141	STK-106
A-3	ふた開閉状態	開	TDRA-8141	STK-106
A-4	ふた開閉状態	開	TBRA-8141	STK-106
A-5	ふた開閉状態	開	BRA-8141	STK-106
PS-A	バッテリー電圧	80 V	PS-6015DFN(T)	T-2608
A-6	ふた開閉状態	開	TBRA-8151	STK-104

## エラー一覧で確認できる項目

項目	説明
ノード名	エラーが発生した機器のノード名を表示します（全ノード表示時のみ）
機器	機器 を表示します。
エラー項目	エラーの内容を表示します。
エラー状態	エラー発生時の状態を表示します。
品番	機器の品番。
S T M	機器に搭載されている S T M名を表示します。
発生日	エラーの発生日月日を表示します。
発生時刻	エラーの発生時刻を表示します。

- エラー一覧では次の操作ができます。

### [ 機器のプロパティ ]

機器単体の監視、制御項目等を表示します。

プロパティ表示させる機器の行をダブルクリックするか、右クリックしてポップアップメニューの[プロパティ]をクリックします。

### [ 系統図 ]

一覧内で右クリックしてポップアップメニューの[系統図を開く]をクリックします。同じノードの系統図が開きます。（すでに開いている場合は新た開きません。）

### [ ノードノ系統一覧 ]

ノード機器およびノード全体のエラー状況を一覧表示します。

一覧表内で右クリックしてポップアップメニューの[ノード一覧を開く]をクリックします。

### [ エラーの一覧 ]

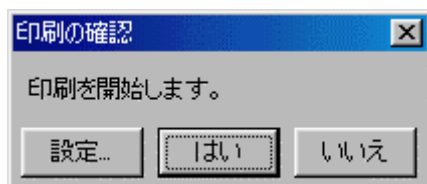
一覧内で右クリックしてポップアップメニューの[エラー一覧]をクリックします。

### [ コピー ]

メニューバーの[編集] [コピー]、または一覧内で右クリックしてポップアップメニューの[コピー]をクリックします。一覧のテキストデータがクリップボードに取り込まれます。

### [ 印刷 ]

- メニューバーの [ファイル] [印刷]をクリックします。



- 印刷の開始は[はい]、プリンタの設定は[設定 ... ]、キャンセルは[いいえ]をクリックします。



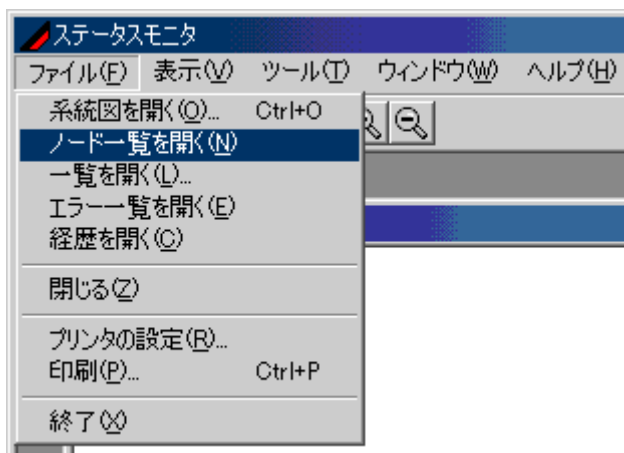
## X. ノード一覧

### (1) ノード一覧を表示する

ノードおよびノード機器の情報を一覧で表示します。

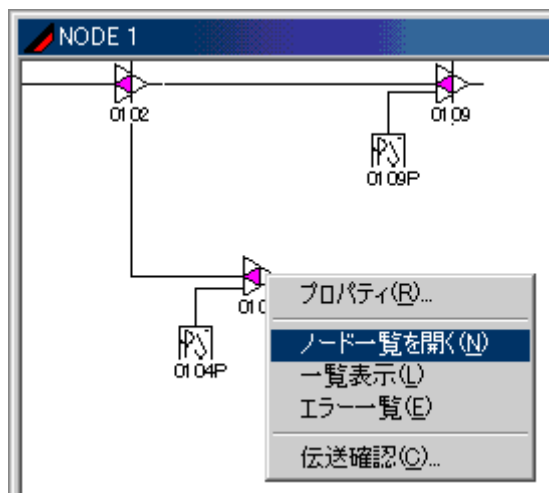
#### [ 操作方法 1 ]

1. ニューバーの[ファイル] [ノードを開く]をクリックします。



#### [ 操作方法 2 ]

1. 系統図上で右クリックし、[ノード一覧を開く]をクリックします。



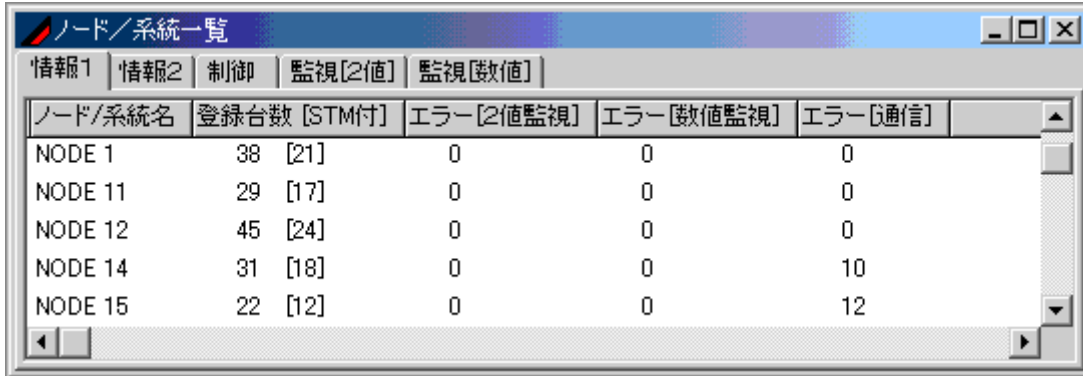
#### [ ヒント ]

- 一覧表示およびエラー一覧上で[ノード一覧を開く]をクリックすることでも[ノード一覧]を表示できます。

(2) ノード一覧・[情報1] タブについて

各ノードのエラー発生状況を一覧表示します。

[表示概要]



ノード/系統名	登録台数 [STM付]	エラー [2値監視]	エラー [数値監視]	エラー [通信]
NODE 1	38 [21]	0	0	0
NODE 11	29 [17]	0	0	0
NODE 12	45 [24]	0	0	0
NODE 14	31 [18]	0	0	10
NODE 15	22 [12]	0	0	12

[情報1] タブで確認できる項目

項目	説明
ノード/系統名	ノード名または系統名を表示します。
登録台数	ノードに登録されている機器の台数を表示します。 [ ] 内はステータスユニット搭載機種数の台数です。
エラー [ 2 値監視 ]	各ノードで監視 [ 2 値 ] エラーが発生している台数を表示します。
エラー [ 数値監視 ]	各ノードで監視 [ 数値 ] エラーが発生している台数を表示します。
エラー [ 通信 ]	各ノードでSTMとの通信エラーが発生している台数を表示します。

- [情報1] タブでは次の操作ができます。

[ 系統図 ]

一覧内で右クリックしてポップアップメニューの[系統図を開く]をクリックします。同じノードの系統図が開きます。(すでに開いている場合は新たに開きません。)

[ 一覧表示 ]

ノード内の機器の監視、制御項目等をノード毎に一覧表示します。

[ エラーの一覧 ]

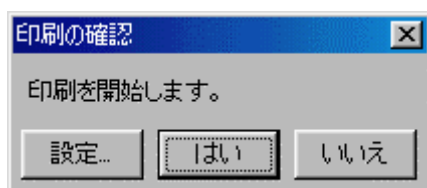
現在発生しているエラーを一覧表示します。一覧内で右クリックしてポップアップメニューの[エラー一覧]をクリックします。

[ コピー ]

メニューバーの[編集] [コピー]、または一覧内で右クリックしてポップアップメニューの[コピー]をクリックします。一覧のテキストデータがクリップボードに取り込まれます。

[印刷]

1. メニューバーの [ファイル] [印刷]をクリックします。



2. 印刷の開始は[はい]、プリンタの設定は[設定 ... ]、キャンセルは[いいえ]をクリックします。

(3) ノード一覧・[情報2] タブについて

ノードアンプの情報を一覧表示します。

[表示概要]

ノード/系統名	機器No.	機器品番	STM	通信形式
NODE 1	0100	OTR-8002・2出力	STK-104	独自 [770MHz]
NODE 2	0200	OTR-8002・2出力	STK-104	独自 [770MHz]
NODE 3	0300	OTR-8002・2出力	STK-104	独自 [770MHz]
NODE 4	0400	OTR-8002・2出力	STK-104	独自 [770MHz]
NODE 5	0500	OTR-8002・2出力	STK-104	独自 [770MHz]

[情報2]タブで確認できる項目

項目	説明
ノード/系統名	ノード名または系統名を表示します。
機器	機器 を表示します。
機器品番	機器品番を表示します。
STM	装着されている STM ユニット名を表示します。
通信形式	STM ユニットの通信形式を表示します。
電源	接続されている電源を表示します。
アドレス	装着されている STM ユニットのアドレス を表示します。
シリアル	シリアル を表示します。
電柱	アンプが取り付けられている電柱 を表示します。
PS	アンプに電源を供給している PS を表示します。

グループ	グループ名を表示します。
E Q	アンプのE Qの値を表示します。
入力A T T	アンプの入力A T Tの値を表示します。
B O N	アンプのB O Nの値を表示します。

- [情報 2]タブでは次の操作ができます。

[ 機器のプロパティ ]

機器単体の監視、制御項目等を表示します。

プロパティ表示させる機器の行をダブルクリックするか、右クリックしてポップアップメニューの [ プロパティ ] をクリックします。

[ 系統図 ]

一覧内で右クリックしてポップアップメニューの [ 系統図を開く ] をクリックします。同じノードの系統図が開きます。(すでに開いている場合は新た開きません。)

[ 一覧表示 ]

ノード内の機器の監視、制御項目等をノード毎に一覧表示します。

[ エラーの一覧 ]

現在発生しているエラーを一覧表示します。

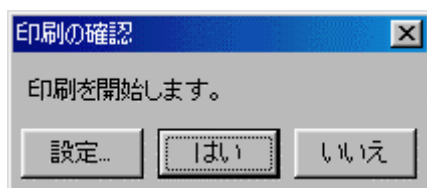
一覧内で右クリックしてポップアップメニューの [ エラー一覧 ] をクリックします。

[ コピー ]

メニューバーの [ 編集 ] [ コピー ]、または一覧内で右クリックしてポップアップメニューの [ コピー ] をクリックします。一覧のテキストデータがクリップボードに取り込まれます。

[ 印刷 ]

1. メニューバーの [ ファイル ] [ 印刷 ] をクリックします。

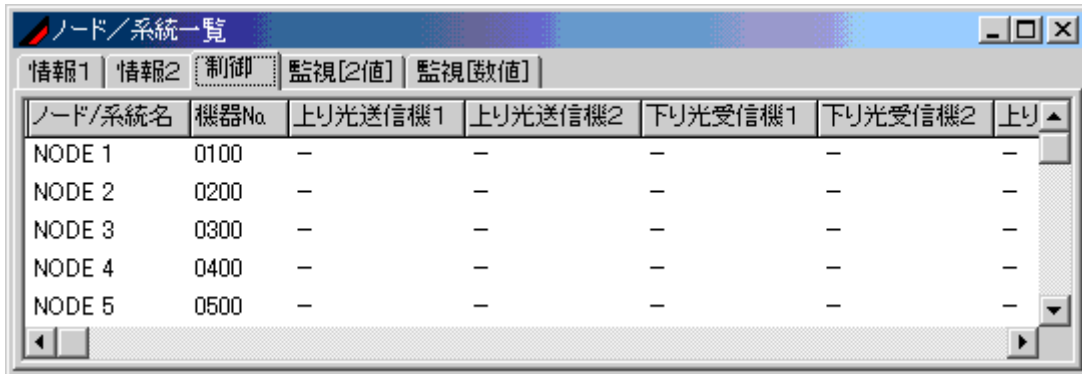


2. 印刷の開始は [ はい ]、プリンタの設定は [ 設定 ... ]、キャンセルは [ いいえ ] をクリックします。

(4) ノード一覧・[制御] タブについて

ノードアンプの制御情報を一覧表示します。

[表示概要]



ノード/系統名	機器No.	上り光送信機1	上り光送信機2	下り光受信機1	下り光受信機2	上り▲
NODE 1	0100	-	-	-	-	-
NODE 2	0200	-	-	-	-	-
NODE 3	0300	-	-	-	-	-
NODE 4	0400	-	-	-	-	-
NODE 5	0500	-	-	-	-	-

[制御]タブで確認できる項目

項目	説明
ノード/系統名	ノード名または系統名を表示します。
機器	機器 を表示します。
上り光送信機 1	上り光送信機 1 の制御状態を表示します ( ON/OFF )。
上り光送信機 2	上り光送信機 2 の制御状態を表示します ( ON/OFF )。
下り光受信機 1	下り光受信機 1 の制御状態を表示します ( ON/OFF )。
下り光受信機 2	下り光受信機 2 の制御状態を表示します ( ON/OFF )。
上り RF スイッチ	上り幹線増幅部切り換え状態を表示します ( 通過/ - 6 dB/阻止 )。

- 機種により制御可能な項目が異なります。

- [情報 2]タブでは次の操作ができます。

[ 機器のプロパティ ]

機器単体の監視、制御項目等を表示します。

プロパティ表示させる機器の行をダブルクリックするか、右クリックしてポップアップメニューの [ プロパティ ] をクリックします。

[ 系統図 ]

一覧内で右クリックしてポップアップメニューの [ 系統図を開く ] をクリックします。

同じノードの系統図が開きます。(すでに開いている場合は新た開きません。)

[ 一覧表示 ]

ノード内の機器の監視、制御項目等をノード毎に一覧表示します。

#### [エラーの一覧]

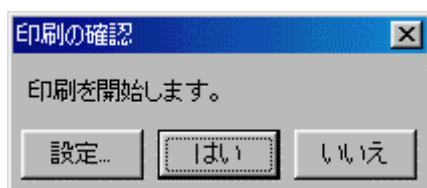
現在発生しているエラーを一覧表示します。  
一覧内で右クリックしてポップアップメニューの[エラー一覧]をクリックします。

#### [コピー]

メニューバーの[編集] [コピー]、または一覧内で右クリックしてポップアップメニューの[コピー]をクリックします。一覧のテキストデータがクリップボードに取り込まれます。

#### [印刷]

1. メニューバーの [ファイル] [印刷]をクリックします。

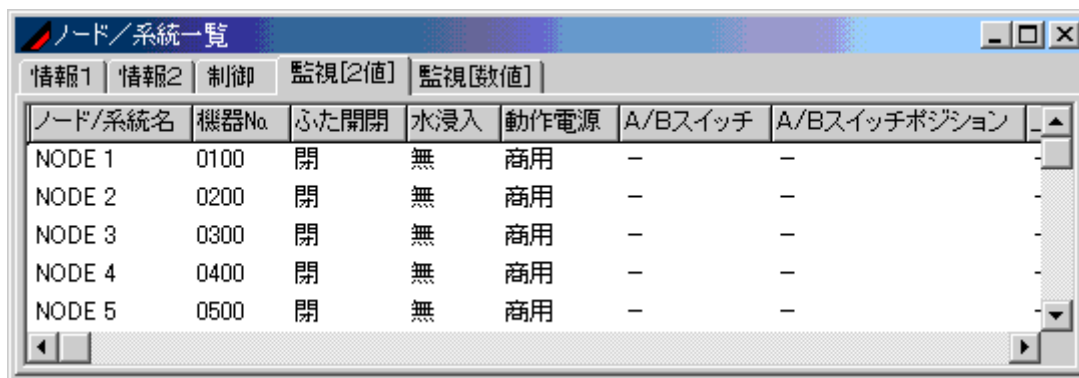


2. 印刷の開始は[はい]、プリンタの設定は[設定... ]、キャンセルは[いいえ]をクリックします。

#### (5) ノード一覧・[監視 [ 2 値 ]] タブについて

ノードアンプの監視 [ 2 値 ] 情報を一覧表示します。

#### [表示概要]

A screenshot of a software window titled "ノード/系統一覧" (Node/System Overview). The window has several tabs: "情報1", "情報2", "制御", "監視[2値]", and "監視[数値]". The "監視[2値]" tab is selected. Below the tabs is a table with the following columns: "ノード/系統名", "機器No.", "ふた開閉", "水浸入", "動作電源", "A/Bスイッチ", and "A/Bスイッチポジション". The table contains five rows of data for NODE 1 through NODE 5.

ノード/系統名	機器No.	ふた開閉	水浸入	動作電源	A/Bスイッチ	A/Bスイッチポジション
NODE 1	0100	閉	無	商用	-	-
NODE 2	0200	閉	無	商用	-	-
NODE 3	0300	閉	無	商用	-	-
NODE 4	0400	閉	無	商用	-	-
NODE 5	0500	閉	無	商用	-	-

#### [監視 [ 2 値 ]] タブで確認できる項目

項目	説明
ノード/系統名	ノード名または系統名を表示します。
機器	機器 を表示します。
ふた開閉状態	ふた開閉状態を表示します。(開/閉)
水浸入状態	水浸入状態を表示します。(有/無)
動作電源状態	動作電源状態を表示します。(商用/インバータ)

A/Bスイッチ	A/Bスイッチが挿入されているかどうかを表示します。(有/無)
A/Bスイッチポジション	A/BスイッチがA側B側どちらになっているかを表示します。(A/B)
上り光送信機1	上り光送信機1が挿入されているかどうかを表示します。(有/無)
上り光送信機2	上り光送信機2が挿入されているかどうかを表示します。(有/無)
下り光受信機1	下り光受信機1が挿入されているかどうかを表示します。(有/無)
下り光受信機2	下り光受信機2が挿入されているかどうかを表示します。(有/無)
下り光受信機1入力	下り光受信機1に光入力の有無を表示します。(有/無)
下り光受信機2入力	下り光受信機2に光入力の有無を表示します。(有/無)
A/GC/MGC動作状態	A/GC/MGCの動作状態を表示します。(A/GC/MGC)

- 機種により制御可能な項目が異なります。

- [監視 [ 2 値 ] ]タブでは次の操作ができます。

[ 機器のプロパティ ]

機器単体の監視、制御項目等を表示します。

プロパティ表示させる機器の行をダブルクリックするか、右クリックしてポップアップメニューの [ プロパティ ] をクリックします。

[ 系統図 ]

一覧内で右クリックしてポップアップメニューの [ 系統図を開く ] をクリックします。同じノードの系統図が開きます。(すでに開いている場合は新た開きません。)

[ 一覧表示 ]

ノード内の機器の監視、制御項目等をノード毎に一覧表示します。

[ エラーの一覧 ]

現在発生しているエラーを一覧表示します。

一覧内で右クリックしてポップアップメニューの [ エラー一覧 ] をクリックします。

[ コピー ]

メニューバーの [ 編集 ] [ コピー ]、または一覧内で右クリックしてポップアップメニューの [ コピー ] をクリックします。一覧のテキストデータがクリップボードに取り込まれます。

[印刷]

1. メニューバーの [ファイル] [印刷] をクリックします。



2. 印刷の開始は[はい]、プリンタの設定は[設定... ]、キャンセルは[いいえ]をクリックします。

(6) ノード一覧・[監視 [数値]] タブについて

ノードアンプの監視 [数値] 情報を一覧表示します。

[表示概要]

A screenshot of a software window titled "ノード/系統一覧" (Node/System List). It has several tabs: "情報1", "情報2", "制御", "監視[2値]", and "監視[数値]". The "監視[数値]" tab is selected. The window contains a table with 7 columns: "ノード/系統名", "機器No.", "下り出力レベル", "AC電圧", "DC電圧", "筐体内温度", and "筐体内湿度". There are 5 rows of data, labeled NODE 1 through NODE 5. All values in the table are 0.00 with appropriate units.

ノード/系統名	機器No.	下り出力レベル	AC電圧	DC電圧	筐体内温度	筐体内湿度
NODE 1	0100	0.00 dB $\mu$ [00]	0.00 V [00]	0.00 V [00]	0.00 °C [00]	0.00 % [00]
NODE 2	0200	0.00 dB $\mu$ [00]	0.00 V [00]	0.00 V [00]	0.00 °C [00]	0.00 % [00]
NODE 3	0300	0.00 dB $\mu$ [00]	0.00 V [00]	0.00 V [00]	0.00 °C [00]	0.00 % [00]
NODE 4	0400	0.00 dB $\mu$ [00]	0.00 V [00]	0.00 V [00]	0.00 °C [00]	0.00 % [00]
NODE 5	0500	0.00 dB $\mu$ [00]	0.00 V [00]	0.00 V [00]	0.00 °C [00]	0.00 % [00]

[監視 [数値]] タブで確認できる項目

項目	説明
ノード/系統名	ノード名または系統名を表示します。
機器	機器 を表示します。
下り出力レベル	下りパイロット信号出力レベルを表示します。
A C 電源電圧	商用電源使用時の A C 電源電圧を表示します。
A C 電源電圧 (インバータ)	インバータ電源使用時の A C 電源電圧を表示します。
D C 電源電圧	D C 電源電圧を表示します。
筐体内温度	筐体内部の温度を表示します。
筐体内湿度	筐体内部の湿度を表示します。
光送信機 1 パワーモニタ	光送信機 1 の送信レベルを表示します。
光送信機 2 パワーモニタ	光送信機 2 の送信レベルを表示します。



光受信機 1 パワーモニタ	光送信機 1 の送信レベルを表示します。
光受信機 2 パワーモニタ	光受信機 2 の受光レベルを表示します。
R a w D C	ノードアンプに搭載している電源装置で給電電源を整流した直後の電圧を表示します。
電源電流	電源電流を表示します。

- 機種により制御可能な項目が異なります。
- カッコ内の数値は各監視 [ 数値 ] 情報の元になる 1 6 進値で、それぞれの項目に応じた表現に変換されて左の値となります。この数値は通信サーバーソフトの通信状況ウィンドウで表示される受信データの値と一致します。

- [監視 [ 数値 ] ]タブでは次の操作ができます。

#### [ 機器のプロパティ ]

機器単体の監視、制御項目等を表示します。

プロパティ表示させる機器の行をダブルクリックするか、右クリックしてポップアップメニューの [ プロパティ ] をクリックします。

#### [ 系統図 ]

一覧内で右クリックしてポップアップメニューの [ 系統図を開く ] をクリックします。同じノードの系統図が開きます。(すでに開いている場合は新た開きません。)

#### [ 一覧表示 ]

ノード内の機器の監視、制御項目等をノード毎に一覧表示します。

#### [ エラーの一覧 ]

現在発生しているエラーを一覧表示します。

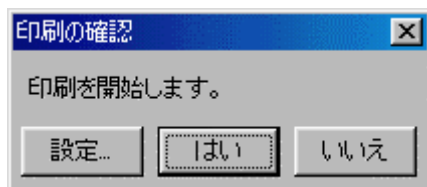
一覧内で右クリックしてポップアップメニューの [ エラー一覧 ] をクリックします。

#### [ コピー ]

メニューバーの [ 編集 ] [ コピー ]、または一覧内で右クリックしてポップアップメニューの [ コピー ] をクリックします。一覧のテキストデータがクリップボードに取り込まれます。

#### [ 印刷 ]

1. メニューバーの [ ファイル ] [ 印刷 ] をクリックします。



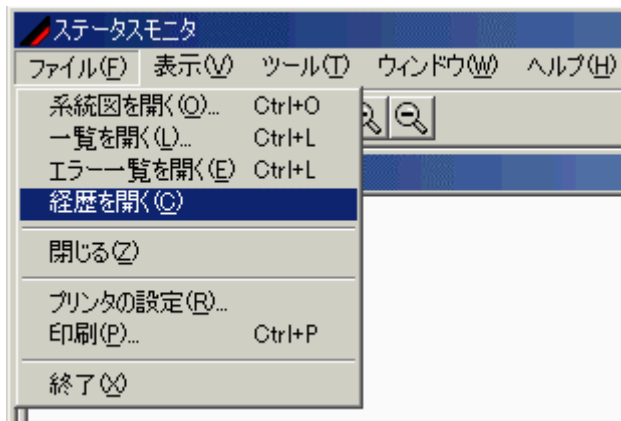
2. 印刷の開始は [ はい ]、プリンタの設定は [ 設定 ... ]、キャンセルは [ いいえ ] をクリックします。

## XI. 経歴

### (1) 経歴を表示する

#### [操作方法]

1. メニューバーの[ファイル] [経歴を開く]をクリック、またはツールバーの[経歴を開く]アイコンをクリックします。



すでに開いている場合は新たに表示されません。

### (2) 経歴について

各機器の経歴情報を一覧表示します。また、データの並べ替えも可能です。

内容を絞り込むなどの、より高度な経歴表示を行うには、経歴検索ソフトをお使いください。

#### [表示概要]

The image shows a screenshot of the '履歴' (History) window. It features a search filter set to '日付・時刻' (Date/Time) and buttons for '表示' (Display) and '検索' (Search). The main area contains a table with the following columns: ノード名 (Node Name), 機器No (Device No.), 項目 (Item), 状態 (Status), 日付 (Date), 時刻 (Time), 発生/曜日 (Occurrence/Day of Week), STM/機器 (STM/Device), STMアドレス (STM Address), and シリアル (Serial).

ノード名	機器No	項目	状態	日付	時刻	発生/曜日	STM/機器	STMアドレス	シリアル
	bra-0141desu	STMデータ伝送	無応答	2002/04/18	1713:32	発生	STM	3	
	TBRA6002	STMデータ伝送	無応答	2002/04/18	1700:00	発生	STM	9	
	TBRA6002	STMデータ伝送	無応答	2002/04/18	1659:56	発生	STM	8	
	ERA-0001	STMデータ伝送	無応答	2002/04/18	1659:52	発生	STM	7	
	OTR0002	STMデータ伝送	無応答	2002/04/18	1659:46	発生	STM	5	
	tbra0141	STMデータ伝送	無応答	2002/04/18	1659:43	発生	STM	2	tbra1
	otr-0002-1	STMデータ伝送	無応答	2002/04/18	1659:40	発生	STM	1	otr001
	BRAG002	STMデータ伝送	無応答	2002/04/18	1659:35	発生	STM	10	
	BRAG0141	STMデータ伝送	無応答	2002/04/18	1659:30	発生	STM	6	
		通信サーバーが起動しました。		2002/04/18	1659:23				
770MHz地直		通信サーバーを終了します。		2002/04/18	1125:59				
770MHz地直	FS6015	STMデータ伝送	無応答	2002/04/18	1124:12	発生	STM	11	

## 経歴で確認できる項目

項目	説明
ノード名	ノード名を表示します。
機器 No.	機器 No.を表示します。
項目	該当する項目を表示します。
状態	該当する状態を表示します。
日付	記録された日付を表示します。
時刻	記録された時刻を表示します。
発生 / 復旧	発生か復旧かを表示します。
STM / 機器	STMか機器かを表示します。
STMアドレス	STMユニットのアドレス No.を表示します。
シリアル	シリアル No.を表示します。

### [ 操作方法 ]

1. [表示]ボタンをクリックすると、経歴がリスト表示されます。

データベースで管理している経歴は最大1万件です。1万件に達するごとに古いものから100件削除されます。

- 経歴では次の操作ができます。

#### [ 一覧の並べ替え ]

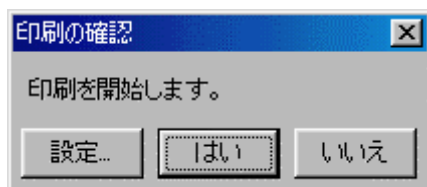
並べ替える項目をリストボックスから選択し、昇順 / 降順を選択してから、[表示]ボタンをクリックします。途中でやめる場合は、[キャンセル]ボタンをクリックします。

#### [ 一覧のコピー ]

メニューバーの[編集] [コピー]、または一覧内で右クリックしてポップアップメニューの[コピー]をクリックします。一覧のテキストデータがクリップボードに取り込まれます。

#### [ 一覧の印刷 ]

1. メニューバーの [ファイル] [印刷]をクリックします。



2. 印刷の開始は[はい]、プリンタの設定は[設定 ... ]、キャンセルは[いいえ]をクリックします。

### (3) 経歴を検索する

各機器の経歴情報を一覧表示します。また、データの並べ替えも可能です。

内容を絞り込むなどの、より高度な経歴表示を行うには、経歴検索ソフトをお使いください。

#### [ 表示概要 ]



ノード名	機器No	項目	状態	日付	時刻	発生/復旧	STM/機
	bra-8141desu	STMデータ伝送	無応答	2002/04/18	17:13:32	発生	STM
	TBRA5002	STMデータ伝送	無応答	2002/04/18	17:00:00	発生	STM

#### [ 操作方法 ]

1. [並べ替え][昇順/降順]を選択します。

項目	説明
並べ替え	並べ替える項目を下記から選択します。 <ul style="list-style-type: none"><li>日付・時刻</li><li>ノード名</li><li>機器</li><li>項目</li><li>状態</li><li>STMアドレス</li><li>シリアル</li><li>STM/機器</li><li>発生/復旧</li></ul>
昇順 / 降順	並べ替える順序を選択します。

2. [表示]ボタンをクリックすると、経歴がリスト表示されます。

データベースで管理している経歴は最大1万件です。1万件に達するごとに古いものから100件削除されます。

## XII. オプション

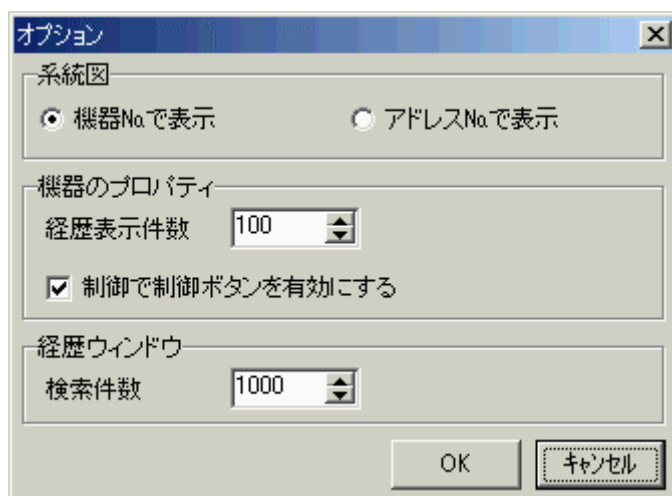
### (1) オプション設定を表示する

ステータスマニタのオプションを設定します。

#### [操作方法]

1. [ツール]メニューをクリックします。

2. [オプション]をクリックします。



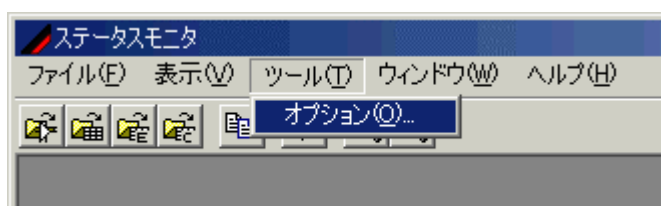
オプションで設定できる項目

- システム図 システム図内で機器の表示を機器 またはアドレス に設定します。
- 機器のプロパティ・履歴表示件数 システム図で[機器のプロパティ] [履歴]で表示される件数を設定します。
- 機器のプロパティ・制御で制御ボタンを有効にする [機器のプロパティ]の[制御]で制御ボタンを使って制御を行うかどうかを設定します。
- 履歴ウィンドウ・検索件数 履歴ウィンドウで検索する件数の上限を設定します。

(2)システム図内の機器 とアドレス の表示を切り換える

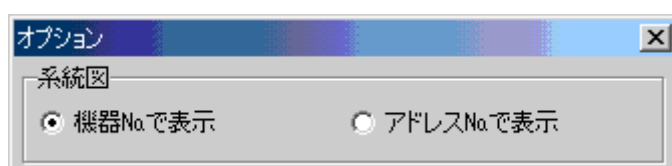
[操作方法]

1. [ツール]メニューをクリックし、[オプション]をクリックします。



2. [システム図]の[機器 表示]または[アドレス で表示]をクリックします。

3. [OK]ボタンをクリックします。



### (3) 機器のプロパティで表示される経歴件数を設定する

#### [操作方法]

1. [ツール]メニューをクリックし、[オプション]をクリックします。
2. [機器のプロパティ]の経歴表示件数を設定します。
3. [OK]ボタンをクリックします。



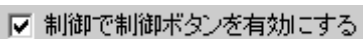
- 可変範囲は1～3000件です。

### (4) 制御で制御ボタンを有効にする

チェックを入れ有効にすると、機器の制御時に[制御]ボタンが表示され、ボタンを押した時点で制御が実行されるようになります。チェックをはずし無効にした場合は、[制御]ボタンは表示されず、制御の設定を変更するだけで制御が即実行されます。

#### [操作方法]

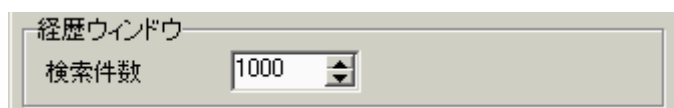
1. [ツール]メニューをクリックし、[オプション]をクリックします。
2. [機器のプロパティ]の[制御で制御ボタンを有効にする]チェックボックスを設定します。
3. [OK]ボタンをクリックします。



### (5) 経歴ウィンドウでの検索件数を設定する

#### [操作方法]

1. [ツール]メニューをクリックし、[オプション]をクリックします。
2. [経歴ウィンドウ]の検索件数を設定します。
3. [OK]ボタンをクリックします。



- 可変範囲は1～10000件です。

## XIII. ヘルプ

### (1) ヘルプを表示する

ステータスマニタのヘルプを表示します。

#### [操作方法]

1. [ヘルプ]メニューをクリックします。
2. [ステータスマニタのヘルプ]をクリックします。

### (2) バージョン情報を表示する

ステータスマニタのバージョン情報、著作権などを表示します。

#### [操作方法]

1. [ヘルプ]メニューをクリックします。
2. [バージョン情報]をクリックします。

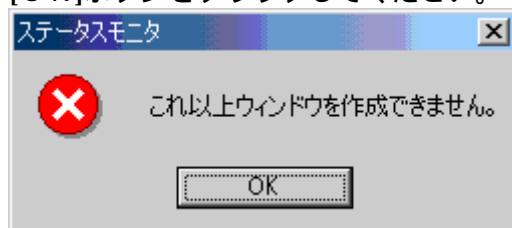
## XIV. ステータスマニタ・エラーメッセージ

### (1) これ以上ウィンドウを開くことができません

ウィンドウを11以上開くことはできません。

#### [操作方法]

1. [OK]ボタンをクリックしてください。



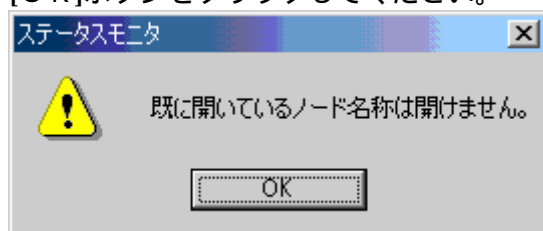
2. 表示中の系統図ウィンドウを閉じてください。

### (2) 指定したノード名称は存在しません

[開く]ダイアログボックスの一覧にないノード名称を開くことはできません。

#### [操作方法]

1. [OK]ボタンをクリックしてください。





# 経歴検索

## 1. 概要

### (1) 経歴検索について

経歴検索は、ステータスマニタセンターソフトの経歴情報を記録したデータベースから任意の条件でデータを検索し、表示および印刷するソフトです。

データベースで管理している経歴は最大1万件です。1万件に達するごとに古いものから100件削除されます。

[概観図]

The screenshot shows the '経歴検索' (History Search) application window. The window title is '経歴検索 - [検索結果] - [サーバー:keroende, センター:6F]'. The interface includes a menu bar (ファイル(F), 表示(V), ヘルプ(H)), a toolbar with icons for file operations, and a search form. The search form has three conditions (条件1, 条件2, 条件3) with dropdown menus for search fields (検索フィールド), operators (演算子), and search strings (検索文字列). A '検索開始' (Search Start) button is present. Below the search form is a table with columns: 機器No., 機器アドレス, シリアルNo., 項目, and 状態. The table shows 10 rows of data. At the bottom, a status bar displays '154 件見つかりました。' (154 items found), 'データ件数 154' (Data count 154), and '2002/04/05'.

	機器No.	機器アドレス	シリアルNo.	項目	状態
1				通信サーバーが起	
2				通信サーバーが起	
3				通信サーバーが起	
4	A-1	1		ALC電圧	17.95 V
5	A-1	1		ALC電圧	21.70 V
6	A-1	1		ALC電圧	17.95 V
7	A-1	1		ALC電圧	21.23 V
8	A-1	1		ALC電圧	17.83 V
9	A-1	1		ALC電圧	20.06 V
10	A-1	1		ALC電圧	17.83 V

### (2) 検索の基本操作

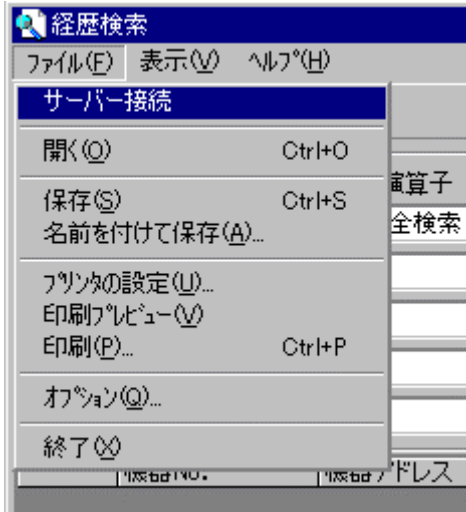
1. [サーバー接続]で、データベースが登録されているサーバーのコンピュータ名を入力して[接続]ボタンをクリックします。次に表示されるサブセンター一覧から、検索対象のサブセンターを選択します。
2. [検索の条件]で検索対象となるフィールドと、検索する文字列を指定します。
3. [検索開始]ボタンをクリックすると、検索結果が表示されます。

## II. 操作の詳細

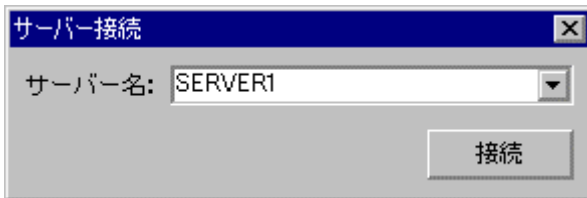
### (1) サーバー接続

#### [操作方法]

1. メニューバーの[ファイル] [サーバー接続]を選択します。



2. 設定画面が表示されるので、データベースがあるサーバーのコンピュータ名を入力するか、以前に接続したコンピュータ名がドロップダウンリストに登録されているので、その中から選択します。
3. サーバーのコンピュータ名を設定し終わったら[接続]ボタンをクリックします。



#### [ヒント]

サーバーの接続でコンピュータ名がわからない場合は次のようにして確認することができます。

1. データベースサーバーが設置されているコンピュータのデスクトップ、またはエクスプローラ上にある[マイ コンピュータ]アイコンを右クリックして、ポップアップメニュー内の[プロパティ]を選択します。
  2. [システムのプロパティ]画面が表示されるので[ネットワーク ID]タブを選択すると、[フル コンピュータ名]のところに表示されている名称がコンピュータ名になります。
- 一度入力したコンピュータ名はドロップダウンリストに登録されるので、次回からは入力しなくてもリストから選択できるようになります。

4. 無事サーバーに接続されると、続いてサブセンターの選択画面になります。
5. サブセンター一覧から検索対象のサブセンターを選択し、[選択]ボタンをクリックします。



## (2) 検索の条件

検索の条件は1～3まで設定することができます。条件2と条件3はチェックを入れることで設定が可能となります。

	検索フィールド	演算子	検索文字列
条件1	機器No.	=	A-1
<input checked="" type="checkbox"/> 条件2	項目	AND ワイルドカード*	A*
<input checked="" type="checkbox"/> 条件3	状態	AND >=	17.9

### [ 検索フィールド ]

検索対象となるフィールドを指定します。

### [ 演算子 ]

演算子は条件と条件、あるいは検索フィールドと検索文字列間の演算条件を指定します。

- 条件と条件の間で指定可能な演算子  
AND、OR
- 検索フィールドと検索文字列の間で指定可能な演算子  
=、<>、>、<、>=、<=、ワイルドカード、全検索(条件1でのみ指定可能)

### [ 検索文字列 ]

検索する文字列を入力します。

### [ 注意 ]

演算子に「ワイルドカード」を指定した場合は、「\*文字列\*」、あるいは「文字列\*」のみ、設定可能です。  
それ以外を設定した場合は、エラーとなります。

[ ヒント ]

全検索で検索を行った場合は検索文字列、および条件 2 と条件 3 の設定は無効になります。

詳細な指定方法は[検索条件の設定例](#)をご覧ください。

(3) 検索の開始

- [検索開始]ボタンをクリックすると、[サーバーの接続]で設定したサーバーにあるデータベースから、[検索の条件]で設定した条件で検索が開始されます。
- 条件と一致したデータが見つかったら、検索結果が表示されます。

[ 注意 ]

[サーバーの接続]で設定を行っていない場合は、[検索開始]ボタンが押せない状態になっています。[サーバーの接続]でサーバーに接続してからこの操作を行ってください。

(4) データの並べ替え

[ 操作方法 ]

1. 並べ替えの対象となるフィールド列をクリックして選択します。
2. [昇順]ボタンをクリックすると昇順に、[降順]ボタンをクリックすると降順にデータが並べ替えられます。

[ ヒント ]


- 対象となるフィールド列をダブルクリックしても同様にデータの並べ替えができません。この場合、ダブルクリックするたびに昇順と降順が切り替わります。

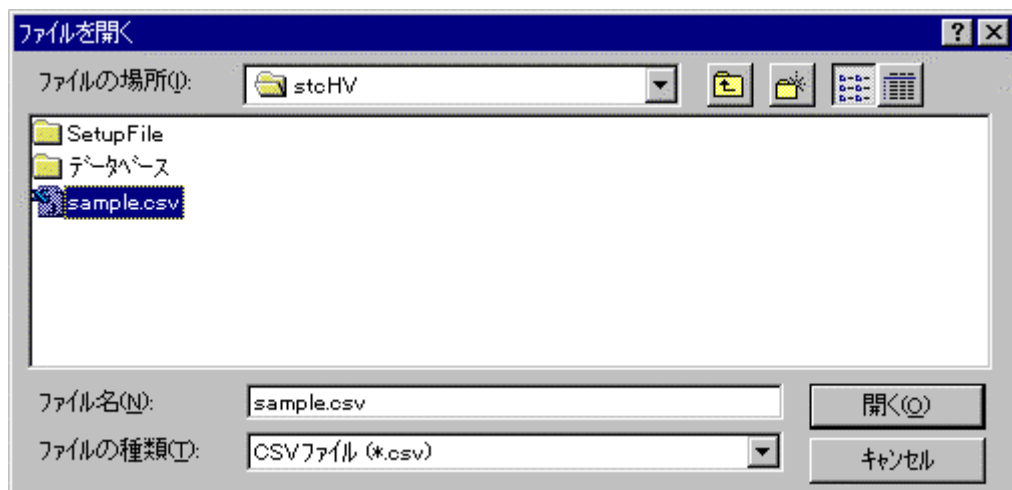
(5) ファイル操作

ファイルを開く

以前に保存した検索ファイルを開きます。

[ 操作方法 ]

1. メニューバーの[ファイル]-[開く]または、ツールバーのをクリックします。
2. ダイアログが開きますので、ファイルを選択し、[開く]をクリックします。




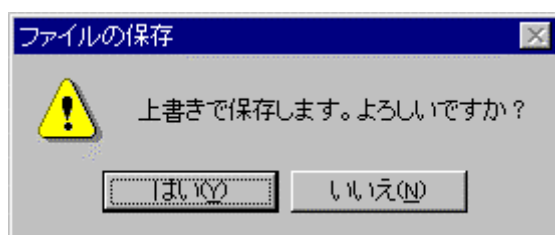
## 上書き保存

検索ファイルを上書き保存します。一度も保存していない検索結果の場合は[名前をつけて保存]と同じ操作になります。

ファイルは CSV 形式で保存されるので、CSV 形式に対応した他のアプリケーションでも開くことができます。

### [操作方法]

1. メニューバーの[ファイル]-[保存]または、ツールバーのをクリックします。
2. 確認のメッセージが表示されますので、[はい]をクリックします。
3. 2で[いいえ]をクリックした場合は、[名前をつけて保存]と同じ操作になります。

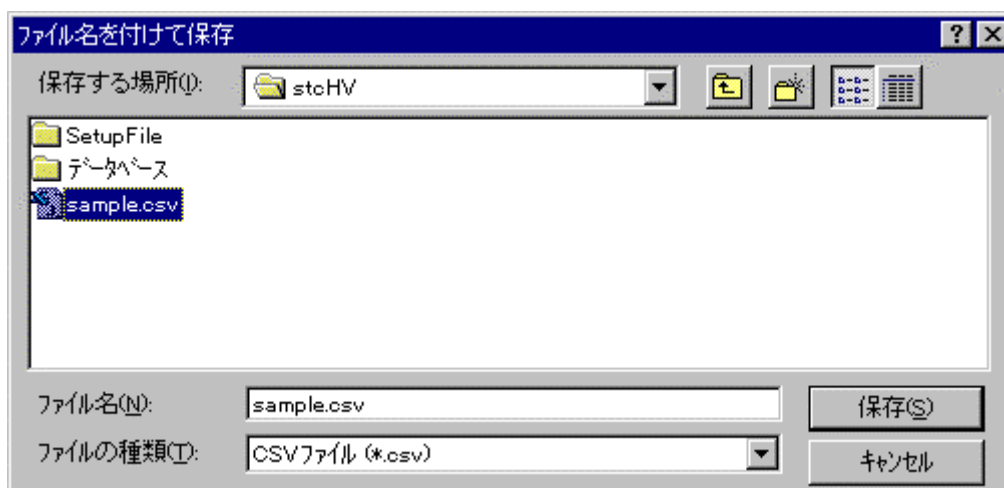


## 名前をつけて保存

検索ファイルの名前を変更して保存する場合、または一度も保存していない検索結果の場合はこの操作になります。ファイルは CSV 形式で保存されるので、CSV 形式に対応した他のアプリケーションでも開くことができます。

### [操作方法]

1. メニューバーの[ファイル]-[名前をつけて保存]をクリックします。
2. ダイアログが開きますので、ファイル名を入力し、[保存]をクリックします。



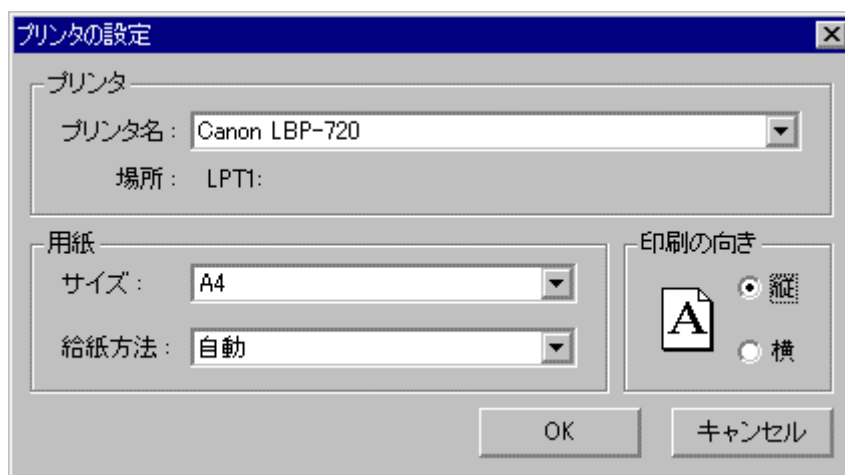
## (6)印刷

### プリンタの設定

印刷するプリンタの設定をします。

#### [操作方法]


1. メニューバーの[ファイル]-[プリンタの設定]をクリックします。
2. ダイアログが開きますので、各設定をし、[OK]をクリックします。

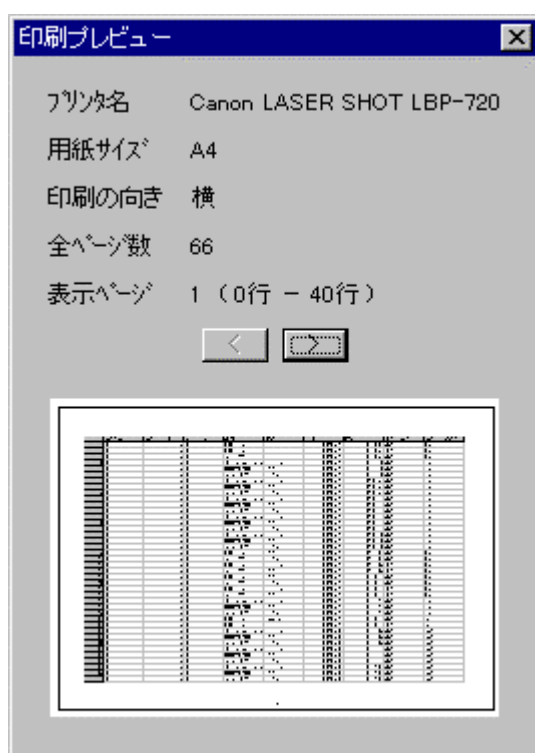


## 印刷プレビュー

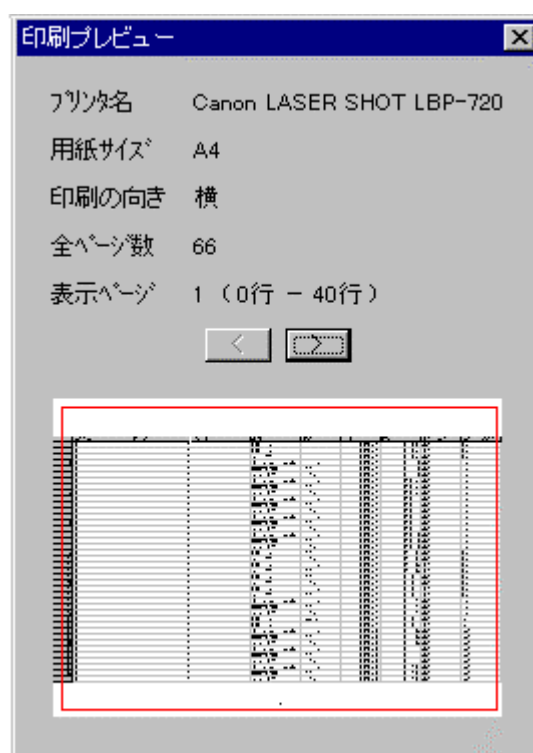
印刷結果のイメージをプレビューします。プレビュー画面には印刷設定の内容と1ページ分の印刷イメージが表示されます。印刷イメージには印刷可能な領域を表す枠と印刷内容が表示されます。印刷領域枠は通常黒色で表示されますが、印刷内容が印刷領域を超えているときは赤色となります。用紙のサイズを変更するか表の幅を調節するなどして枠内におさまるようにしてください。

### [ 操作方法 ]

1. メニューバーの[ファイル]-[印刷プレビュー] または、ツールバーのをクリックします。
2. [ < ] または、 [ > ] ボタンをクリックするとページを切り替えることができます。



印刷領域内におさまっている場合




印刷領域を超えている場合

## 印刷

検索結果をプリントアウトします。

### [操作方法]

1. メニューバーの[ファイル]-[印刷] または、ツールバーのをクリックします。
2. ダイアログが開きますので、[印刷範囲]を指定し、[印刷]をクリックします。

### [ヒント]

- [プレビュー]をクリックすると[印刷プレビュー]が表示されるので、印刷結果のイメージを確認できます。





## (7) オプション

### [ 印刷 ]

- 印刷結果に[とじしろ]、および[ページ番号]を付加するかどうかを設定します。
- チェックがはいつているとき有効です。

### [ 検索 ]

- 検索件数の上限を設定します。上限を設けることで、検索に時間がかかるのをふせぎます。可変範囲は 1000 ~ 20000 件です。
- 検索件数が上限を超えるとメッセージが表示され、検索が途中で終了します。その場合は [ 検索の条件 ] でデータをしぼりこむか、検索件数の上限を変えるか、もしくはデータベースファイルを減らしてください。

### [ 操作方法 ]

1. メニューバーの[ファイル]-[オプション]をクリックします。
2. ダイアログが開きますので、各設定をし、[OK]をクリックします。

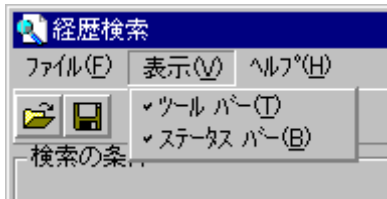


(8)表示

ツールバーまたは、ステータスバーの表示、非表示を切り替えます。チェックされているとき、表示が選択されます。

[操作方法]

1. メニューバーの[表示]をクリックします。
2. [ツールバー]または、[ステータスバー]をクリックするとチェック、非チェックを切り替えることができます。



(9)検索条件の設定例

- 全検索の場合

	検索フィールド	演算子	検索文字列
条件 1	どれを指定しても OK	全検索	

- 機器 No.が「A-1」と機器 No.が「A-3」の場合

	検索フィールド	演算子	検索文字列
条件 1	機器 No.	=	A-1
		OR	
条件 2	機器 No.	=	A-3

- 機器 No.が「A-1」で、日付が「2002年3月以降」の場合

	検索フィールド	演算子	検索文字列
条件 1	機器 No.	=	A-1
		AND	
条件 2	日付	> =	2002/03

- 機器 No.が「B-...」で、項目が「ALC 電圧」で、状態が「20V 以上」の場合

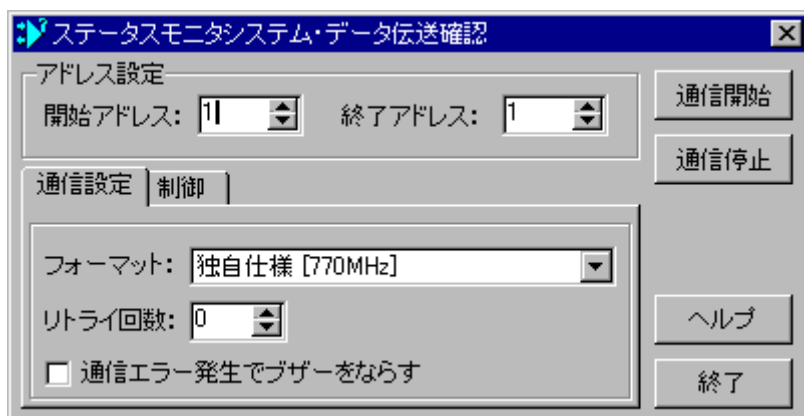
	検索フィールド	演算子	検索文字列
条件 1	機器 No.	ワイルドカード	B-*
		AND	
条件 2	項目	=	ALC 電圧
		AND	
条件 3	状態	> =	20

# データ伝送確認

## 1. 概要

データ伝送確認プログラムは、ステータスマニタユニットとの通信状況を確認するソフトです。

[ 概観図 ]



### (1) 注意

データ伝送確認プログラムを起動するときは、次の事項に注意してください。  
通信サーバーおよび、ステータスマニタが起動中に動作させないでください。  
( 正常な通信が行われません。 )

## II. 使用方法

### (1) 起動する

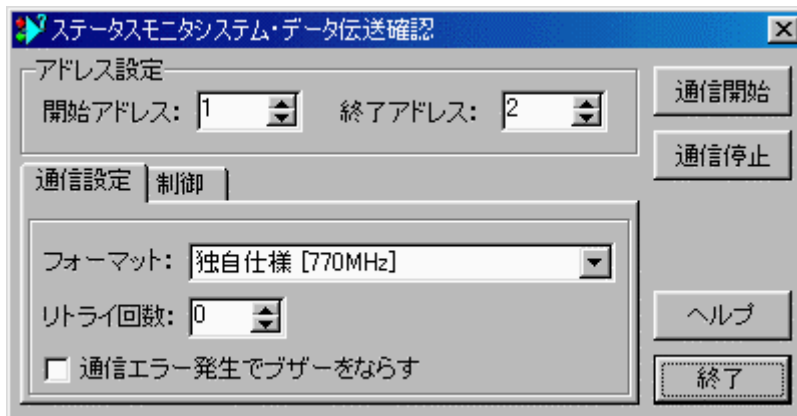
#### [操作方法]

1. [スタート]ボタンをクリックし、[プログラム][ステータスマニタセンターソフト]をポイントして、[データ伝送確認]をクリックします。

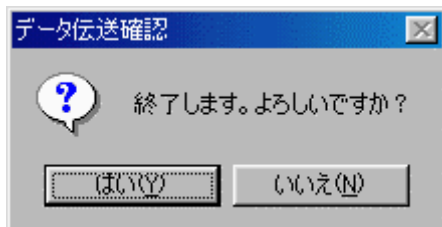
### (2) 終了する

#### [操作方法]

1. [終了]ボタンをクリックします。



2. [終了します。よろしいですか? ]と表示されますので、終了する場合は[はい]を、終了しない場合は[いいえ]をクリックします。



### (3) 回線の設定

ステータスマニタユニットとの通信について設定します。

#### [操作方法]

1. タスクバーのトレイ (画面右下・時計横) 上の[ステータスマニタアイコン]へ、マウスを移動します。



2. 右クリックして[ポップアップメニュー]を表示し、[回線設定]をクリックします。



3. [回線の設定]ダイアログボックスを表示します。



[ 通信ポート ]

どちらのRS232Cポートに、770MHz / 450MHzそれぞれのRFモデムがつながっているか設定します。設定できるポートはCOM1からCOM4です。

[ 送信件数 ]

1秒間にステータスマニタユニットを呼び出す件数を設定します。設定は1から15件です。

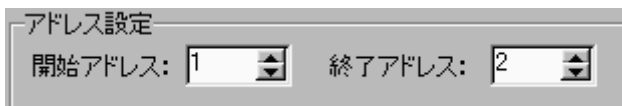
[ ランプを点滅させる ]

通信に応じてタスクバーのトレイでアイコンを点滅させるかどうか設定します。

(4) アドレスを設定する

[ 操作方法 ]

[開始アドレス][終了アドレス]の各テキストボックスに、ステータスマニタユニットと通信するアドレスを入力します。



[ ヒント ]

- [開始アドレス]から[終了アドレス]までのユニットと通信します。
- アドレスは1～9999の範囲で入力します。
- [開始アドレス] [終了アドレス]の設定をすると[開始アドレス]のみ通信を行います。
- 通信中にアドレスを変更するときは、変更後[通信開始]をクリックしてください。

(5) データフォーマットを選択する

[操作方法]

1. [通信設定]タブを選択します。
2. フォーマットコンボボックスから、伝送するフォーマットを選択します。



[ヒント]

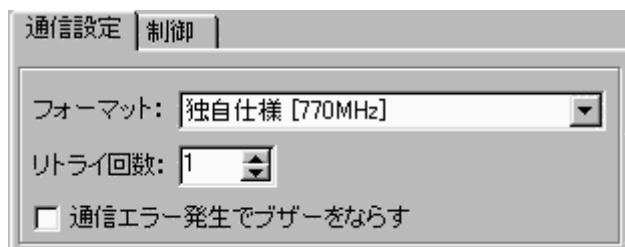
- 通信中にフォーマットを変更するときは、変更後[通信開始]をクリックしてください。

(6) リトライ回数を設定する

ステータスマニタユニットとの通信で、何らかのエラーが発生した場合に、もう一度同じステータスマニタユニットを呼び出す回数を設定します。

[操作方法]

1. [通信設定]タブを選択します。
2. リトライエディットボックスに、リトライする回数を設定します。



[ヒント]

- リトライ回数は、0 から 9 までの値を設定します。
- 通信中にリトライ回数を変更するときは、変更後[通信開始]をクリックしてください。

### (7) 通信エラー発生でブザーを鳴らす

ステータスマニタユニットとの通信で、何らかのエラーが発生した場合に、ブザー音を鳴らすかどうかを設定します。

#### [ 操作方法 ]

1. [通信設定]タブを選択します。
2. ブザーを鳴らすときは、[通信エラー発生でブザーをならす]チェックボックスをチェックします。



#### [ ヒント ]

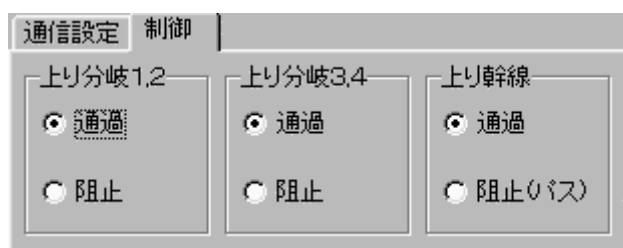
通信中にチェックボックスを変更するときは、変更後[通信開始]ボタンをクリックしてください。

### (8) 上り分岐増幅部制御を設定する

[アドレス設定]で指定している機器に対して、上り分岐増幅部の制御データを送信します。

#### [ 操作方法 ]

1. [制御]タブを選択します。
2. [上り分岐 1, 2]グループボックスまたは、[上り分岐 3, 4]グループボックスで、[通過] / [阻止]を選択してください。



#### [ ヒント ]

- 通信中に上り分岐増幅部制御を変更するときは、変更後[通信開始]をクリックしてください。
- [上り分岐 1, 2]の制御の設定で[上り分岐 3, 4]の制御も同時に行われるアンブがありますが、その場合は[上り分岐 3, 4]の設定は無視されます。

(9) 上り幹線増幅部制御を設定する

[アドレス設定]で指定している機器に対して、上り幹線増幅部の制御データを送信します。

[操作方法]

1. [制御]タブを選択します。
2. [上り幹線]グループボックスで、[通過] / [阻止]を選択してください。



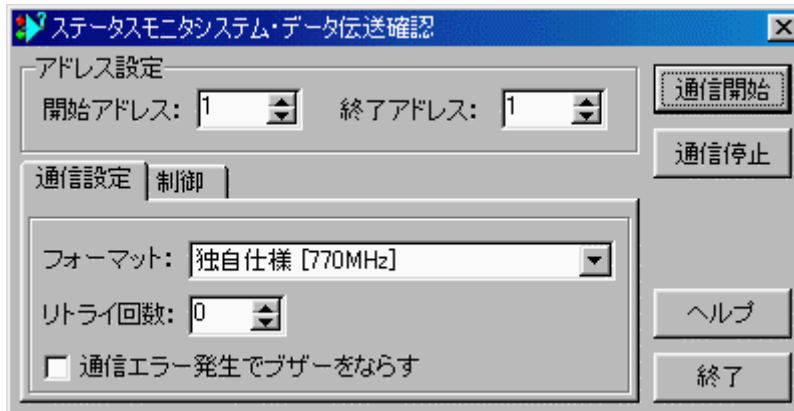
[ヒント]

- 通信中に上り幹線増幅部制御を変更するときは、変更後[通信開始]をクリックしてください。

(10) 通信を開始する

[操作方法]

1. [通信開始]ボタンをクリックします。



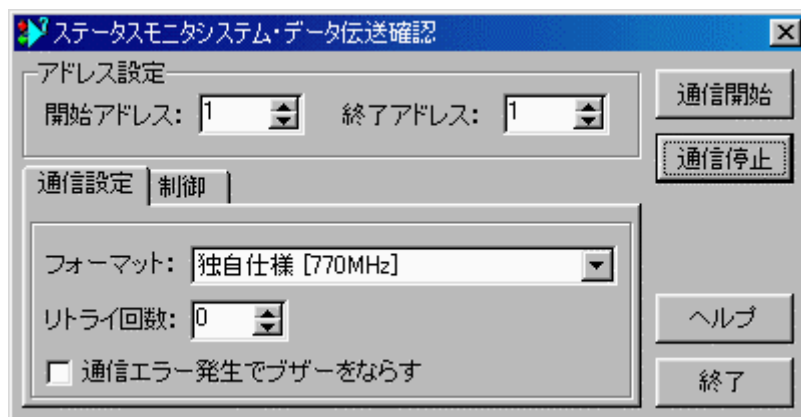
[通信設定][制御]タブで設定された内容を有効にして、通信を開始します。



(11) 通信を停止する

[操作方法]

1. [通信停止]ボタンをクリックします。



通信を停止します。

(12) 通信状況ウィンドウを表示する

ステータスマニタユニットとの通信状況を表示します。

[操作方法]

1. タスクバーのトレイ（画面右下・時計横）上の[ステータスマニタアイコン]へ、マウスを移動します。



2. 右クリックして[ポップアップメニュー]を表示し、[通信状況]をクリックします。



3. [通信状況ウィンドウ]を表示します。

[ ヒント ]

- [ステータスマニタアイコン]は、ステータスマニタユニットとの通信状況を表示し、[水色]のランプが点灯しているときは送信中、[緑]のランプが点灯しているときは受信中です。

(13) 通信の状況を確認する

通信状況ウィンドウで、ステータスマニタユニットとのデータ伝送状態を表示します。1行で、1つのアドレスに対する送受信データを表示し、各列の左から[アドレス][送信データ][受信データ][エラー]を表示します。

アドレス	送信データ	受信データ	エラー
0001	FE 10 00 01 00 EF	FE A0 00 01 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 5F	
0001	FE 10 00 01 00 EF	FE A0 00 01 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 5F	
0001	FE 10 00 01 00 EF	FE A0 00 01 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 5F	
0001	FE 10 00 01 00 EF	FE A0 00 01 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 5F	
0001	FE 10 00 01 00 EF	FE A0 00 01 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 5F	
0001	FE 10 00 01 00 EF	FE A0 00 01 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 5F	
0001	FE 10 00 01 00 EF	FE A0 00 01 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 5F	
0001	FE 10 00 01 00 EF	FE A0 00 01 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 5F	
0001	FE 10 00 01 00 EF	FE A0 00 01 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 5F	
0001	FE 10 00 01 00 EF	FE A0 00 01 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 5F	
0001	FE 10 00 01 00 EF	FE A0 00 01 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 5F	
0001	FE 10 00 01 00 EF	FE A0 00 01 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 5F	
0001	FE 10 00 01 00 EF	FE A0 00 01 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 5F	
0001	FE 10 00 01 00 EF	FE A0 00 01 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 5F	
0001	FE 10 00 01 00 EF	FE A0 00 01 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 5F	
0001	FE 10 00 01 00 EF	FE A0 00 01 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 5F	

[ 操作方法 ]

[ ファイルメニュー・閉じる ]

通信状況ウィンドウを閉じます。

[ オプション・表示開始 ]

一時停止中の通信状況を表示開始します。

[ オプション・表示停止 ]

メニュー通信状況表示を一時停止するときに選択します。

[ オプション・エラーが発生したら表示停止する ]

ステータスマニタユニットとの通信で何らかのエラーが発生したときに表示を一時停止します。

通信状況を一時停止してもステータスマニタユニットとの通信は停止しません。

